

TVアニメ「BanG Dream! It's MyGO!!!!!」official guidebook

FOOTPRINTS



BanG
dream!
It's MyGO!!!!! ★



TVアニメ「**BanG Dream! It's MyGO!!!!!**」official guidebook

FOOTPRINTS



CONTENTS

CHARACTER PROFILE

006	高松 燈
010	千早愛音
014	要 楽奈
018	長崎そよ
022	椎名立希

LOOKING BACK

028	ストーリー
057	インタビュー [監督：柿本広大×高松 燈役：羊宮妃那]
064	ライブパート
087	インタビュー [監督：柿本広大×絵コンテ・演出：梅津朋美]

MODEL SHEETS

094	三角初華
096	若葉 睦
098	八幡海鈴
100	祐天寺にゃむ
102	豊川祥子

美術設定

その他

がっ にち ようび ()

CHAPTER #1

CHARACTER PROFILE



迷うことを迷わない



**Bang
dream!**
It's MyGO!!!!★

mygo!!!

*Tomori
Takamatsu*



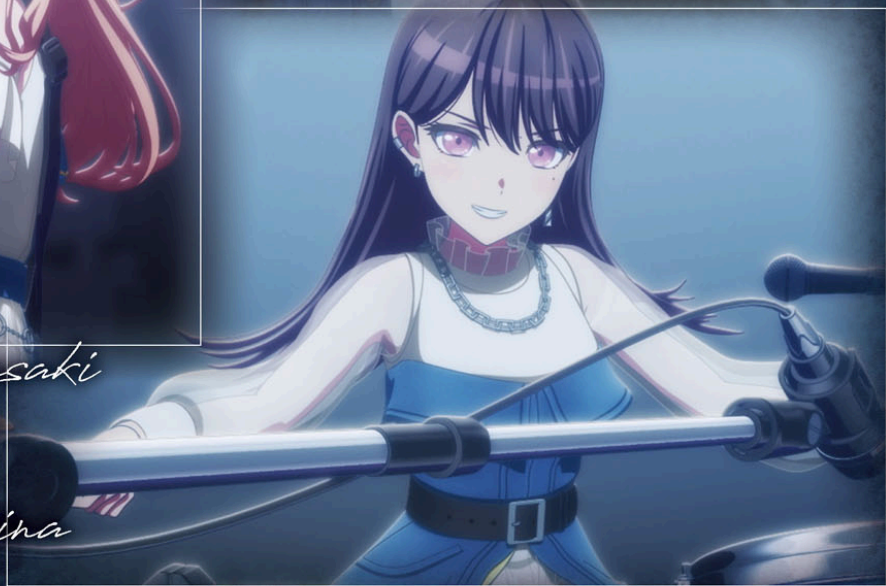
Anon Chihaya

Rana Kaname

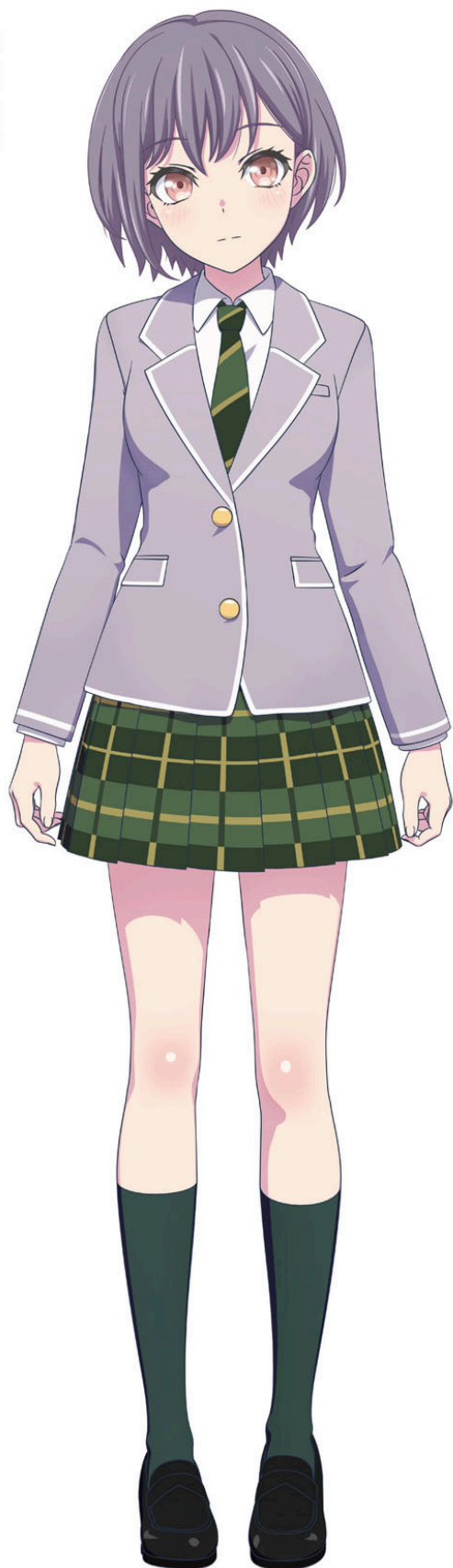


Soyo Nagasaki

Taki Shiina



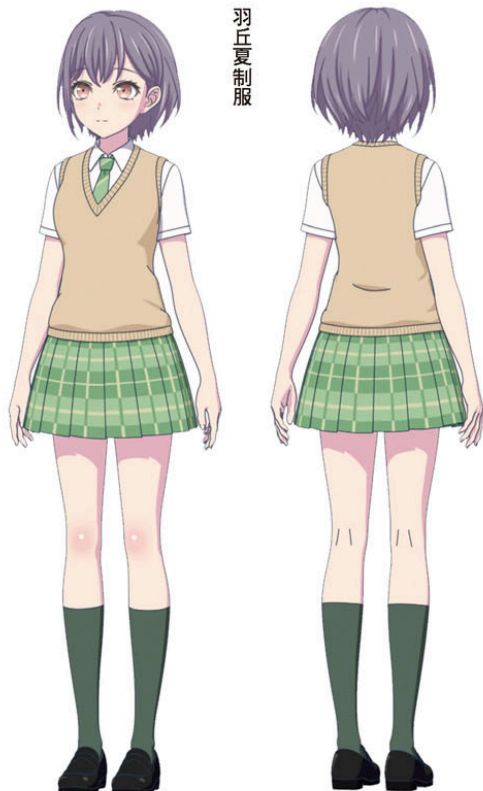
羽丘秋冬制服



たかまつ
高松
Tomori Takamatsu
燈
ともり
CV: 羊宮妃那
ようみやひな
Vo. 



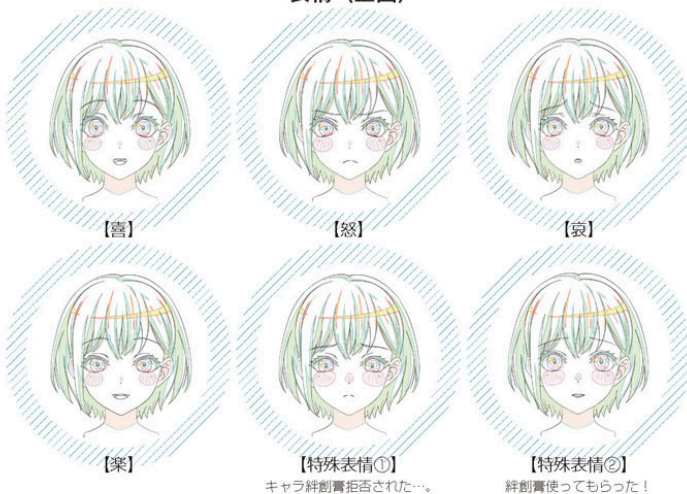
羽丘夏制服



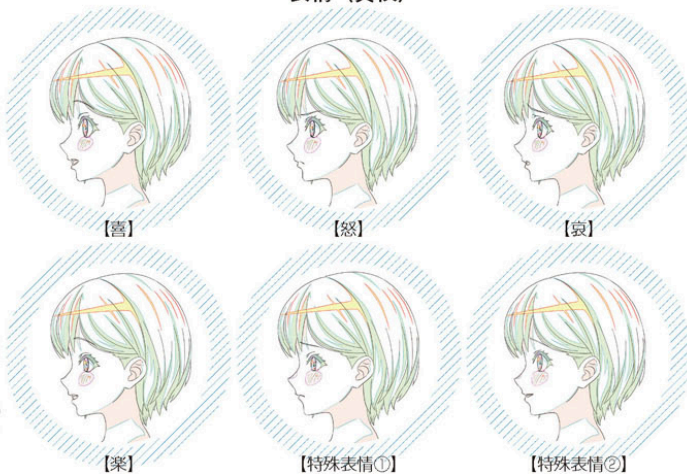
羽丘女子学園の高校1年生。物事の感じ方が周りとはズれている、「羽丘の不思議ちゃん」。気に入ったものを集めるのが好きで、道に落ちた石や葉っぱをよく拾っている。

学校	羽丘女子学園
学年	高校1年生
誕生日	11月22日
星座	蠍座
好きな食べ物	金平糖、味付けのり、ぶりかけ
嫌いな食べ物	生卵、いくら、たらこ
趣味	好きなものの集め(石、絆創膏、きれいな葉っぱなど)

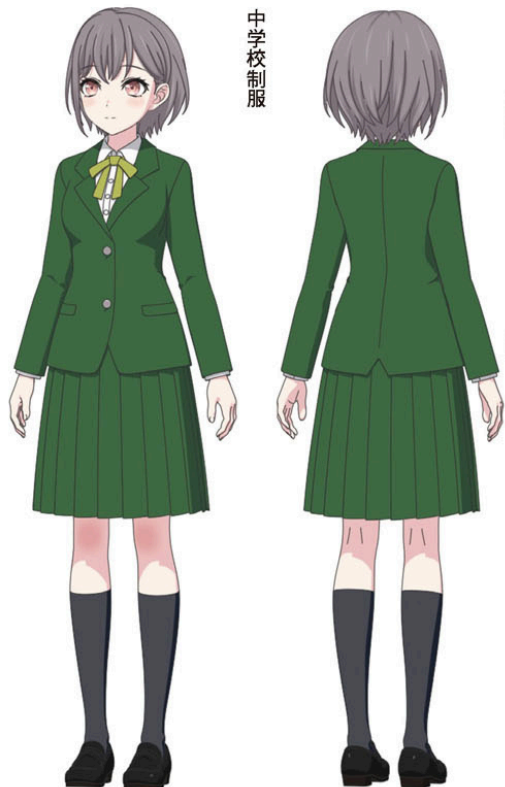
表情 (正面)



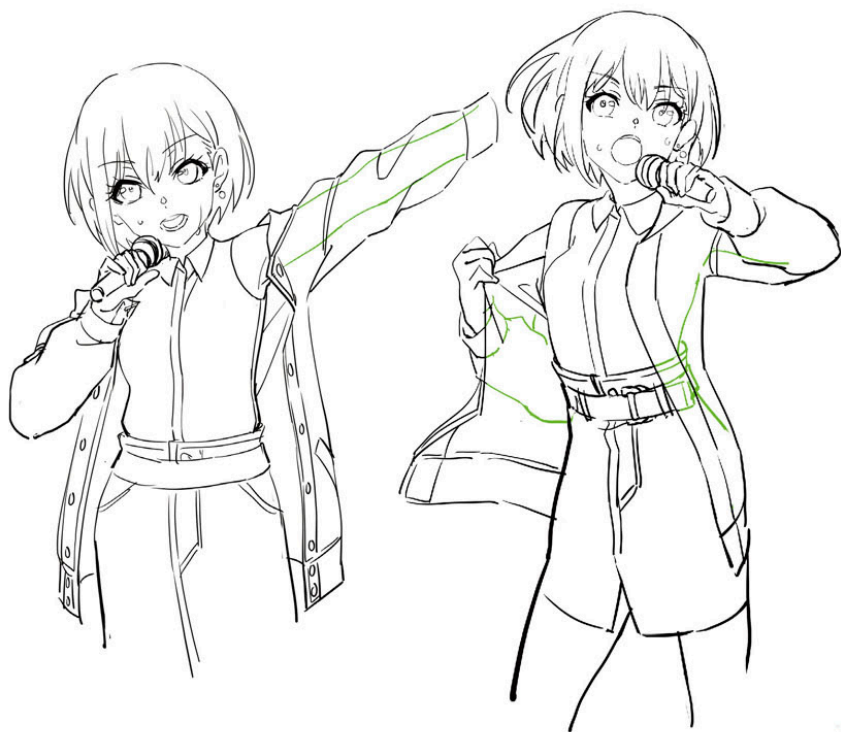
表情 (真横)



中学校制服

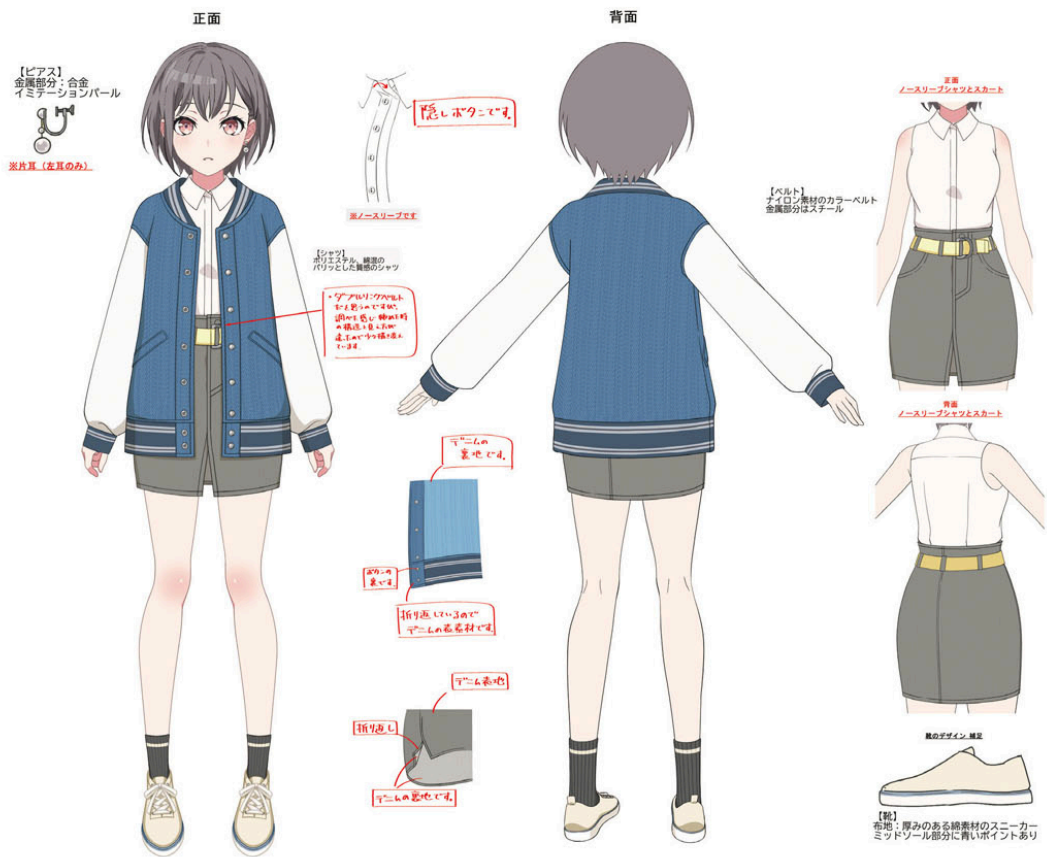


ライブ衣装



CHARACTER PROFILE

キャラクター設定資料



私服



羽丘秋冬制服



千早 愛音
ち は や あ の ん

Anon Chihaya

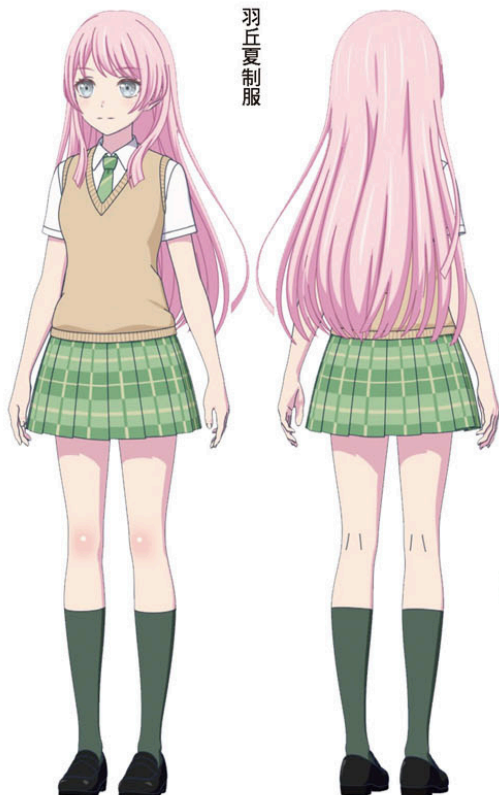
C.V. 立石 凜
たていし りん



CHARACTER PROFILE

キャラクター設定資料

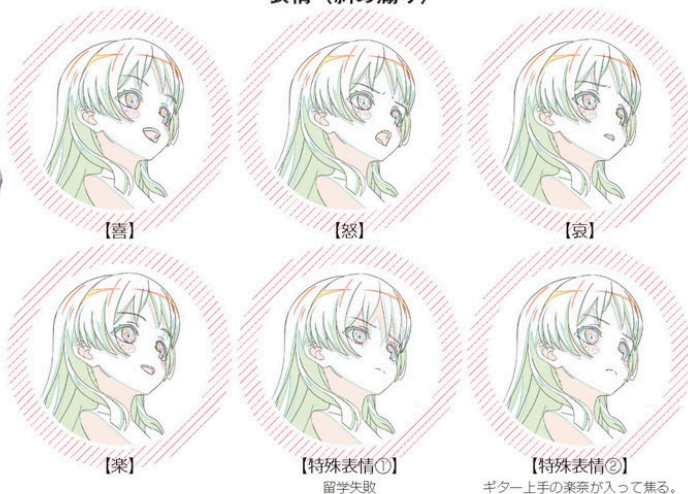
羽丘夏制服



羽丘女子学園の高校1年生。成績優秀でコミカと行動力があり、中学時代はクラスの人気者で、生徒会長も務めていた。ミーハーな性格で流行っているものに手を出しがち。

学校	羽丘女子学園
学年	高校1年生
誕生日	9月8日
星座	乙女座
好きな食べ物	フルーツサンド、スモークサーモン
嫌いな食べ物	梅干し
趣味	美容系動画のチェック

表情（斜め振り）



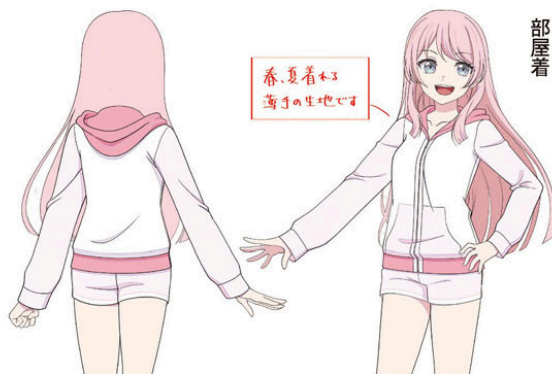
表情（真横）



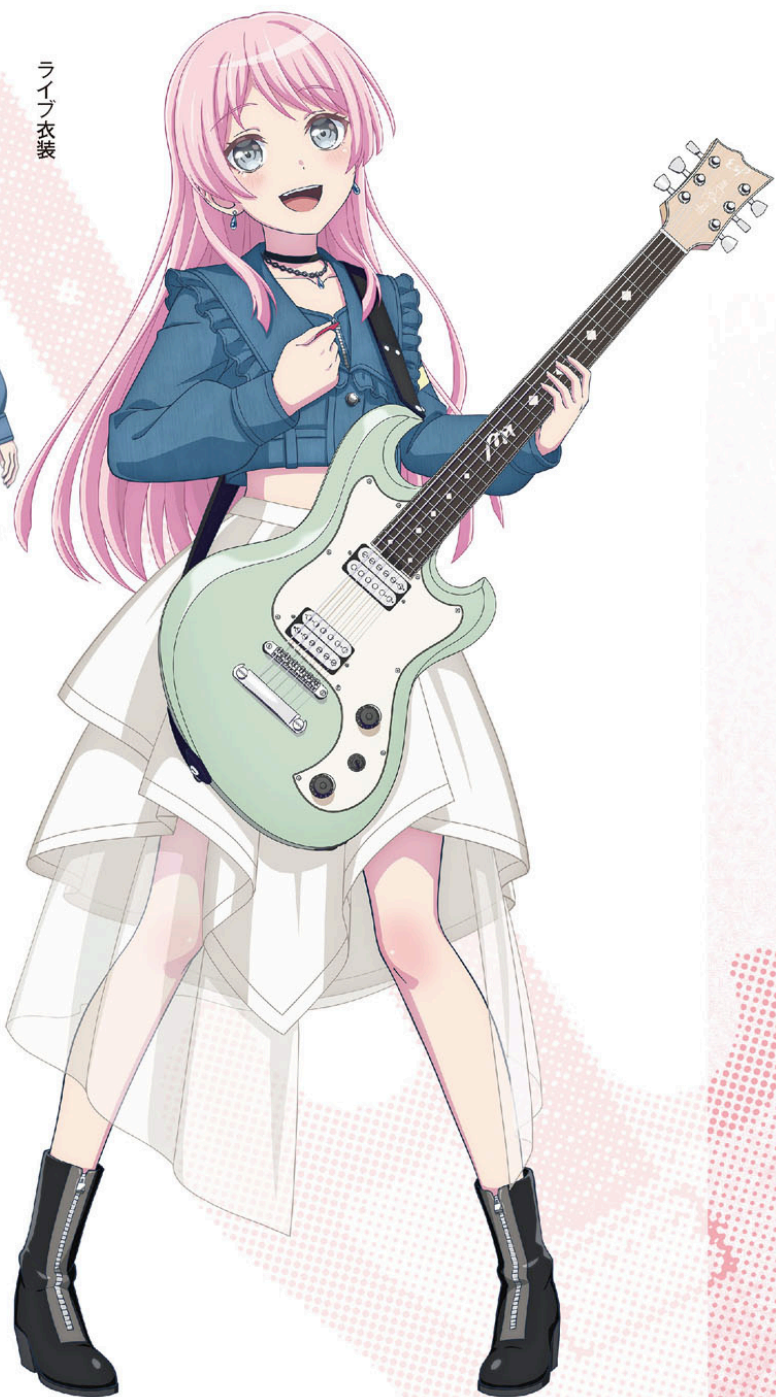
中学校制服



部屋着



ライブ衣装



【ピアス】
金環部分・含金
しずく型部分：樹脂



リボン



インナー服
シムールスエードカラー



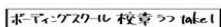
「着た瞬間に」
透け美観です。



スリット 膝上



「ブーツ」
ややタイトな形のレザーブーツ
ラドシール部分はゴ
ラドシール部分はアイロン粘地素材



・牧章解説

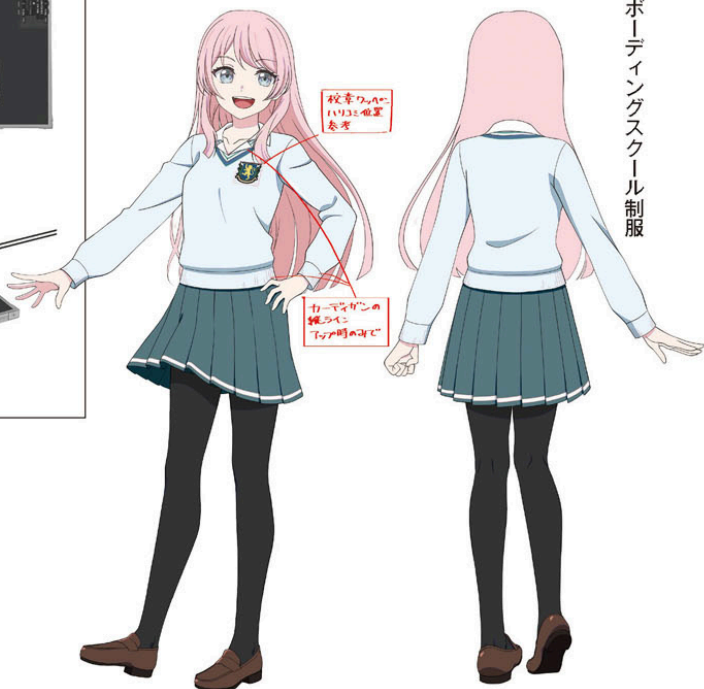
· 配色 ·

符号は既述の規則(2.2)に照応した色で表され、 α は、
 最初の1は「金・黄・銀」の「金」色、
 「金」は、「金」色、と綴る1本に2本。

・ライオン(金色)

「さあ、早く始めよう。」

・ゴリ
「さあ、早く始めよう。」



ボーディングスクール制服

校章のついでに
ハリゴと位置
参考

カーデザイナーの
横ライン
アップ時のみで



花咲川中等部秋冬制服



かなめ
Rana Kaname
要楽奈
らーな
CV: 青木陽菜
あおき ひな
Gt.



CHARACTER PROFILE

キャラクター設定資料

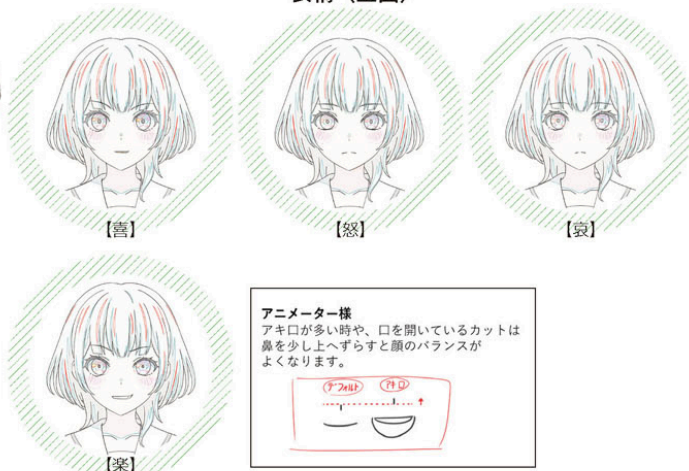
私服



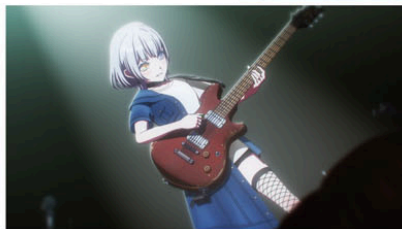
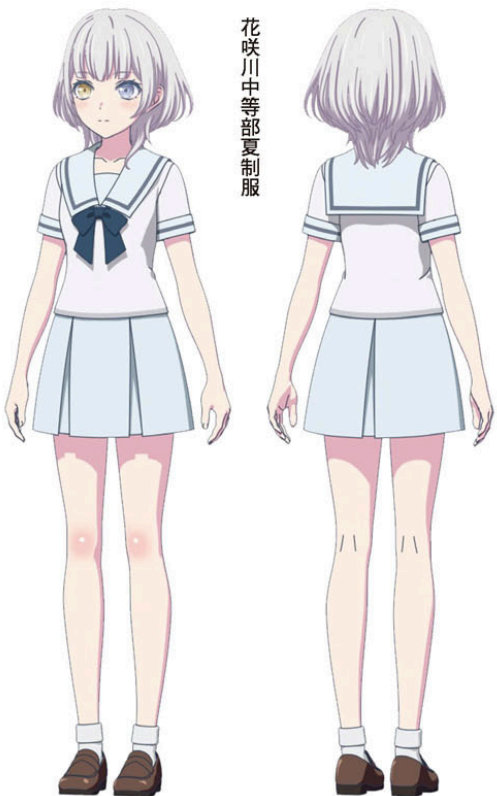
花咲川女子学園の中学3年生。ライブハウス『RING』に神出鬼没に現れるエキセントリックガール。ギターの実力はかなりのもの。好きなものは好き、嫌いなものは嫌いとはっきりしている。抹茶が好き。

学校	花咲川女子学園
学年	中学3年生
誕生日	2月22日
星座	魚座
好きな食べ物	抹茶、そば
嫌いな食べ物	ニラ、とろろ
趣味	ねこと遊ぶこと

表情（正面）



花咲川中等部夏制服



CHARACTER PROFILE

キャラクター設定資料



ライブ衣装



基本設定
メーカー ESP
カスタムモデル POTBELLY
※スピック
ボディ (塗装) 350R
SCALE (ネック長さ) 635mm
NEI (ナット) 3mm 300-3000mm (3mm)
FRET (フレット数) 22 (ESP FRETLESS NEI 22 frets)
拾音 (ピックアップ) Set-neck



月ノ森秋冬制服



ながさき
長崎

Soyo Nagasaki

CV: 小日向美香
こひなたみか

Ba.





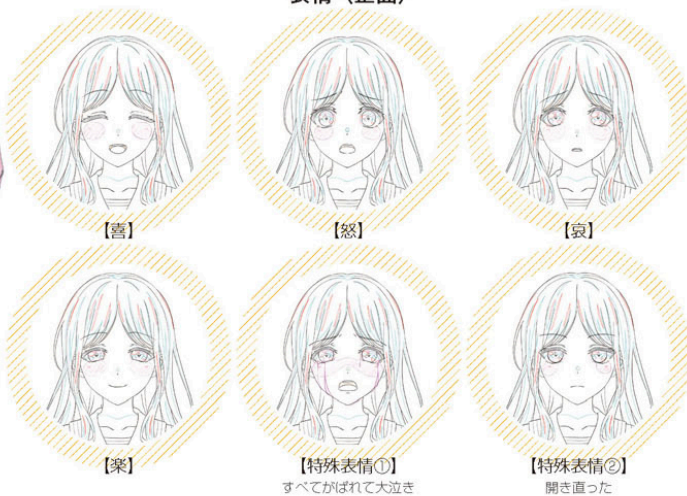
月ノ森夏制服



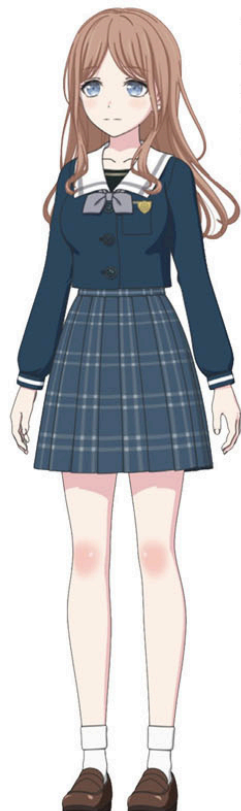
月ノ森女子学園の高校1年生。
吹奏楽部でコントラバスを担当している。いつも穏やかな雰囲気のお姉さんの存在。誰にでも優しく、周りから頼られることが多い。考え事をしながら指先をいじる癖がある。

学校	月ノ森女子学園
学年	高校1年生
誕生日	5月27日
星座	双子座
好きな食べ物	紅茶、ミネストローネ
嫌いな食べ物	ホルモン
趣味	アロマ

表情（正面）



（その他表情集）



月ノ森中等部秋冬制服



部屋着

春、夏着る
薄手の生地です

足にフィットするタイプの
高反発スリッパ



正面

【ピアス】
花びらの部分：アクリル
花びらの中央、しずく型：
イミテーションパール
他：合金



隠しボタンです

【チェーンベルト】
チェーン部分は合金、
お花、パール部分は
ピアスと同じ素材です。



裾の
裾めり
があります

【スカート】
リヤスカートの部分は別荘で縫製している
が、リヤスカートの部分の縫製はジョイントです。
リヤスカートの部分の縫製はジョイントです。
縫製と伸縮性があり、縫製と伸縮性があります。



【ピアス】
リヤスカートの部分の縫製はジョイントです。
リヤスカートの部分の縫製はジョイントです。
リヤスカートの部分の縫製はジョイントです。

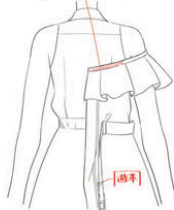
シルエット：スカートと腰のライン



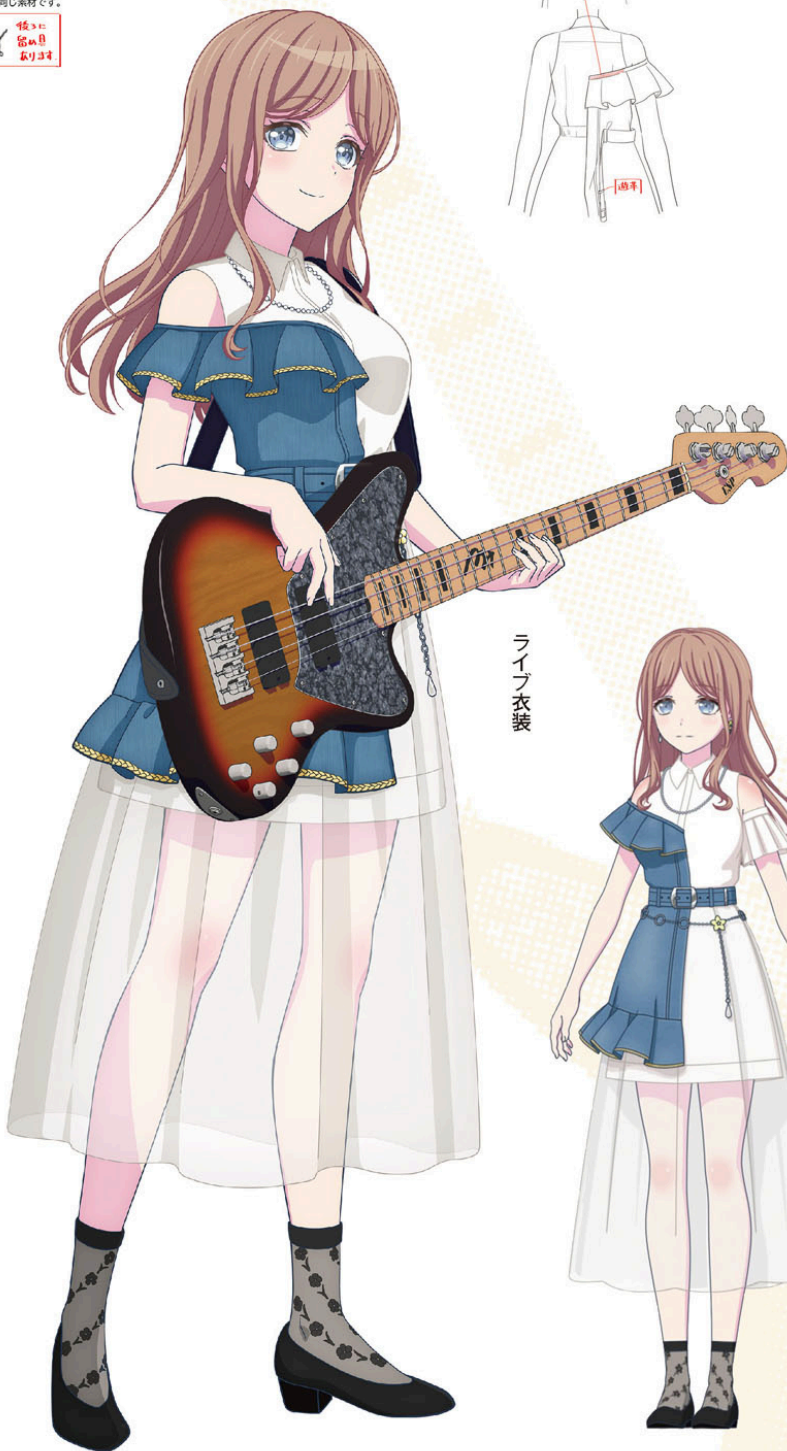
リヤスカートの
裾めりがあります



【両手】

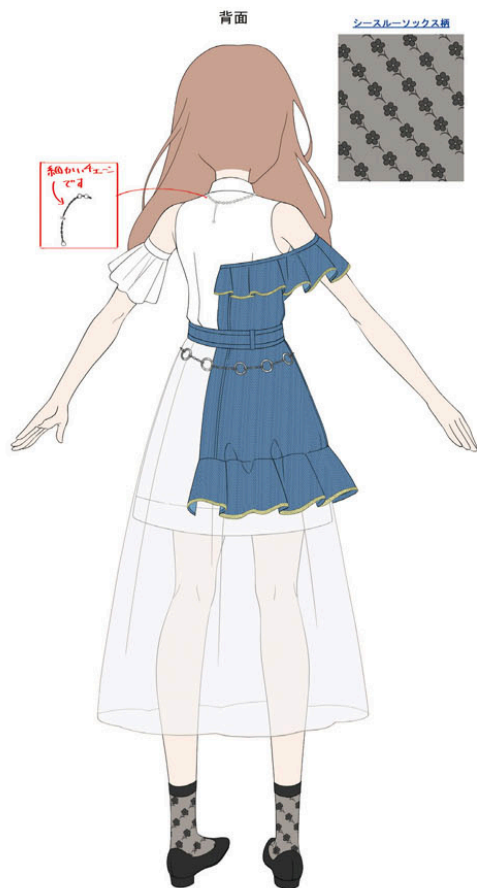
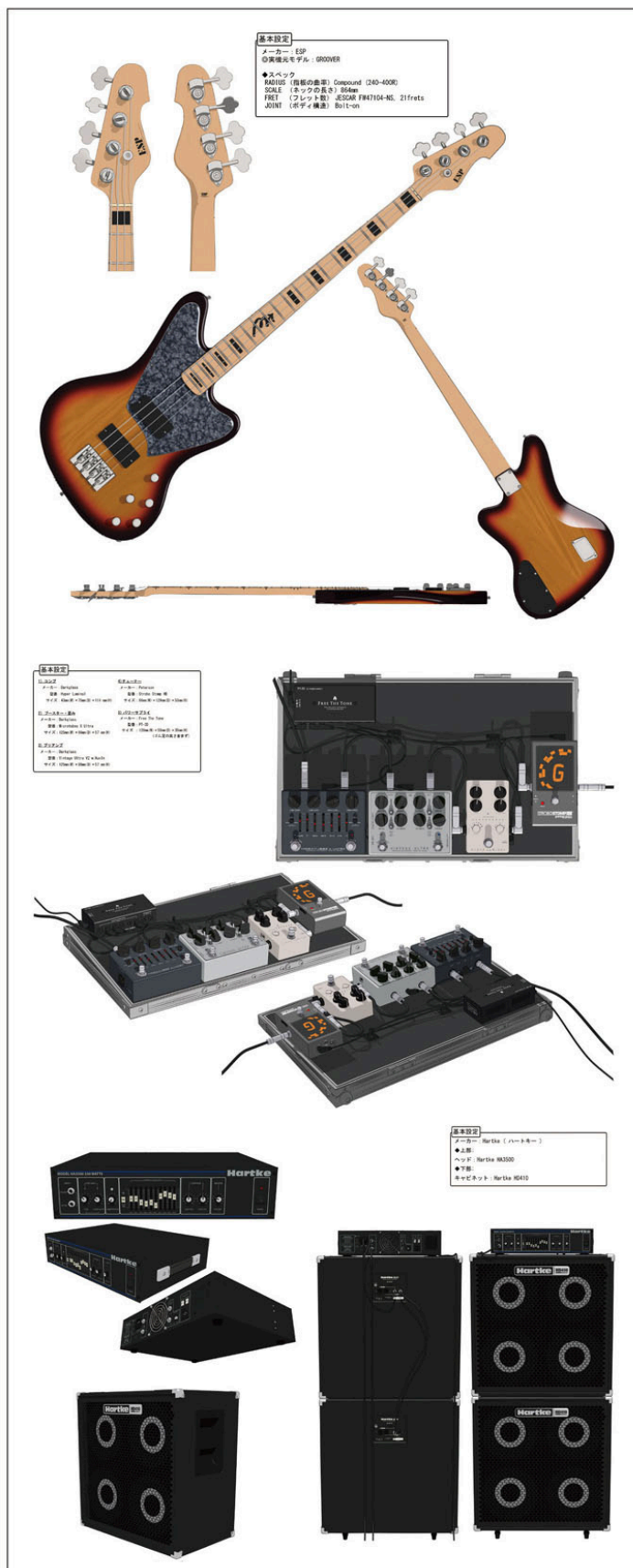


ライブ衣装



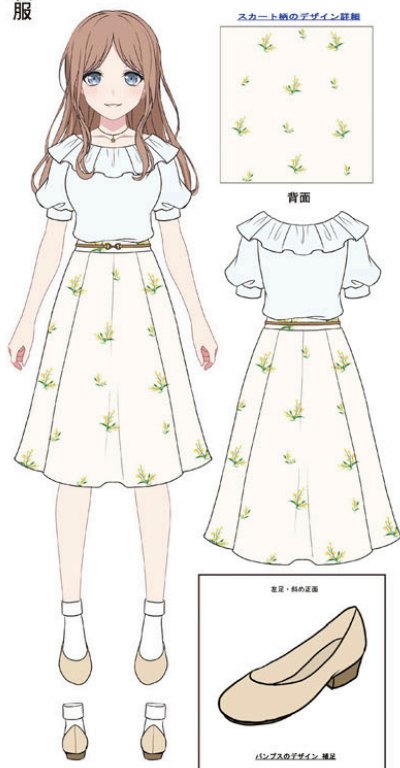
CHARACTER PROFILE

キャラクター設定資料

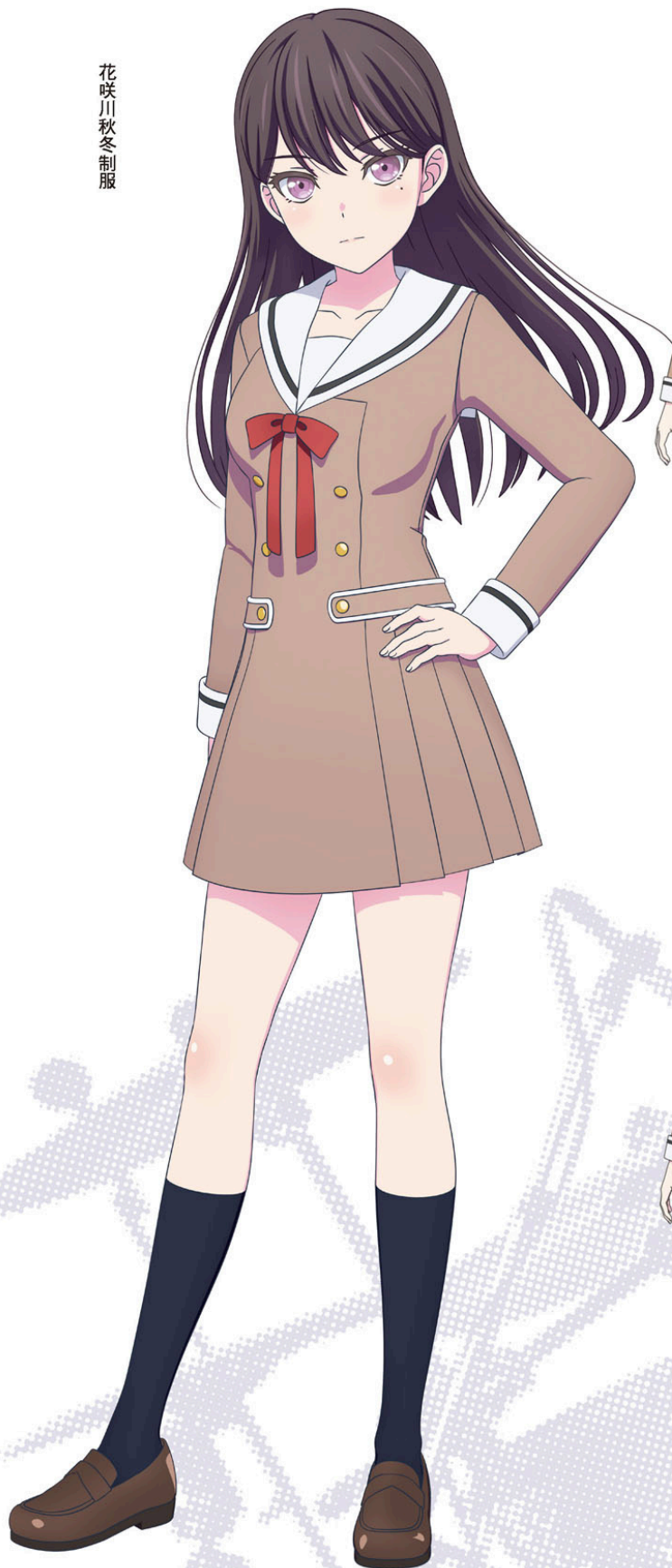


私服

正面



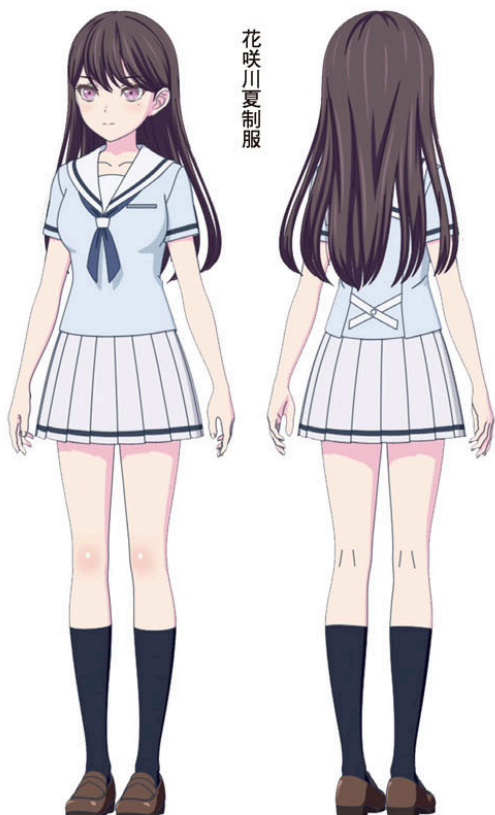
花咲川秋冬制服



椎名立希
Taki Shiina
CV: 林鼓子
はやしここ



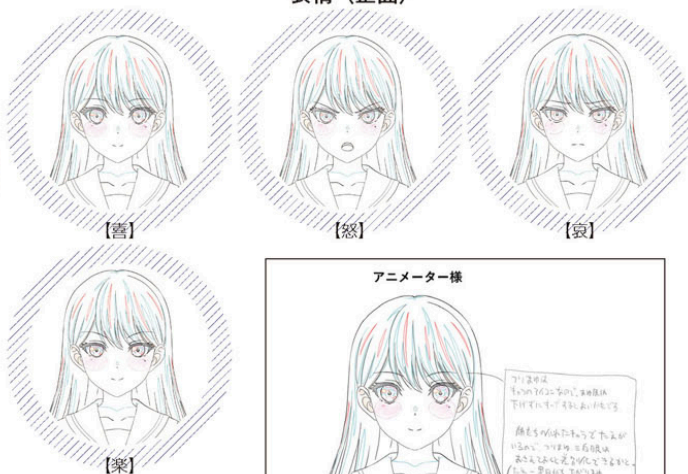
花咲川夏制服



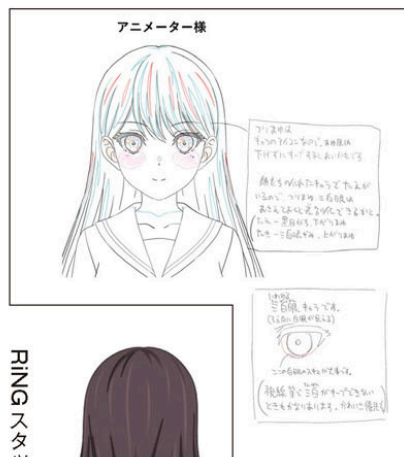
花咲川女子学園の高校1年生。1人でいることが好きな一匹狼。ライブハウス『RING』のスタッフとしてアルバイトをしているが、接客は苦手。煙に甘い。4つ上の姉がいる。

学校	花咲川女子学園
学年	高校1年生
誕生日	8月9日
星座	獅子座
好きな食べ物	杏仁豆腐
嫌いな食べ物	しいたけ、しらたき
趣味	パンダグッズ集め、ひとりカラオケ

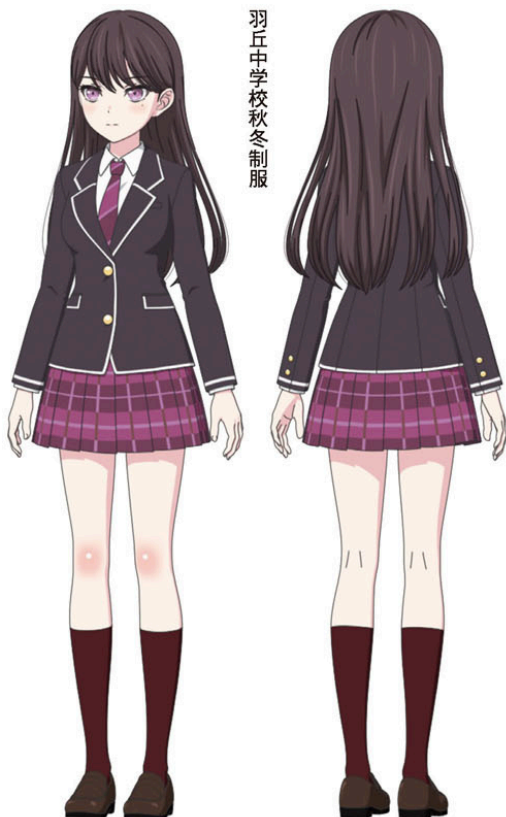
表情（正面）



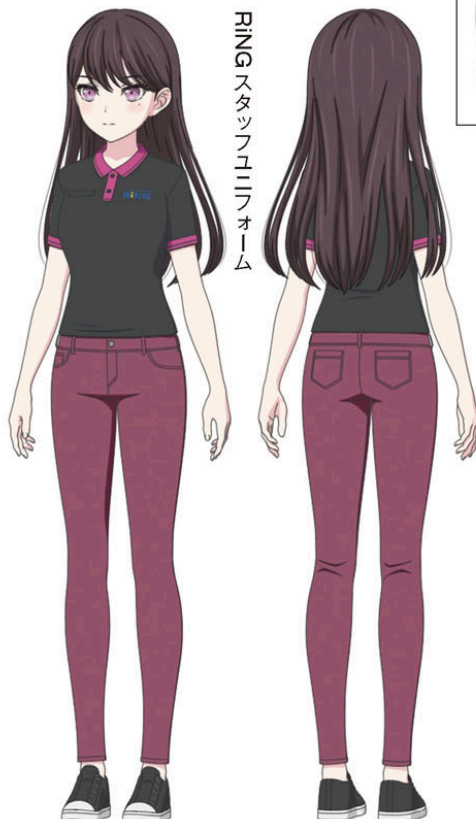
アニメーター様



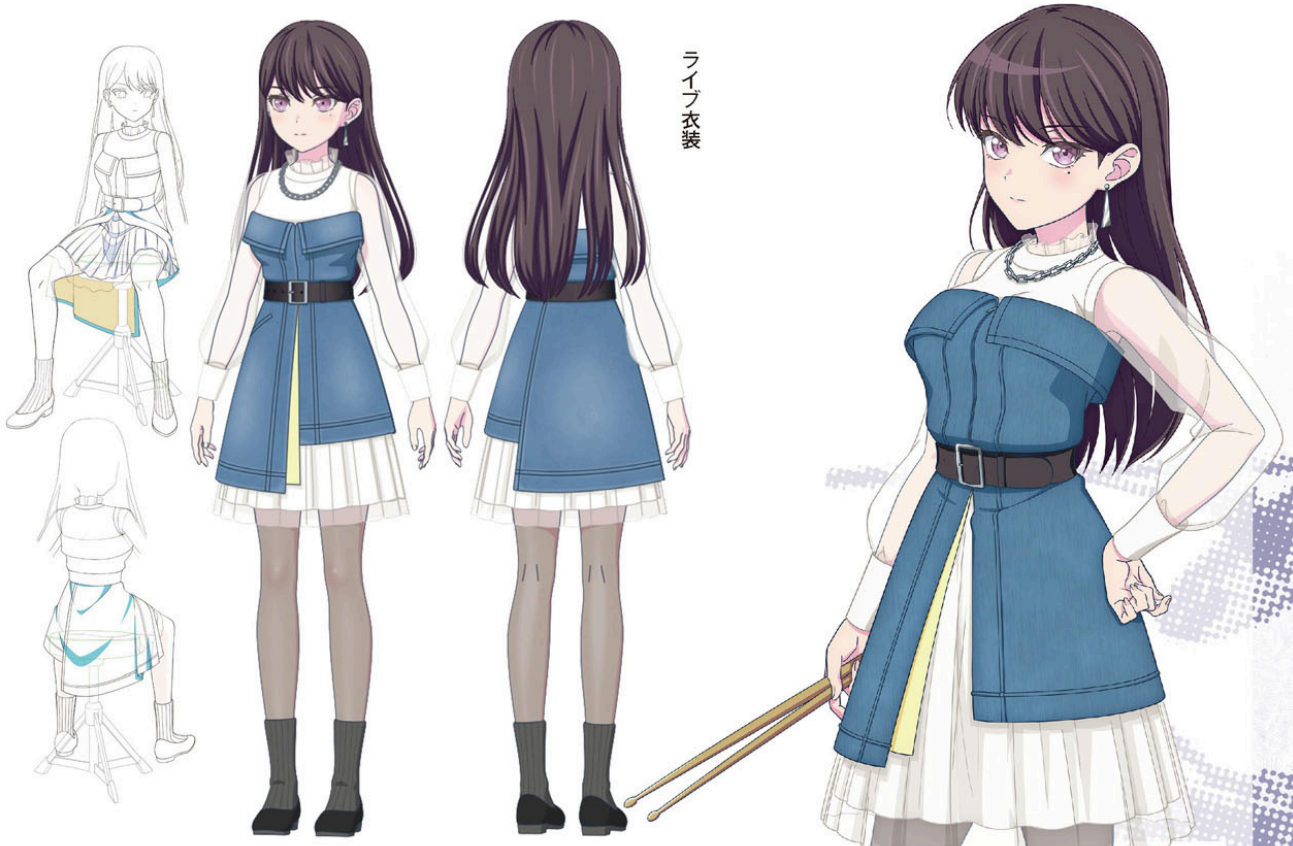
羽丘中学校秋冬制服



RINGスタッフユニフォーム



ライブ衣装



【ピアス】
イヤークラス
イヤリング共に
シルバーの二合金素材

【ピアス】

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

イヤークラス

イヤリング

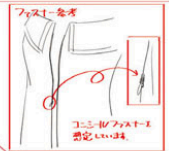
イヤークラス

イヤリング

正面

背面

合金のチェーンネックレス



表面も裏面も
同じ生地です



20デニールの薄手タイツ

パイル位置
を
確認

確認

確認

確認

確認

確認

確認

確認

確認

確認



確認

確認

確認

確認

確認

確認

確認

確認

確認



靴のデザイン 確認

確認

確認

確認

確認

確認

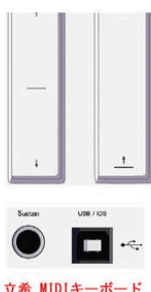
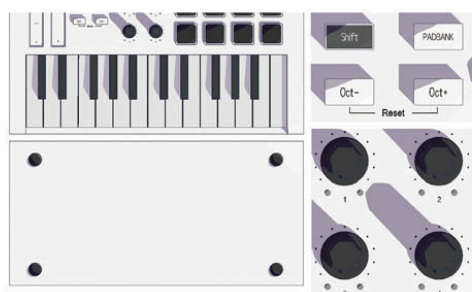
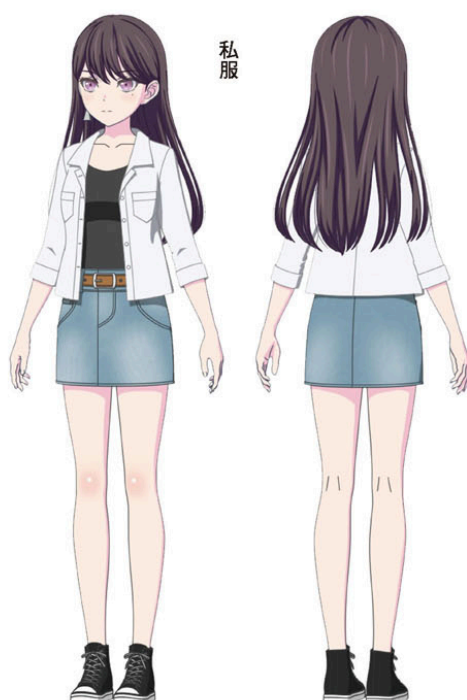
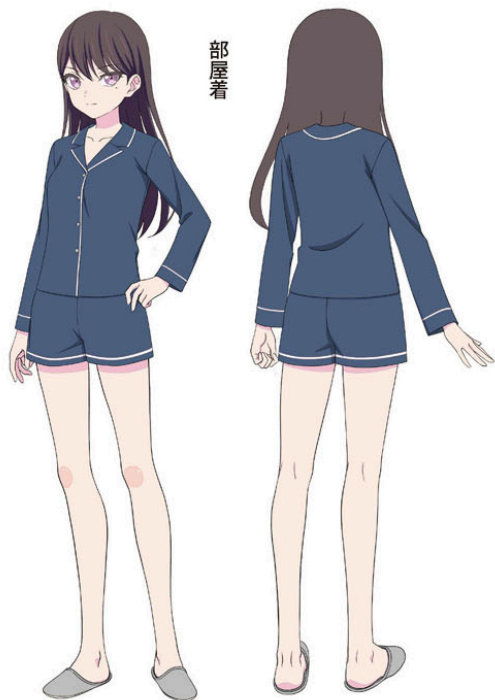
確認

確認

確認

CHARACTER PROFILE

キャラクター設定資料



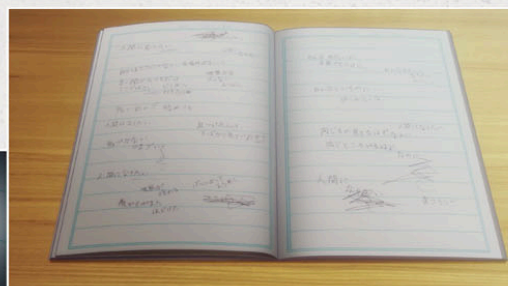
◆200W 500V◆

- ・ライトと文字を消す
- ・ツマミの配置を記憶
- ・初期設定を工場出荷状態に戻す
- ・定数の値を手で入力
- ・定数について製品と重複しないものに設定いたします。
- ・あわせて選付けに際しても誤差を許容します。
- ・画面に於いては作成する予定はありません。



立希 MIDIキーボード

みんなみたいに
友達できたけど

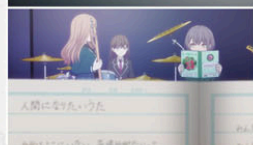


みんなというのに
独りみたいなの

人間になりたい

眩しいん

見つけたくさ
下ばかり見えて



人間になれた
人間になれた

バンド...?

世界から
ズレない
ように

がつ にち ようび ()

CHAPTER #2

LOOKING BACK [Story]





INTRODUCTION

「一生、バンドしてくれる?」

高1の春の終わり。羽丘女子学園では誰も彼もがバンドをしており、遅れて入学した愛音も早くクラスに馴染めるよう、急いでバンドメンバーを探す。そんな中、「羽丘の不思議ちゃん」である燈がまだバンドを組んでいないと知り、愛音はなんとなく声をかけるが……。

傷だらけで不格好な、私たちの＜^{叫び}音楽＞。
迷子でもいい、迷子でも進め。

壱雫空

歌：MyGO!!!!!

作詞：藤原優樹 (SUPA LOVE)

作曲：hisakuni (SUPA LOVE)

編曲：hisakuni (SUPA LOVE)

もしこの雨が上がっても
忘れずに歩いてくよ
最初のひとしずくに 顔上げた今日の僕を

透明な傘で作る ひとり分だけの世界
(遮って隠れた)
そっと逃げ込んでいた

ビニール越しの空から
こぼれ落ちる音響いて
(弾けた合図)
滲む心へと溶けた

泣きじゃくっている この空という
(アスファルト染めていく 溢れ出したスクール)
通り過ぎる時を 待っただけじゃなくて
僕は見つめていたんだよ
無色でもそこにあるもの

この雨が上がってく時
なにもなかったように
消えてく傘花みたいに心は
上手に折り畳めないから
過ぎ去ってしまう瞬間を
僕はあつめたいよ ああ ひとしずくを

とめどなく傘にすべり落ちる
雫が揺れて描いてく (模様)
風に震えては
ぐずついている僕みたいな
くすんでる今日を映した

迷い続けるこの空という
(曖昧に透ける色 眺めていたい)
ただよう雲だって 1 秒先なんて
わからないいまいくんだろう
不安で鈍く霞んでく 明日も

もしこの雨が上がっても
忘れたくないから
たった今を書きとめておきたいんだ
この手じゃ届かない
あの空から点線の糸で
つながるように届いた ひとしずく

いまこの雨が上がってく
最後のひと粒が
小さく光って僕を映した
まだ道は乾かないだろう
潤んだ風を吸い込んだ
僕は連れていこう ああ ひとしずくを





#1 羽丘の不思議ちゃん

脚本：綾奈ゆにこ
絵コンテ：柿本広大
演出：遠藤 求
CGディレクター：遠藤 求

羽丘女子学園に通う高松 燈と、遅れて入学してきた千早愛音との出会いが描かれた#1。中学時代のバンド・CRYCHICが突然解散してしまったことを引きずっている燈と、同じく過去の失敗のやり直しを決意している愛音との出会いから、物語は動きはじめる。それぞれがバンドへの想いや過去への後悔を抱える中で、今この時、この場所で出会った少女たちは、どの道を選び、進んでいくのだろうか。

Scene 1 「CRYCHICを辞めさせていただきます」不穏な解散から幕開け

スタジオで誰かを待つ燈、そよ、立希、睦の4人。そこに入ってきた様子は、突然「CRYCHICを辞めさせていただきます」と、このバンドの終わりを告げるのであった。引き留める者、無責任だと追及する者、私もバンドは楽しくなかったと打ち明ける者——。五者五様のリアクションを見せるが、誰1人として明るい表情の者はいない。物語は、雨音と悲しげなピアノの旋律の中、突然のCRYCHIC解散という不穏な幕開けとなった。この解散が、今後のわかまりの火種となるのであった。



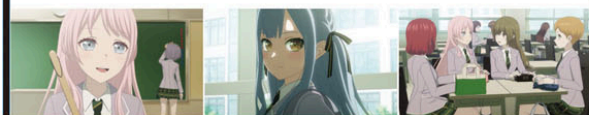
Scene 2 「ここで、やり直すんだ」愛音と羽丘の不思議ちゃん・燈の出会い

イギリスの空港で、大きな荷物を引きながらため息をつく愛音。その表情は暗く、何か上手くいかないことがあった様子だ。「帰ろ」とつぶやいた彼女は、羽丘女子学園の編入面接を受ける。面接の帰り、愛音は校庭の隅で石を拾い集める燈と出会う。後日、羽丘への編入初日、愛音は燈と同じクラス、前後の席となる。まだ挨拶程度の2人だが、「ここで、やり直すんだ」と羽丘でやり直しを目指す愛音と、羽丘の不思議ちゃんと呼ばれる燈との出会いにより、物語は動きはじめる。



Scene 3 「みんなバンドやってんだもんね…私もやらなきゃ」バンド仲間を探す愛音

新たな環境で友人を探す愛音。そんな中、羽丘は先輩バンドのAfterglowなどの影響で、バンド活動をしている人が多いことを知る。愛音はみんなに合わせるためバンドを組もうとする。バンド仲間を探す中、聴こえて来たピアノの音色にいざなわれ音楽室へと辿り着く。そこでピアノを弾いていたのは様子。様子にバンドを組もうと勧誘するも、断られる。次に愛音は、クラスのマスコットのキャラクターの燈とバンドを組めば注目を集められるのではと、バンドに勧誘しようとするのであった。



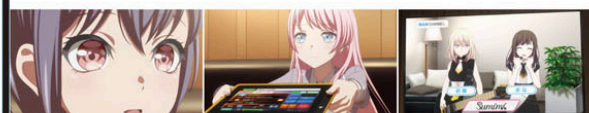
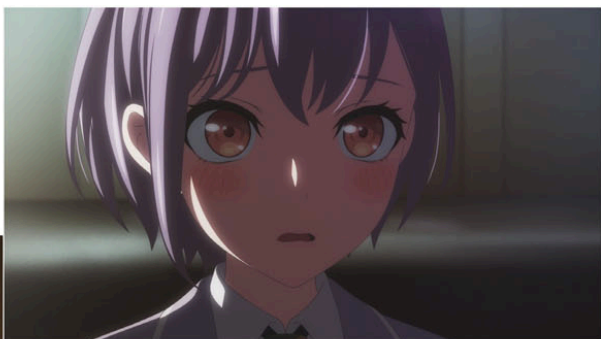
Scene 4 「バンド、やっても……また駄目になる、から……」苦い過去を匂わせる燈

燈に声をかけようとして、躓いて転んでしまう愛音。それを見た燈は、「絆創膏」と眩きどこかに行ってしまう。その後を追う愛音が行きついたのは天文部の部室であった。集めた絆創膏を愛音に渡す燈。辺りを見渡し、燈のノートを発見する愛音。そこには「春日影」の歌詞が書かれていた。燈がバンド経験者であることが愛音は、自分とバンドを組もうと提案するも断られる。「バンド、やっても……また駄目になる、から……」と理由を語る燈の様子からは、CRYCHICの解散が思い出される。



Scene 5 「一生、バンドしてくれる？」燈のバンドに懸ける想い

バンドへの勧誘を断る燈の暗い様子を見かねた愛音は、気分転換に燈をカラオケに誘う。その中で、「またダメになるって、何？」と核心に迫る質問をする愛音。自分のせいでバンドが解散したと話す燈に愛音は、「またダメにならないように頑張ればよくない？」と励ますのであった。「一回ダメになってもやり直せるって思わない」と続ける愛音の様子は、自分にも言い聞かせているように見える。それを受けて燈は改めて愛音の勧誘に、「じゃあ……一生、バンドしてくれる？」と返すのであった。



Scene 6 「大丈夫。また前みたいに帰れるから」見え隠れするそよのCRYCHICへの未練

一方、月ノ森女子学園。そよが睦に声をかけ、祥子の様子を尋ねている。CRYCHIC解散後、祥子は自分の居場所を伝えずに姿を消したようだ。「祥ちゃんがバンド辞めるって言い出したとき、もっとちゃんと聞いてあげれば良かった」と後悔を語るそよ。部活の後には立希に会いに行くという。その様子から、元CRYCHICのメンバーを気にかけているのがわかる。「大丈夫。また前みたいに帰れるから」と微笑みかけるそよとは対照的に、睦の表情は無表情のままであった。



Scene 7 「燈をバンドに誘ったの？」燈を心配する立希と、愛音の出会い

「一生、バンドしてくれる？」という燈の問いかけに、笑って「一生？」と返す愛音。その愛音の反応に燈はカラオケを飛び出してしまふ。追いかける愛音はスタジオ・RINGの前で燈を捕まえる。「ごめん、笑ったりして」と謝る愛音に、「バンド、誘ってくれてありがとう……でも、ごめんなさい」と返す燈。そこに割って入る、RINGでアルバイトをしている立希。燈が絡まれていると思ったようだ。愛音が燈をバンドに誘ったと聞き、「最悪」と怒る立希。燈のことをとても心配しているように見える。





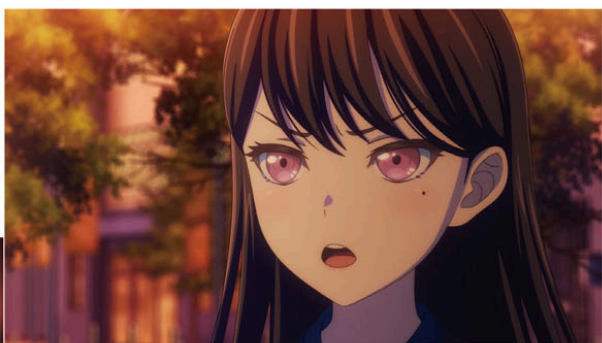
#2 もう誘わない

脚本：後藤みどり
絵コンテ：梅津朋美(エディッツ)
演出：遠藤 求
CGディレクター：遠藤 求

燈をバンドに誘ったことをきっかけに、元CRYCHICメンバーと出会う愛音。そよと一緒にバンドを結成し、メンバーについて話し合う中で、CRYCHICでの過去を知っていくのであった。過去のバンド、メンバー、バンドに対する想い……。それぞれの思惑が交錯し、物語は徐々に加速する。愛音の気づきから、バンドに「もう誘わないから」と告げられた燈の寂しそうな表情の意味とは――。

Scene 1 「大丈夫？」愛音と元CRYCHICメンバーとの出会い

カラオケから飛び出した燈を追いかけてRINGの前に辿り着いた愛音は、元CRYCHICのドラム担当で、RINGのカフェでアルバイトをしている立希と出会う。立希は、愛音が燈をバンドに誘ったと聞いて、怒りをあらわにし、愛音を糾弾する。その様子を見ていたのは、元CRYCHICのベース・そよ。愛音と立希が揉めている様子を気にしたそよは、愛音に「大丈夫？」と声をかけるのであった。これが愛音と、立希、そよとの出会いであり、物語が進展するきっかけとなった。



Scene 2 「もう1回、連絡する」そよと祥子の狭間に立つ睦

翌朝、月ノ森。そよが睦に話かけている。「昨日立希ちゃんに会えなくて」と、昨日そよがRINGにいた理由が立希に会うためだったと判る。続けて、「祥ちゃんから返事あった？」と変わらず祥子を気にしている様子だが、睦は首を横に振って答える。それを見たそよは、「祥ちゃんのおうち行ってみようかな」と睦から祥子の住所を聞こうとするも、睦から祥子に再度アポイントを取る旨を返される。祥子の幼馴染である睦は、祥子について何か知っている様子だ。



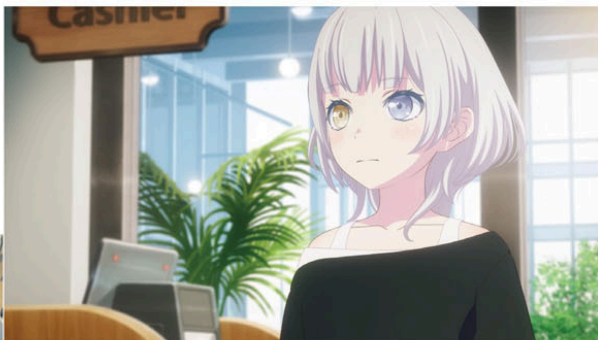
Scene 3 「アールグレイホット 2」話す機会が増えていく愛音、そよ、立希

放課後の羽丘、クラスメイトに声を掛けられ、バンド仲間を探すためにRINGを訪れる愛音。お目当てのギターボーカルの募集が無く帰ろうとした愛音は、立希と話すためにRINGを訪れていたそよと再会する。そよの提案で、2人はRING内に併設されているカフェでお茶することに。そのカフェでは立希がアルバイトをしており、愛音はそこで、昨日言い争いになった立希とも再会することに。会話を深める中で、愛音はそよが以前バンドを組んでいたと知る。



Scene 4 「楽奈ちゃん、オープンマイク？」ギターの超絶テクを披露する楽奈

愛音とそよがいるカフェに現れたオッドアイの少女・楽奈。ギターと機材を引いて持ち歩いている。カフェでアルバイト中の沙綾が親しげに話しかけていることから、常連であることが見受けられる。楽奈はカフェ内のステージに上がり、凄腕のギターを演奏し始める。使用しているギターはとても古びていて、使い込まれている。一通りギターを演奏したところで、「満足」と言ってカフェを後にする楽奈の様子は、まるで猫のように自由で、RINGの野良猫と呼ばれる所以であろう。



Scene 5 「そっか、羽丘にいるんだ」愛音と燈が友達だと知るそよ

愛音との会話の中で、愛音と燈が友達だと知るそよ。元CRYCHICメンバーとコンタクトを図っていたそよは、燈が羽丘にいとわかり、口元に笑みを浮かべる。「燈ちゃんをバンドに誘ったの?」「燈ちゃん、何が言ってた?」と燈を気にする様子も見せる。一方そよがバンドでベースをしていたと知った愛音は、そよと一緒にバンドを組もうと持ち掛ける。「サポートからなら」と、二つ返事で承諾するそよ。かくして、愛音とそよの2人から、バンドを結成することになる。



Scene 6 「睦、伝書鳩になってはいけませんわ」自ら対峙することを決意する様子

放課後、羽丘の正門。様子が出てくるのを待つ睦。そよとの会話の中で、様子が再度連絡してみると話していたことから、直接会いに来たようだ。羽沢咖啡店に場所を移す2人。「わたしのことは誰にも言わないでほしい」と言いましたわよね?と、様子が睦に自分の居場所などを口止めしていたことがわかる。「そよが心配してる」と様子に伝える睦。「引越したとでも言っておいてくださる?」と言うものの、「睦にはそんな芸当できませんわね」と、考えを改める。



Scene 7 「みんな傷ついてるよ」見え隠れするCRYCHICのわだかまり

翌日再びRINGのカフェに集合する愛音とそよ。楽器編成やメンバーについて話し合っており、そよがアルバイト中の立希をバンドに誘う。燈を引き合いに出すそよの誘いにも、「やらない」「燈は傷ついてる」と断る立希。「みんな傷ついてるよ」と返すそよ。そのやりとりを見た愛音は、3人の過去に何かあったことを察する。そよはCRYCHICについて愛音に話し、CRYCHIC時代の映像を見せる。愛音とそよは燈を呼び出し、「本当は、バンドやりたいんじゃないの?」と尋ねるのであった。





#3 CRYCHIC

脚本：綾奈ゆにこ
絵コンテ：柿本広大
演出：大森大地、山之口 創
CGディレクター：大森大地、山之口 創

燈の独白からはじまり、燈視点でCRYCHICの結成から解散までが描かれる#3。CRYCHICと出会う前の燈の幼少期の回想を含め、燈がこれまでの人生をどう感じてきて、CRYCHICと出会ってどう変わっていったのかが克明に描かれている。「春日影」の歌詞にもある通り、祥子と出会い、メンバーが集まり、遊んでライブをして…。そのすべてが燈にとってどんな時間であったかが、痛いほどに伝わってくる。

Scene 1 「みんなといのに独りみたいな」燈と祥子の出会い

場面は燈の中学の卒業式。「昔から、ちょっとズレて生きていたんだと思う」という、燈視点の独白からはじまる。時は遡り、幼稚園時代の燈の回想。仲良くしていた友達に、良かれと思ってダンゴムシをたくさんプレゼントしてしまう燈。そのことについて電話越しに謝る母。この様子は、原初記憶として燈の中に深く刻まれているのかもしれない。「世界からズレないように」「人間になりたい」「みんなといのに独りみたいな」とノートに書き留める燈の、鏡に映ったその表情は暗い。



Scene 2 「バンドを組んでくださらない？」燈と祥子が結成したバンド

花を掴もうと橋から身を乗り出した燈を、飛び降りようとしていると勘違いした祥子が助ける。これが燈と祥子の出会いである。膝を怪我した祥子の手当てをしに2人は燈の家へ。そこで燈が心の内を書き込めた、大量のアンテナノートを発見する祥子。「歌詞ですか?」と目を輝かし、次のシーンでは祥子の家に。グランドピアノを演奏し、ノートに記された燈の言葉に曲をつけて歌う祥子。「燈さん。わたくしと、バンドを組んでくださらない?」と、燈をバンドに誘うのであった。



Scene 3 「共に音楽を奏でる運命共同体」バンドを通し、増えていく仲間たち

燈と祥子からはじまったバンドに、仲間が増えていく。羽沢珈琲店で顔合わせをする5人。「これからわたくしたちはバンド、共に音楽を奏でる運命共同体」と祥子が語る。5人共バンド活動に前向きな様子である。「作詞の天才」と祥子に紹介された燈がノートを見せても、特にそれを否定する者はいない。「みんなといのに独りみたいな」と過去のノートには記されていたが、祥子と出会ったことで、睦、そよ、立希といった、燈にとって仲間と思える人が増えていくのであった。



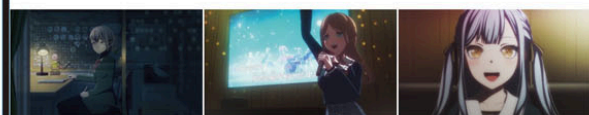
Scene 4 「燈の歌詞は心の叫びですから」心の叫びを初めて吐き出した燈

スタジオに移動し、音を合わせる5人。だが燈は歌えない。その帰り道、なぜ自分がボーカルなのかと祥子に尋ねる燈。「燈の歌詞は心の叫びですから」と、書いた本人が歌ったほうがいいと説得する祥子。交通量の多い道路に掛かる歩道橋の上から、突然叫ぶ祥子。「ここなら叫び放題ですわ」と燈を促す。後日スタジオで改めて歌おうとする燈だが、やはり大きな声は出ない。「歩道橋では歌えましたのに」と祥子。「スタジオだと緊張しちゃう?」とそよが声をかけ、5人でカラオケへ。



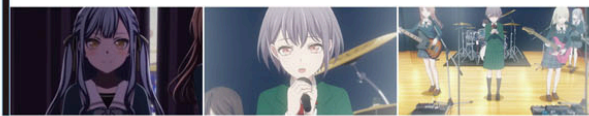
Scene 5 「なんて楽しいんですの」CRYCHICで過ごしたキラキラした記憶

カラオケにて5人。燈の歌の練習も後回しに、カラオケを満喫している様子である。バンドを組んだばかりだが、その雰囲気からどこか楽しさは感じない。燈のノートには、「眩しい」「美しい」「温かい」という単語が残されていた。このカラオケの後、燈は「春日影」を作词する。「春日影はわたしたちの詩ですね」と涙を流す祥子。他の3人も、早く演奏したいといった様子だ。こうしてCRYCHICの初のオリジナル曲、CRYCHICというバンドを歌った「春日影」が完成する。



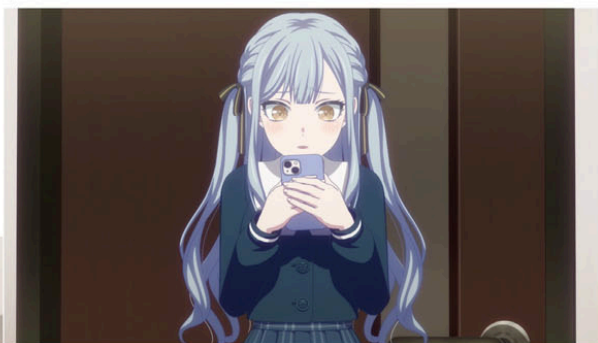
Scene 6 「夢中になりすぎて、覚えてない……」CRYCHICとして成功させたライブ

「春日影」を演奏する5人。「あの日泣けなかった僕を 光は やさしく連れ立つよ」「ねえお願い どうかこのまま 離さないでいて」といった歌詞に、CRYCHICが燈を「独り」から救ったことが表れている。ライブを成功させ、舞台袖で涙を流すメンバーたち。「すごい」「最高だったよ」と、ライブの高揚感とメンバーそれぞれのCRYCHICへの愛が溢れているように見える。お互いにとってCRYCHICがかけがえのないものであると伝わってくる。「また必ずライブいたしましょう」と約束を交わすのであった。



Scene 7 「あるとすれば、それは——CRYCHICだった」欠けてしまった大切なもの

ライブ後、SNSを確認するメンバーたち。「感動しました」「涙がとまらない」といった声がかほとんどの中、「ボーカル必死過ぎ」という声も。そのとき祥子が、スマホを見て何かを見つけたような声を上げる。そして燈視点の回想は、#1冒頭のCRYCHIC解散シーンへと繋がるのであった。CRYCHICという仲間を失い、「みんなとズレている」と感じる状況に戻った燈。そのモノローグは、「みんなみたいに涙するほど大事なものがほしい。あるとすれば、それは——CRYCHICだった」と締めくくられた。





#4 一生だよ!?

脚本：小川ひとみ
絵コンテ：林 翔子
演出：古賀公一郎
CGディレクター：古賀公一郎

#3の回想から戻り、#2の終わり、愛音とそよが燈を呼び出した場面。場所は大階段。CRYCHIC解散に自責の念を感じる燈、学校生活をやり直すためにバンドを組みたい愛音、CRYCHICに未練があるそよ、燈とバンドがしたい立希。それぞれの想い、目的が交差し、どこかで糸がほどければ、またどこかで糸が絡まる。バンド結成のという嬉しい出来事の裏で、誰かの心が傷ついているのかもしれない。

Scene 1 「本当はバンドやりたいんじゃないの?」CRYCHIC解散に対する燈の想い

燈をバンドに「もう誘わない」と言っていた愛音。しかし、そよからCRYCHICが「春日影」を演奏している動画を見せられ、燈に改めて「本当はバンドやりたいんじゃないの?」と尋ねるのであった。それに対し、「CRYCHICが解散したのは自分のせいだから」と答える燈。CRYCHICの解散に、自責の念を抱えていたことがわかる。「誰も悪くないんだよ」とかばうそよだったが、「誰も悪くないなら、なんで解散したの?」と燈は走り去ってしまう。



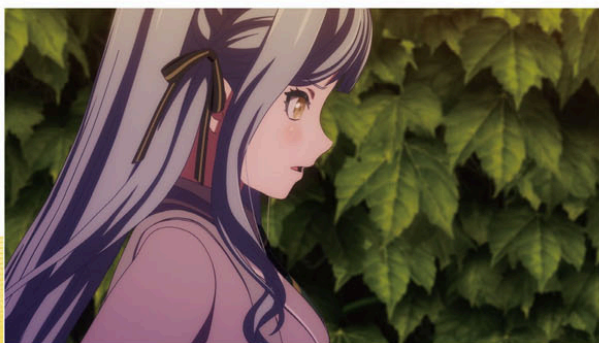
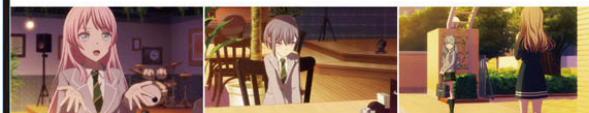
Scene 2 「バンドメンバー見つかりまして?」深まる祥子の傷

燈が去った後、愛音とそよが2人で話している。愛音のおかげで久しぶりに燈と話せたこと感謝するそよ。「みんなは、どう思ってるのかな」と、CRYCHIC解散に対するみんなの気持ちを確かめたような様子。愛音との会話の中で、祥子が羽丘にいると知るそよは、思わぬところで情報を得られたと驚きの表情を浮かべる。翌日、羽丘。祥子はすれ違った愛音に、「バンドメンバー見つかりまして?」と声をかける。それに対し愛音が、「長崎そよちゃんと」と答えると、祥子の表情と声色に曇りが表れるのであった。



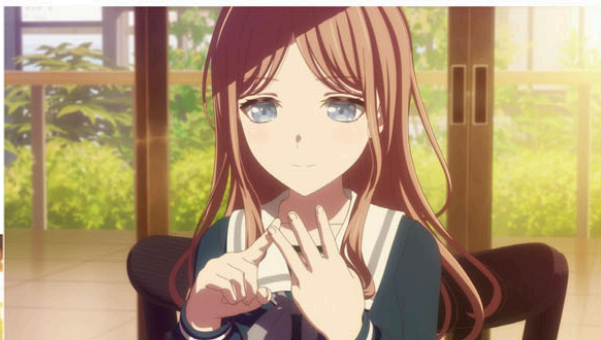
Scene 3 「もうわたくしに関わらないで」祥子とそよの再会

その日の帰り、羽丘の正門で祥子待つそよ、逃げる祥子。それを追いかけるが、「なんで転校しちゃったの? CRYCHICが原因?」と尋ねるそよに、「関係ありませんわ」とだけ答える祥子。「もうわたくしに関わらないで」とそよを拒絶する。1人残されるそよに、愛音からRINGに来られるかと連絡が。場所は移ってRINGのカフェ。そこには愛音が、燈と立希を集めていた。昨日CRYCHICのわだかまりを知った愛音は「解決しないと燈ちゃんバンドできないじゃん」と、燈、そよ、立希に話し合いを促す。



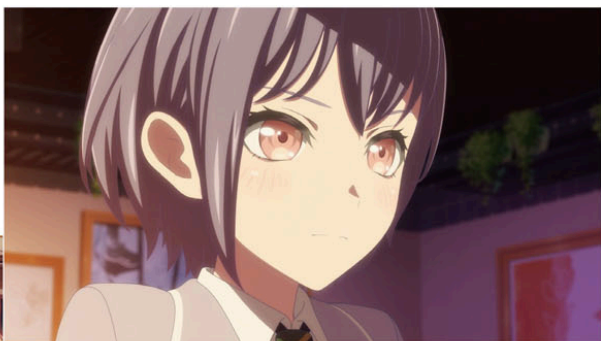
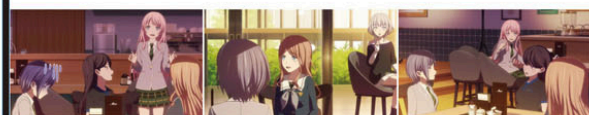
Scene 4 「私たち、もう一回やり直せないのかな?」誤解を解く燈、そよ、立希

「どうしてCRYCHICが解散したのって言うてたよね」と話し合いを切り出すそよ。「祥子のせいでしょ。いきなり辞めると言うから」と、祥子に責任があると思っている立希。それをそよが「何か理由があったんだと思う」とかばう。「私が、ライブうまく歌えなかったから」「だから、祥ちゃんが来なくなった」と自分を責める燈。それを聞き、「このままバンドを嫌いになってほしくない」と話すそよ。立希が燈を待っていたことなど、それぞれの誤解やすれ違いを解き、バンドをやり直せないかと提案するのであった。



Scene 5 「一生、やろう」バンドを結成する燈、愛音、そよ、立希

燈、そよ、立希の3人が、お互いにまだバンドに未練があると確認し合い、バンドを再結成する流れの中、そよとバンドを組んでいた愛音は、「私は…?」と確認する。「愛音ちゃんも」と燈が返し、改めてバンドを組むことになった4人。燈は「一生、やろう」と、バンドを一生続ける意思を示すのであった。賛同するそよと立希だったが、愛音は短期目標として初ライブを提案する。そのやりとりを隣の席から見ていた楽奈は、「おもしろい女」と呟いた。



Scene 6 「元サヤですか。良かったですね」バンド結成後、それぞれの反応

その夜、「燈ちゃんとかやって知ったら、みんなどんな顔するかな」とワクワクしている愛音。だが一方でキャリアケースを見つめる表情からは、「今度こそやり直すんだ」という決意を改めて感じる。翌日、花咲川。朝から机を叩いてドラムの練習をする立希。浮かれている様子が見て取れ、それをクラスメイトの海鈴にもツッコまれる。一方、月ノ森。そよが陸にバンドを再開したことを話している。「やっと一歩前進かな?」と、自分の希みに一歩近づいたと感じている様子である。



Scene 7 「ギターはコードに始まりコードに終わるんですー」はじまるバンド活動

放課後、RINGのカフェ、燈、愛音、そよ、立希が、バンドのこれからについて話し合っている。愛音と立希が探め、それをそよがいなす、そんな騒がしい様子に燈は嬉しそうな表情を浮かべる。その帰り、燈は愛音に「ありがとう」「また、戻れるとは思わなかった」と声をかける。翌日、スタジオ。ギターのコードを自慢げに弾いて見せる愛音。「とりあえず、できそうな曲探してみようか?」と提案するそよに、「春日影でいいじゃん」と立希が返す。そんな最中、突然楽奈がスタジオにやってくるのであった。





#5 逃げてない!

脚本：和場明子
絵コンテ：森田祐吏
演出：大森大地
CGディレクター：大森大地

上手く生きてきた愛音の足元が崩れる#5。楽奈の登場により、バンド内でのギターのポジションに危うさを感じる愛音。ギターの練習をしようとするも、楽な方向に逃げてしまい、その逃げ癖を立希にも指摘される。そんなタイミングで、中学時代の同級生に出会い、愛音の中の最大の挫折である、留学失敗が明るみになる。「終わった」と絶望感を感じる愛音に、燈がかけた言葉とは。

Scene 1 「バンドやる」燈を気に入りバンドに参加しようとするRINGの野良猫・楽奈

燈、愛音、そよ、立希の初めてのバンド練習に現れた楽奈。「やらないの?」と楽器を準備し、「春日影」の楽譜を覗き込む。年季が入っているギターに4人が声を上げると、「おばあちゃんの」と答える。一度覗き込んだだけの「春日影」を弾きはじめる楽奈。それを見て、コードを自慢げに披露していた愛音は、危機感を覚えるのであった。スタジオを後にし、RINGのカフェで抹茶パフェを食べる楽奈。「バンドやる」と言う理由は、燈がおもしろい女だからだそう。



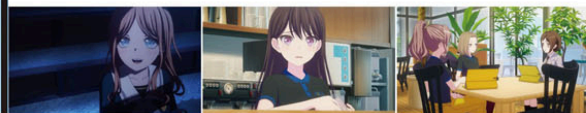
Scene 2 「時短で楽してワンランクアップ」楽奈の実力に焦る愛音

「用事があって」とRINGのカフェを後にする愛音。自宅に帰り、「GとかFとか言って恥ずかしすぎ」と楽奈の実力に焦りを見せる。ギターの練習をする愛音だったが、諦めて動画サイトを見はじめる。その中に出てきた「時短で楽してワンランクアップ」という言葉に感化され、燈にギターが簡単な新曲を作ることを持ちかける。一方、燈と立希の帰り道。「春日影、変わったね」と呟く燈に立希は、「祥子に遠慮する必要ないから」「燈とまた(バンド)一緒にやれるのすごく嬉しいんだ」と返す。



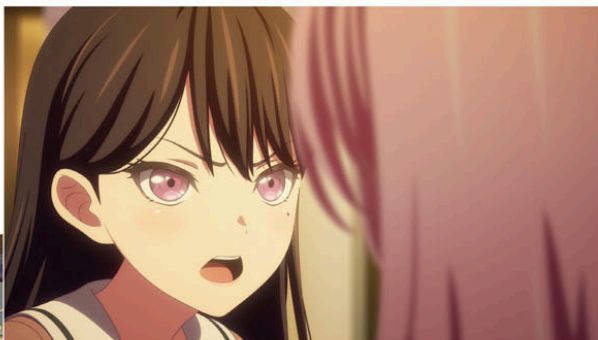
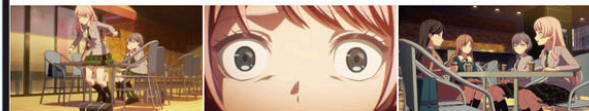
Scene 3 「こんな私でも、生きてて良いんだって」燈の歌に対する立希の気持ち

そんな中、短期目標に定めていた初ライブのチャンスがやって来る。「うちにライブは早くない?」と洩る愛音。燈も「ライブしたら、バンド終わっちゃう」とライブには否定的だ。RINGの外階段で話すそよと立希。「燈の歌聞いたとき、自分のことだって思った」と、燈の歌が響いた、燈とライブがしたいという気持ちを吐露する立希。それに対しそよは、「燈ちゃんに言えいいのに」と、大事なことを言えずにすれ違ったCRYCHICでの反省を生かし、話し合いを提案するのであった。



Scene 4 「お前のそれは逃げだよね?」立希に確信を突かれる愛音

ライブへの参加について話し合う4人。今の自分たちはバラバラで、このままだとCRYCHICの二の舞になると危惧するそよ。「目標がないと前に進めない」「燈の歌はみんなに聞いてもらってこそだと思う」「終わらせないために、したい。ライブ」とまっすぐに話す立希。それに対し愛音は、「燈ちゃんライブ嫌だって言ってるじゃん」と燈を盾にするが、「燈が悩んでるのはライブしたら終わるってことで、お前のそれは逃げだよね?」と立希に見透かされてしまう。



Scene 5 「終わったな、私」取り繕って築いてきた自分が崩れ去る愛音

立希の言葉に、「逃げてない!」とその場を走り去る愛音。燈がそれを追いかける。走って逃げた先の公園で、中学時代の友達に遭遇する愛音。留学に関して「イギリスはどうよ!」「その制服、羽丘?」と尋ねられ、留学失敗したことを隠していた愛音は焦りと絶望に心を支配される。そこに追いかけて来た燈が合流し、愛音の手を引いてその場から離れる。辿り着いたのは水族館。愛音は「りっきーが言ってたこと、当たってるんだよね」と、留学から逃げたことも含めて、さらけ出して話すのだった。



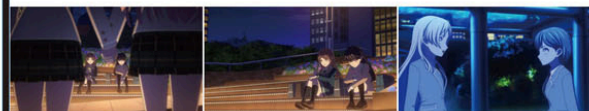
Scene 6 「私はイギリスに留学かなー」中学時代、信頼を集めていた愛音の挫折

愛音の回想。中学時代は生徒会長として、みんなからの信頼が厚かったことがわかる。しかし留学先では、英語が通じずに挫折した様子が描かれる。回想が明け、「逃げてばっかの人生だよ……やり直そうと思ったけど、私もう終わったな〜」、自分の人生を顧みる愛音。その言葉に燈は、「愛音ちゃんは頑張ればいって言うてくれて」と、愛音が過去に自分を励まそうとしてくれたことを言葉にしようとするも、上手く言えない。何かを書きはじめた燈は、迷子と書いた紙を愛音に渡す。



Scene 7 「私も……迷ってても、進みたい」迷いながらも進むことを決意する燈と愛音

「愛音ちゃんは進んでる。行き止まりになっても、ちゃんと道を探して、進もうとして」「私のことも引っ張ってバンドができて」「進んでも終わりじゃないんだって」と、愛音のおかげで進めたこと、またバンドができたことをゆっくりと伝える燈。「私も……迷ってても、進みたい」と、今度は燈が愛音を後押しをする。「じゃあさ……一緒に進む?」「迷子のままで、私たち」と2人で進むことを決め、そよと立希の所に戻り、「私たち、ライブする」ともう逃げない覚悟を伝える2人であった。





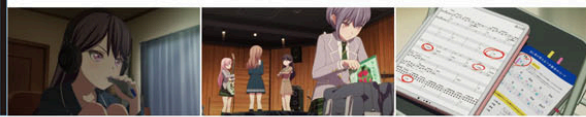
#6 なんで今更

脚本：後藤みどり
絵コンテ：岡こすえ
演出：古賀公一郎
CGディレクター：古賀公一郎

初ライブに向け新曲を作ることになった燈たち。作曲は立希が担当することに。しかし、立希は初作曲のプレッシャーからか、周りが見えなくなっているようだ。自由な楽奈が気まぐれでバンド練習に参加することもあり、そのたびに楽譜を書き換える立希。ギターに向き合うと決めた愛音だが、まだまだ重なる変更にはついていけない。初ライブを目指す中、すれ違うメンバーたちは――。

Scene 1 「燈が書いてきたんだから、私がやる」立希が作曲に初挑戦

羽丘、天文部の部室でギターの練習に励む愛音。指が腫れるほど練習している様子だ。放課後のRINGにて、ライブで演奏する曲についての話になると、燈が新曲を書いたノートを取り出した。それを見て、「燈が書いてきたんだから、私がやる」と、立希が作曲することになる。翌日の月ノ森、睦にライブに出ることになったと話すそよ。「それが終わったら睦ちゃんも私たちのバンドに誘うね」と、やはり睦と祥子と共にバンドをすることを諦めていない様子である。



Scene 2 「毎日予約入れちゃったね」それぞれが前向きに初ライブを目指す

翌日のRING。一晩で曲を作ってきた立希。そこに楽奈が登場する。できたばかりの新曲をすぐに弾く楽奈。楽奈が即興で追加したフレーズを聴いて、立希は曲を作り直すと言いつく。練習終わり、月末まで毎日スタジオを予約する立希に、「頑張るか」と呟く愛音。練習から逃げていた頃とは変わり、向き合おうとしているのがわかる。その様子を見た燈は、自宅にて枕に顔をうずめ、歌の練習をするのであった。それぞれが、初ライブに向き合おうとしている。



Scene 3 「なんで今更」祥子と比べ焦る立希、周囲へ気を配る余裕はない

さらに翌日、立希は楽奈がいる前提で曲をアレンジし直したものの、気まぐれな楽奈は練習に来ない。楽奈が来ないとわかると、いらだちをあらわにしつつ「アレンジ考え直す」と言う立希。寝る間を惜しんで作曲するも、祥子が作曲をしていたCRYCHIC時代のことを思い出す。「燈の歌詞にふさわしい曲を書いてみせますわ」「これは曲を書いたわたくしの責務ですわ」と頼もしそうに語り、アレンジに悩めばすぐに的確なアドバイスをくれる祥子と、自身を比べているようだ。



Scene 4 「まだ全然合っていない」プレッシャー、自由さ、まとまらないバンド

また次の日の練習。今度は楽奈がいる。愛音が「楽譜どれ?」と尋ねると、立希が「昨日の」とぶっきらぼうに答える。楽譜を何度も変更するため、初心者愛音はついていくのが難しい様子である。立希が「弾けるまで個人練」と突き放すが、ギターに向き合おうとしている愛音にとっては酷に見える。さらに練習の途中で、自分が満足すると帰ろうとする楽奈。一方で立希も、初挑戦の作曲にプレッシャーと焦りを感じているように見える。バンドはまとまる様子がない。



Scene 5 「避ければ避けるほど追いかけてくる」そよと話す決意をする様子

翌日、また羽丘に様子に会いに行ったそよ。それを避けて羽沢咖啡店で睦と合流する様子。睦は「そよは今バンドをやってる。私も誘われてる」と話す。「わたくしへの当てつけですの」「避ければ避けるほど追いかけてくるということですね」と、そよと話す決意をする様子。「月ノ森に来る?」と提案する睦に、「行けるわけ……!」と声を荒げる様子。それなら「ライブの日なら会えると思う」という睦のアドバイスに、「いつですか?」と前向きに返事をする様子であった。



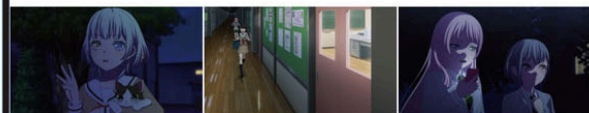
Scene 6 「私は様子みたいには出来ないんだよ!」溜め込んだストレスが噴出する

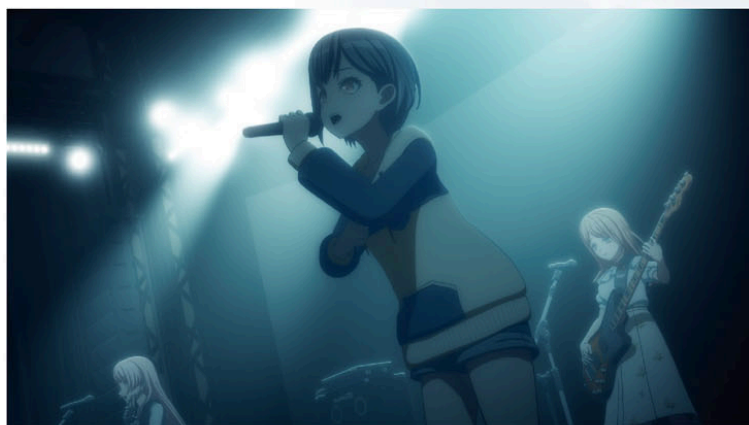
次の日の練習。ギターを練習をする愛音に、「そこ、違う」と強くあたる立希。「怒鳴らないでよ」と返す愛音、「もうちょっと人のこと考えてよ」と続ける。立希の焦りが言動となり愛音を追い詰めていたものが爆発したようだ。「みんなでやれば出来るんじゃない?」というそよに、「私じゃ頼りないってこと? 私は様子みたいには出来ないんだよ!」と、様子と比べていたプレッシャーも噴出する。その帰り道、「お姉ちゃんや様子が出来て、なんで私は……」と呟く立希であった。



Scene 7 「もう逃げられないよ」ライブ前日、がむしゃらに絆を繋ぐ愛音と立希

次の日の練習にも姿を見せない立希。「色々任せちゃってたのは確かだし……」「私、探しに行ってくる!」と愛音が飛び出す。場所は移り、花咲川。立希が帰ろうとしたところ、正門で愛音と燈が待っていた。逃げる立希、追いかける愛音。花咲川の校舎内で追いかつことがはじまる。転んで追いつき、そこに絆創膏を差し出す燈。その様子に笑う愛音。バラバラになったバンドだが、走って追いかけるというがむしゃらさでなんとか絆を繋いだ。最後は楽奈が登場し、花咲川中等部の3年生だと判明する。





#7

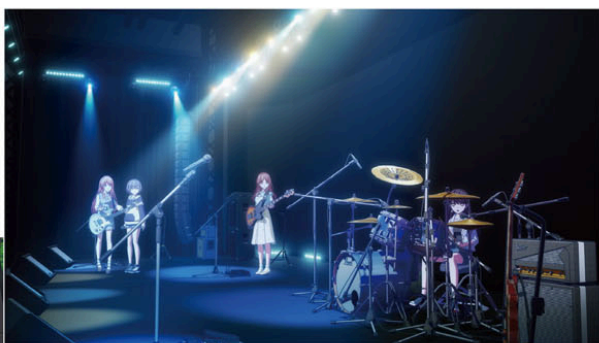
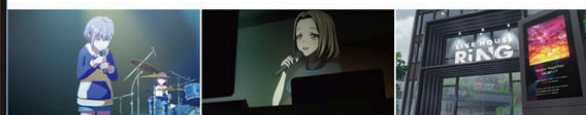
今日のライブが終わっても

脚本：綾奈ゆにこ
絵コンテ：梅津朋美(エディッツ)
演出：梅津朋美(エディッツ)
CGディレクター：遠藤 求、宮田拓実

5人にとって初めてのライブ。その当日がやってきた。リハーサルから緊張している様子が見て取れる。そのうえ楽奈は、今日も相変わらず自由奔放である。緊張した5人に、先輩バンドのPoppin'PartyとAfterglowが声をかける様子が微笑ましい。客席には、そよと対話することを決意した様子の子も。予期せぬことが起こり続けるバタバタの初ライブの幕が、いよいよ上がる。灯の声は、届くのだろうか。

Scene 1 「ギターちょっと待ってね」緊張の初リハーサル

いよいよ初ライブ当日。Poppin'PartyとAfterglowの合同主催ライブにピンチヒッターとしての出演である。リハーサルに臨む5人。慣れないことにとても緊張している様子である。サウンドチェックをするも、早く叩きすぎる立希、チューニングを忘れるそよ。待っている間に姿を消す楽奈、それを探しに行く愛音。なんとも上手くいかない。Poppin'Partyも「緊張してる?」と見学にやって来るが、灯もか細く「よろしくお願いします」と言うばかりである。



Scene 2 「灯はライブしてくれるだけでいい」緊張の灯を励ます立希

リハーサルが終わり楽屋に戻る5人。「他のバンドみんなすごすぎだし、ギター弾きながら歌ってる人いたし」と、真ん中がいいからという理由でギターボーカルを目指していた愛音とは思えないセリフも。ギターに向き合ったからこそ、その難しさを知り出た言葉であろう。「緊張してる?」と灯に尋ねる立希。灯は「前のライブのとき、お客さんがボーカル必死すぎて…」と、CRYCHICでのライブ後の声をまだ気にしている様子である。「灯のライブは最高だから」と励ます立希であった。



Scene 3 「Afterglowさんとしゃべったの!」顔を赤らめる立希の意外な一面

楽屋で待機する5人は落ち着かない様子である。Afterglowのモカとひまわりが「顔合わせやるよー」と入ってくる。先輩として後輩バンドを優しく気づかっているようだが、立希の顔は赤い。開演し、ステージが盛り上がり始める様子も楽屋にも伝わってくると、さらに緊張が増してくる5人。「もう一回だけ合わせよう」という立希の声で、本番直前まで調整を重ねようとする。そよが、「灯ちゃん、今日のライブが終わっても——これからも、バンドやっていこうね」と灯に声をかけ、いよいよライブがはじまる。



Scene 4 「お水、前でいい?」緊張した様子で迎える初ライブ

ステージが上がってからも、燈や愛音に声をかけて気づかうそよ。「準備は大丈夫?」と声をかけられても、あまり聞こえていない様子の愛音。演奏がはじまるが、入りをミスる。「もう1回お願いします」と仕切り直すも、またミスる。そよと楽奈がMCで繋ぎつつ、燈と立希が水を渡して励ます。客席から「がんばれー」と声が聞こえ見ると、そこにはクラスメイトの姿が。その姿を見て、愛音は集中モードに入ったように見える。燈も客席に目を向けると、そこに祥子と睦を見つける。



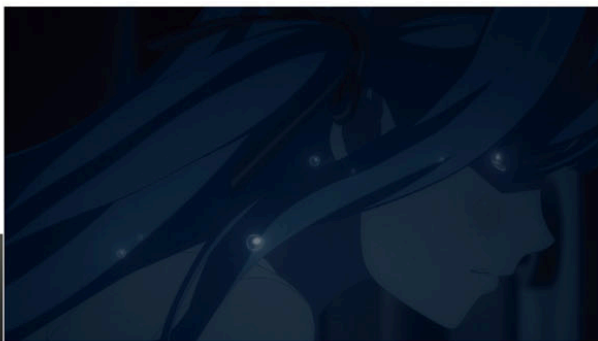
Scene 5 「頑張れって言ってくれた気がして」声が出ない燈を視線で励ます祥子

今度こそ曲がはじまる。鳴らされるのは「碧天伴走」。しかし緊張からか、燈の声がほとんど出ない。それを見た祥子は、燈に激励の視線を送る。その視線を受け取った燈は、本来の歌声を取り戻す。その後順調に曲は進み、観客も盛り上がり、愛音、そよ、立希には笑顔が見られる。曲が終わり、愛音の達成感のある笑顔が印象的だ。すると燈が、「来てくれて嬉しい。あのとき、うまく歌えなくて……」と語り出す。それは祥子へのメッセージのように聞こえる。



Scene 6 「迷子のままでも進みたい」燈、魂のMCで伝えたかったこと

楽奈が燈の言葉に合わせ、優しいメロディーを奏ではじめる。「私の歌は、心の叫びだから!」と過去に祥子にかけてもらった言葉を引用する燈。それを聞いてハッとした表情の祥子。楽奈の伴奏が次第に「春日影」に繋がっていく。予期せぬ2曲目、「春日影」。楽しそうに曲を演奏する愛音、立希とは対照的に、苦しそうな表情のそよ。誰かに届くようにといった表情で必死に歌う燈。5人の「春日影」を聴いた祥子は、次第に涙を浮かべ、会場を駆け去ってしまう。



Scene 7 「なんで春日影やったの!?!」CRYCHICを想うそよの怒り

祥子が会場を飛び出す様子を見ていたそよ。動揺しているが、無情にも演奏は続く。そよ以外の4人には高揚感が見られ、最大限にライブを楽しんでいる様子である。演奏が終わり別ける5人を「すごく良かったよ〜!!!」とPoppin'Partyの5人が迎え入れる。足早に去る楽奈。「大成功じゃない!?!」「うるさい!大っ成功だよ!!!」と嬉しそうな愛音と立希は、燈と3人で肩を組んでいる。遅れて戻って来たそよ。これまでの彼女の穏やかな表情から一変して、「なんで春日影やったの!?!」と声を荒げるのであった。





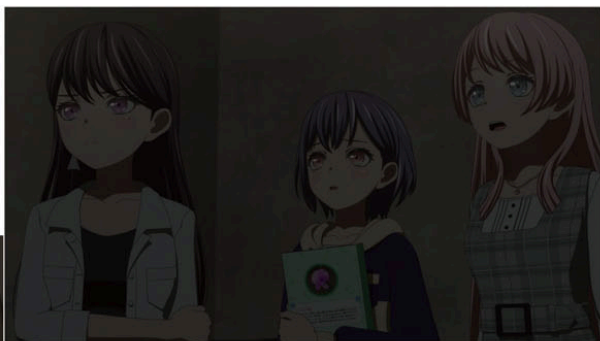
#8 どうして

脚本：小川ひとみ
絵コンテ：森田祐吏
演出：古賀公一郎
CGディレクター：古賀公一郎

ライブで「春日影」を演奏したことで、祥子を傷つけたと焦るそよ。これまで、温厚にみんなを支える役割だったそよの本心が描かれる#8。あまりにも的確にそよの心を突く祥子の言葉に胸が痛む。短期目標だった初ライブが終わり、またもやバラバラになるバンド。燈も「またみんなバラバラで」と心配しているように、このバンドはどうなってゆくのだろうか。

Scene 1 「祥ちゃん、泣いてた」祥子を傷つけたこと、その自覚がないことに怒るそよ

ライブ直後のステージ裏。「なんで春日影やったの!？」と怒りをあらわにするそよ。その怒りの原因がわからないといった様子の燈、愛音、立希に、そよは「祥ちゃん、泣いてた」と続ける。「どれだけ傷つけたかわかってる……!？」と聞くそよに、「だから何?」と冷たく返す立希。CRYCHIC解散は祥子に非があると考えている立希と、何か事情があったと祥子を慮るそよでは意見が食い違ふ。「あいつが泣いたから何。関係ないでしょ」と続ける立希に、「ひどい!」と言ってそよは走り去ってしまう。



Scene 2 「とにかく、そよさんと話さなきゃだよ」連絡が取れなくなったそよ

翌日、羽丘の教室。「昨日のライブすごかった」とクラスメイトが燈と愛音に、昨日のライブの感想を伝えている。褒められているものの、浮かない顔の燈。「そよさん優しいもん、許してくれるって」と愛音は慰める。燈と愛音で、隣のクラスの祥子の様子を見に行くことに。しかし、話し掛けることはできない。一方、花咲川。教室でうなだれている立希も、昨日のことを気にしている様子である。結局3日経ってもそよと連絡が取れず嘆いている愛音。燈も深刻な表情を浮かべている。



Scene 3 「全部、祥ちゃんがいたから」祥子に対する燈の想い

立希に相談する愛音だが、立希は「勝手に怒ってるのあいつだから」と冷たい。寮奈も来ておらず、「みんな勝手なんだから」とうなだれる愛音。燈はバンドの未来を心配している。月ノ森に足を運ぶ燈と愛音。そよは風邪で休みだと聞かされる。帰り、月ノ森から近い燈の家に寄る愛音。「祥ちゃんは眩しいところに連れてってくれて……」「なのに、春日影歌って傷つけた」と祥子への想いを語る燈。それを聞いた愛音は、元CRYCHICメンバーにとっての祥子の大きさを改めて感じているようだ。



Scene 4 「折り入ってお話したいことがありますの」初華を呼び出す様子

暗い部屋で1人、祥子にメッセージを送り続けるそよ。「ちゃんと説明させてほしい」「ごめんね」という文字が並んでいる。他方、屋上にて祥子と初華。「会うの1年ぶりかな」と親しげな様子である。初華に「バンドやってたよね?」と話を振られ、表情を曇らせる祥子は話を逸らす。初華と祥子の回想では、虫取りをしたり楽しそうな幼少期の2人。思い出話に花を咲かせていたが、「初華に折り入ってお話したいことがありますの」と切り出す祥子であった。



Scene 5 「睦ちゃんのせいだよ。あの時も、今も」睦にも声のトーンが下がるそよ

祥子から返事がなく、ブロックされているかを調べるそよ。学校に復帰して、なんともない様子で「祥ちゃんも一緒に来てくれたってことは、私たちのこと前向きに考えてくれるのかな」と睦と話している。「それは違う」と答える睦に、「思ったことそのまま言うよね」と、声のトーンが下がるそよ。「祥ちゃんの家、知ってるよね」「睦ちゃんのせいだよ」と続ける。帰り道の祥子の元に、睦から「今からそよと、祥子の家に行く」とメッセージが届く。決心した表情の祥子は、そよと睦を公園に呼び出す。



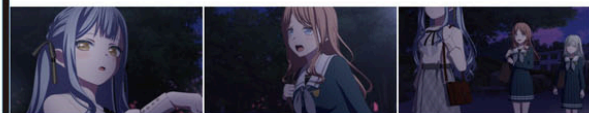
Scene 6 「つまねー女の子」不在のそよについて割れる意見

「書いて」と凜々子にスマホを渡す楽奈。「楽奈ちゃんがバンドにいつくなんて」と、驚きの凜々子に、「おもしろー女がいる」と答える。凜々子は「女の子、でしょ」と諭すのであった。一方、羽丘天文部の部室にいる燈と愛音に、楽奈から「バンドやる?」とメッセージが届く。急いでRINGに向かう2人。着いてもそよの姿はない。そよを待たしたほうがいいと言う愛音と、別にいなくてもいいと言う立希。燈はどっちつかずで口ごもる。それを見た楽奈は、「つまねー女の子」とその場を去る。



Scene 7 「おためごかしですわね」祥子に核心を突かれ、絶るそよ

再会するそよと祥子。「春日影、ほんととはやるはずじゃなかったの」と弁明するそよを、「おためごかしですわね」と一蹴する祥子。その様子を心配そうに見つめる睦。「CRYCHICをやり直したいの」と、初めて自分の願望を声に出すそよ。「睦ちゃんも呼んで、祥ちゃんにも戻ってきてもらうつもりだった」と、今のバンドを組んだ理由を明かす。祥子の腕を掴んで縋りつくそよに、「ご自分のことばかりですのね」と祥子。誰かのためにと思い行動してきたそよにとっては、衝撃的な一言だったはずだ。





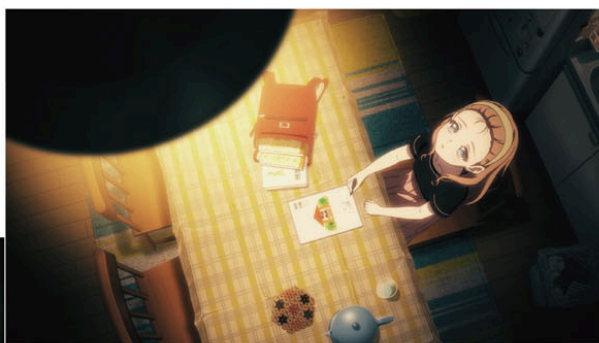
#9 解散

脚本：和場明子
絵コンテ：奥川尚弥
演出：遠藤 求
CGディレクター：遠藤 求

連絡が取れなくなったそよを中心に、またバンドに波乱が巻き起こる。そよは放っていけばいいと言う立希とは反対に、そよの心配をする燈と愛音。どうにかそよに会おうとするも、肝心のそよは、もうバンドは関係ないといった様子である。傷つく燈を見かね、これまで避けていた姉に力を借り、そよと話をする立希。そこでそよは、これまでの自分の行動の、残酷な真意を話しはじめる。

Scene 1 「そよがいてくれて良かった」昔から他人を優先して遠慮しがちなそよ

幼少期のそよの回想からはじまる。小さなアパートの一室で、ノートの名前を一ノ瀬から長崎に書き換える小学生のそよ。その後、母親とタワーマンションに住むことになったそよは、母の勧めで月ノ森女子学園の中等部に入学する。クラスでもみんなに合わせるように、自分の意見を押し殺しているように見えるそよ。数日ぶりに帰宅した母に家事は終わっていると伝え、「そよがいてくれて良かった」と言われ、とても満足そうな表情を浮かべているそよが印象的だ。



Scene 2 「こういうの始めようかなって」そよにとってのCRYCHICの日々

中学時代の回想は続く。吹奏楽部のコンサート終わり、祥子にバンドに誘われたそよ。羽沢珈琲店でCRYCHICのメンバーと顔合わせをし、カラオケに行き、スタジオで練習する。そんな日々が色鮮やかに思い出されている。充実していて嬉しそうなお様子である。そして回想は、CRYCHIC解散のシーンに行きつく。そよ視点の解散シーンは特に雨の音が強く、絶望感が強調されている。回想から戻り、自宅で「あれは解散じゃない」「また仲良くなる」「みんなもそれを望んでる」と呟くそよであった。



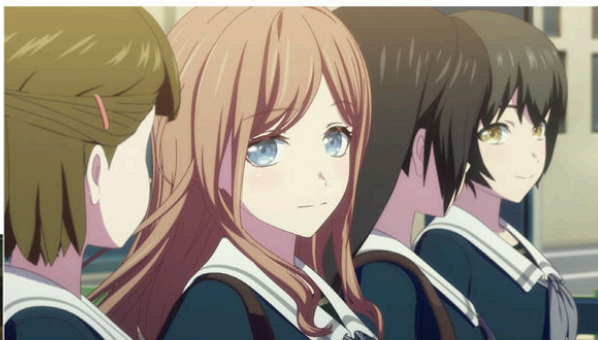
Scene 3 「そよさん家、教えてよ」そよを気にかける愛音

RING、前回奈奈に呼び出された帰りの燈、愛音、立希。そよについて「ほっとけばいいんだよ」と言う立希に、「そよさん家、教えてよ」と諦めない愛音。「そよちゃん、もう来ないかも」「奈奈ちゃんも私がいたら…」とまた自分を責める燈。そんな燈を見て立希は、「心配しなくていいからっ!!」と声をかける。睦の家。前日のそよと祥子のやり取りを思い出しながらギターを弾いている睦の元に、立希から「そよの家教えて」と連絡が。「知らない」「伝書鳩にはならない」と返す睦であった。



Scene 4 「もう、大丈夫だから」バンドと縁を切ったようなそよの言動

吹奏楽部の練習に参加するそよ。部員に遊びに誘われたそよは承諾する。「バンドは?」と尋ねられると、「もう、大丈夫だから」と答えるのであった。そよに会いに月/森に向かう燈と愛音。吹奏楽部仲間と帰る途中のそよとすれ違う。愛音が呼びかけるも、無視するそよ。燈は追いかけるが、追いつけない。場面は変わり、愛音から着信が入る立希。「無視された」と言う愛音に、すぐ行くからと返す立希。燈を心配している様子だ。改めて何かを決意した様子立希であった。



Scene 5 「CRYCHICにはいないよね。ふたりとも」開き直ったように真意を話すそよ

自宅にて、姉に声をかける立希。これまでは姉を避けていた様子だったが、燈のために相談を持ち掛けたのであろう。定期演奏会にてそよを捕まえ、「バンド、どうするの?」と聞く立希に、「もう関係ないから」と返すそよ。一生という誓いは嘘、愛音と楽奈が入ったのは想定外でCRYCHICにはいないなど、次々とこれまでの行動の真意を暴露しはじめる。そんなそよを糾弾する立希に、「立希ちゃん、燈ちゃんがいればいいんでしょ?」と、切り返すそよであった。



Scene 6 「前の方が忘れられないようなので」そよをめぐって、バラバラの3人

放課後、RING。新しいベースを見つけたと燈と愛音に話す立希。そよはどうするかと尋ねる愛音に、「あいつはもうダメだ」と返す。そこに海鈴が合流し、「30ほどバンドを兼任していますが、それでも良ければ」と自己紹介をする。練習を開始するものの、バンドメンバーが欠け動揺している中、突然の新メンバーと急な演奏が合うはずがない。演奏を止め、「話がまとまり次第、改めて相談してください」と去る海鈴。去り際、燈に「応援しています」と声をかけるのであった。



Scene 7 「私、いないんでしょ」そよの真意を知った愛音は、スタジオを去る

「一生やるって約束した!」とそよを気にかける燈に、「その誓いが嘘だったんだよ!」と、そよとのやり取りを説明する立希。「あいつは新しいバンドなんかやるつもりなかった」と明かす。愛音には、「お前も楽奈もいないって」「燈と私を繋ぎとめるために利用した」と続ける。その事実を知った愛音は「私、いないんでしょ」と、相当傷ついた様子でその場を後にする。またバラバラになってしまったことに、「もう、やだ……バンドなんてやりたくなかった……」と涙をこぼす燈であった。





#10 ずっと迷子

脚本：後藤みどり
絵コンテ：梅津朋美(エディッツ)
演出：梅津朋美(エディッツ)
CGディレクター：大森大地、遠藤 求

そよが真意を明かしたことで、バラバラになった5人。夏を迎える。初華に助言をもらった燈は、詩で自分の気持ちを伝えようと、1人でステージに立つのであった。後悔とやり直したい気持ちをまっすぐに歌った燈の詩に引き寄せられるように、徐々にステージに戻って来るメンバーたち。嘘、見栄、身勝手、様々な要因でバラバラになった5人が、ついになんの嘘もなく向き合うのであった。

Scene 1 「またダメになった」バンド結成の真意を知り、またバラバラになった5人

花咲川、季節は夏になっている。海鈴にバンドのことを尋ねられた立希は、「終わった」と答える。一方、月ノ森。学友と一緒にいるそよを、なんとも言えない表情で見つめる睦。燈は1人、「またダメになった」ととぼとぼ歩いている。「やらなければ良かった」と寂しそうで、学校でも愛音と話さなくなった様子である。「ちゃんと話したかった」「何も言わなかったから、また人間になれなかった」と後悔している様子で、ちっぽけな僕というタイトルのノートのページを破く。



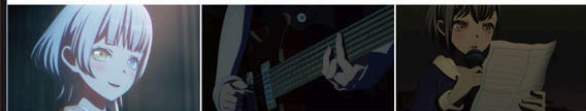
Scene 2 「伝わるといいね」初華と出会い、歌うことを決める燈

燈がみんなに何をどう伝えれば良かったのかと悩んでいると、プラネタリウムで初華と出会う。帰り道、階段から落ちそうになっているところを初華に助けられた燈。初華はCRYCHICの写真を思い出し、燈が元メンバーであると感じづく。「歌って伝わる気がするよね。上手に言えないことも、言葉以上に、気持ちが」「伝わるといいね」と初華に励まされた燈は、詩を書き始める。次の日教室で、愛音に「いっしょに、ライブやって」と声をかける燈。しかし「そよさんどうすんの」と断られる。



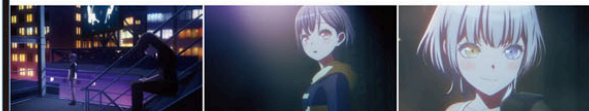
Scene 3 「これは歌です」メンバーに届くまで、1人で歌い続ける燈

ソロでライブをすることにした燈。曲もない詩でステージに立つ。「……みんないなくて、曲もないけど、これは、歌です」と言った後、はじまる燈の朗読。「僕が壊してしまった」「僕が手を離してしまった」と後悔が歌詞に表れている。それを聴いていた楽奈、ステージに乱入し伴奏を奏ではじめる。燈と楽奈、2人のステージ。「この詩が届くそのときまで、うたい続けるって決めたんだ」という燈の想いに、拍手を送る観客。楽奈は「おもしろい女の子」と微笑むのであった。



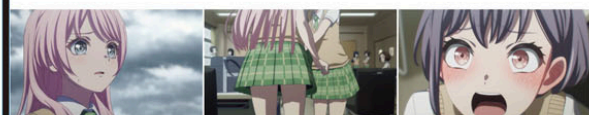
Scene 4 「燈の歌を聴いてわかった」立希に伝わる燈の想い

「こんなの初めてなんだけど」「歌詞、前と違うよね」と燈の詩に涙する観客が増えてくる。アルバイト中の立希の元に、「ドラムやって」と楽奈が迎えに来る。楽奈の挑発的な表情に感化され、ドラムを叩きはじめる立希であった。その様子を睦が客席から見ている。ライブ終わり、RINGの外階段で話す燈と立希。「燈の歌を聴いてわかった」と、燈の詩が立希に伝わったようだ。そこに睦が現れ、「そよは……わからなくなってる」と伝えて去る。何かを決心したような表情の燈であった。



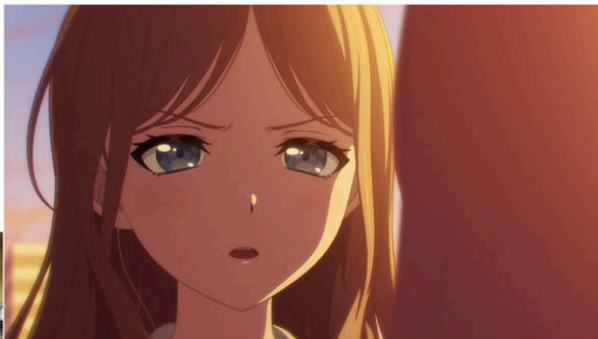
Scene 5 「見栄だよ!!」包み隠さず素直になる愛音と、それでも愛音を諦めない燈

次の日学校で、「ギター弾いて」「いっしょにライブやって」と改めて愛音に声をかける燈。「私、いらないんでしょ」と答える愛音に、「愛音ちゃんいるよ!」と手を掴んで必死に訴える。その場から逃げ去る愛音、追いかける燈。2人は屋上に辿り着く。バンドをはじめた理由は見栄だと打ち明ける愛音に、「愛音ちゃんは、必死でもがいてて」「いっしょに迷子になろう」と訴えかける燈。観念した愛音は、「燈ちゃんのせいだよ」と返すのであった。曇り空の隙間からは、光が差している。



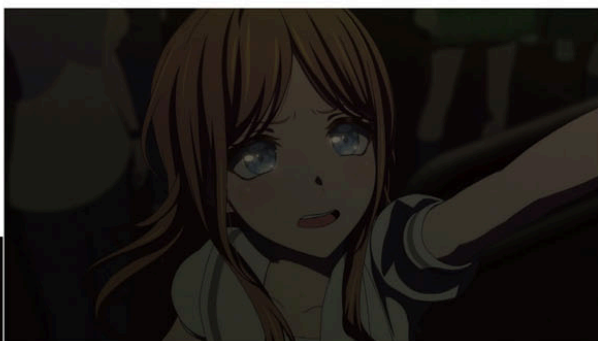
Scene 6 「私はやるけど」そよに対し、バンドに戻る意思を示す愛音

月ノ森の正門前。出てきたそよに、待ち伏せていた愛音が声をかける。「話聞いてくれるまでついてくから」と、結局そよの家に行くことになった愛音。そよがすべてを打ち明けて以降、初めて対話する2人。「あんたが私をいらないって言うのが、私はやるけど」とバンドに戻る意思を伝える愛音。「見栄で始めたくせに」と言うそよに、「私たちが始めたバンドじゃん」と返す愛音。それに対しそよは、「だったら私が終わらせてあげる」と宣戦布告するのであった。



Scene 7 「ゆるされるなら僕は あきらめたくない」初めて嘘偽りない言葉で向き合う5人

RINGのステージには燈の他にも、楽奈、立希、愛音の姿が。客席にそよの姿を見つけた燈は、「終わらせにきたの」と言うそよの手を掴んで、強引にステージに上げる。4人がそよに、待ってたよとでも言いたげな視線を向け、そよも演奏に加わる。「きみといることがどんなに楽しかったかも まだちゃんと覚えてないから」と、燈のまっすぐな詩が5人に染み渡る。立希、愛音、そよ、燈の目には涙が浮かんでいる。燈のまっすぐな想いがステージに渦巻いていくのであった。





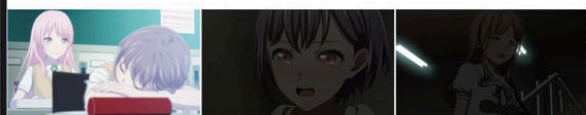
#11 それでも

脚本：小川ひとみ
絵コンテ：森田祐吏
演出：古賀公一郎
CGディレクター：古賀公一郎

前話のライブを終えて、わだかまりが無くなった5人が、次のライブに向けて準備する様子が描かれる#11。3日後までに新曲と衣装を準備する必要があるということで、かなりバタバタの様子だ。5人で泊まり込みで準備し、時折口論になりつつも、そこに以前のような打算や駆け引きはない。本心でぶつかれるようになった5人の絆が、少し深まった様子が見て取れる話となっている。

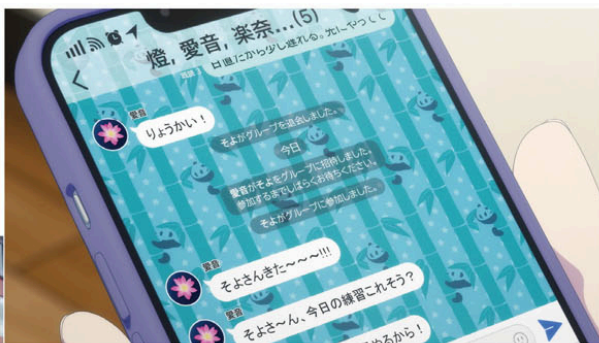
Scene 1 「それでも……、一生、やる」燈が繋いだ5人の絆

演奏終わり、ステージで涙するメンバーに、観客も涙を流しながら温かい拍手で見送る。直後のステージ裏、「ここには終わらせに来たの」「私、みんなを利用してたんだよ」と涙ながらに訴えるそよに、「それでも……、一生、やる」と力強く答える燈。「一生なんて、バカみたい」と返すそよだが、本音でぶつかり合った5人が流す涙はとても晴れやかである。翌日、羽丘の教室。荘子の「胡蝶の夢」の授業中、その漢詩通り夢うつに眠っている燈と、後ろの席からそれを満足そうに見ている愛音であった。



Scene 2 「もう無いから」バンドを続けることへの疑念を拭いた面々

一方、花咲川。海鈴と初華が翌日のスケジュールを調整している。「仲良かったっけ」とそれを不思議そうに見る立希の表情も、満足気である。スマホの画面には、そよがチャットグループに戻って来たことが表示されている。「バンド、丸く収まったみたいですね」「また何かあればいつでもどうぞ」と言う海鈴に、「もう無いから」と返す立希であった。月ノ森のそよは、吹奏楽部の仲間に放課後を誘われているが、「今日スタジオ入る？」という通知をみて、やんわりと断るのであった。



Scene 3 「そっちは謝るのヘタすぎ」互いに認め合う愛音と立希

放課後、RING。次のライブを急かす楽奈に、「ライブ感動した?」と聞く愛音。それに対し楽奈は、「感動した」とまっすぐに答える。そこにそよがやって来る。嬉しそうな燈。立希は「かなり練習した?」「来てない間もやってたでしょ」と愛音に聞く。「あんなこと聞かされてもやってたのはえらい」と、CRYCHIC復活のために利用していたと聞かされても、練習を続けていた愛音を見直している様子である。その後、燈がライブのスケジュールを取っていたことを知り、3日後に新曲と衣装を用意することになる。



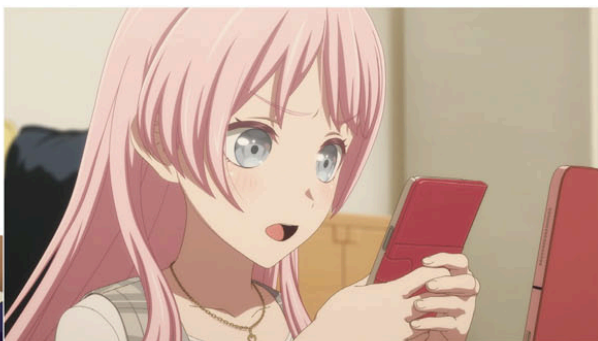
Scene 4 「バンドもそよさんも諦めなかった」燈について語る愛音とそよ

「このバンド、いけると思う」「だから、次は、ちゃんとライブしたい」と語る立希。燈と楽奈を家に呼び、翌日までに新曲を形にするようだ。愛音は衣装を作ると張り切る。帰り道の愛音とそよ。「燈ちゃんって、頑固だよな」と言うそよに、「頑固じゃなきゃ、私たちとケンカしてまでそよさん取り戻そうとしないよ」と答える愛音。驚いた表情のそよ。「私もう、そよさんって呼ばないから」「私、やめないから!そよりんもやめんなよ!」と愛音。2人の間にも遠慮とわだかまりが無くなったようだ。



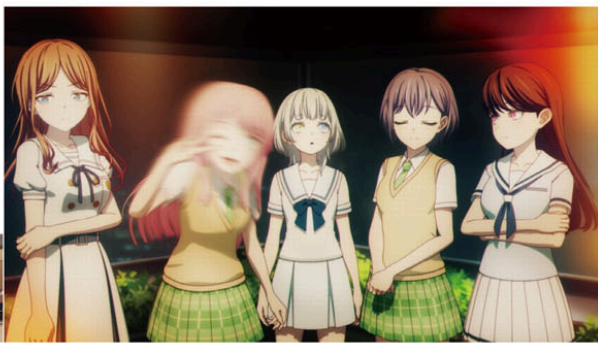
Scene 5 「ANON TOKYO一択でしょ!」ライブ準備1日目

ライブ準備1日目。メッセージを送り合いながら新曲制作と衣装作りをそれぞれを進める5人。愛音のスマホにやむがドラムを買ったという動画の更新通知が届く。一度動画を開くも、閉じて衣装を考えることに集中する様子に、「時短で楽してワンランクアップ作戦」と言っていたときからの成長を感じる。翌日、江戸川楽器店。歌詞も衣装もまだできていない様子である。愛音は機材を購入している。「なら、うちで話す?」というそよの提案で、そよの家に集まることになった5人であった。



Scene 6 「ほんととは、何考えてるかわかった」そよと立希の和解

そよの家に集まった5人。「DTM、いつから勉強してたの?」と尋ねるそよに、「中学。また/バンドやるとき必要かもって」と答える立希。歌詞も衣装もまとまっていなかったが、5人とも互いに遠慮なく意見を言い合える様子。5人で写真を撮ろうと持ち掛ける愛音。撮れた写真はさんざんな出来だが、それでも思い出の1枚には違いないだろう。そよに「そよがCRYCHIC忘れられないこと」「気づいてた」と明かす立希。「気づいてて、私も利用してた。だから、私も最悪」と、過去そよに言われた言葉を肯定する。



Scene 7 「……傷つかずに一生は、無理」改めて一生バンドしたいと語る燈

翌朝、結局まだ歌詞も衣装もできていないようである。愛音の家に集まり、衣装を作る4人。歌詞が上がり、新曲を作って合流する立希。おばあちゃんがライブハウス・SPACEをやっていたと語る楽奈。「一生あるって思ってた」「でも、居場所ってまた誰かが作るんだって」とおばあちゃんの言葉を伝える。それを聞いて、「泥だらけになって、いっぱいもがかなきゃ……」「それでも、みんなと一生バンドやりたい。何回転んでも、迷っても……」それを聞いて愛音は、バンド名を「迷子のバンド」とする案を思いつく。





#12

It's my go!!!!

脚本：和場明子
絵コンテ：林 翔子、日高初美、鈴木大介
演出：大森大地
CGディレクター：大森大地、山之口 創、鈴木大介

泊まり込みで新曲と衣装を準備していた5人。いよいよライブ当日がやってくる。衣装を身に着け、当日の朝まで練習していた新曲を披露する。迷いながらも進みたいという決意が改めてステージ上で叫ばれる。ライブ後にはバンド名も確定して、ようやくバンドとして少しまとまった様子が描かれる。その一方で、様子为实现させようと動いていたバンドのメンバーが、着実に集まりつつあった。

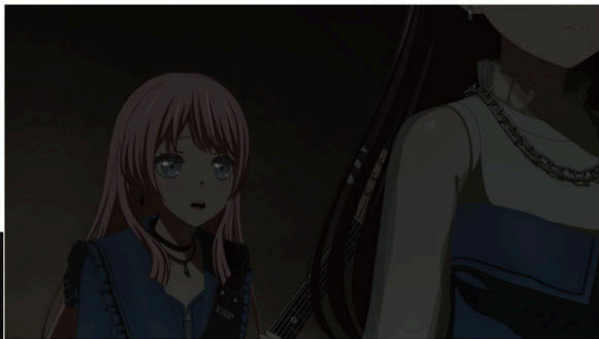
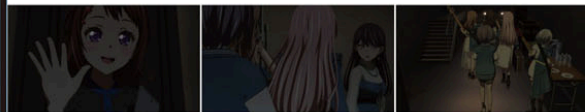
Scene 1 「完成したんだよね?」ライブ直前、ようやく完成した新曲

いよいよライブ当日。5人のエントリー名は「迷子のバンド」となっている。スタジオでギリギリまで音を合わせている5人。愛音が「できた」と呟くように、新曲がライブ直前でようやくまとまったようだ。5人は前日まで泊まり込みで制作していた衣装も身に着けている。「完成したんだよね?」という愛音の問いかけに、立希は「できたは、できたよ。けど……」「あれで良いかはわからない」と歯切れ悪く答える。消して万全とは言えない状況に不安そうな様子であるが、出番はやってくる。



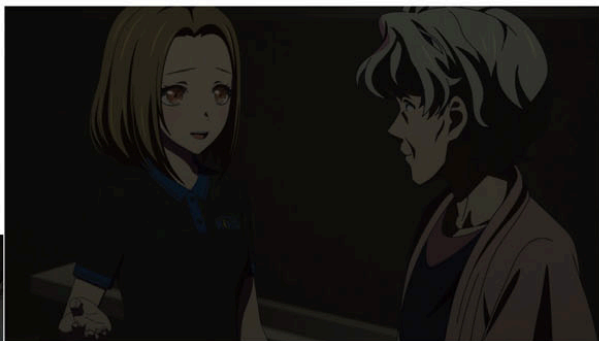
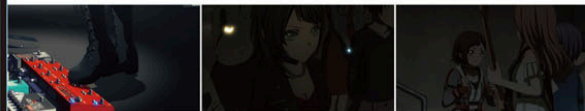
Scene 2 「It's my go」いつも迷子のバンド。そのバンド名は

本番直前のステージ裏。香澄が「マイゴいますか〜?」と呼びに来るなど、「迷子のバンド」というバンド名は定着していない様子。「いつも迷子だから付けたのに…」と呟く愛音は、「It's my goだよ!」何かを隠したように大声を出す。「いつも迷子」と日本語訳の「私の出番」のダブルミーニングを思いついたようだ。「燈、愛音、楽奈、そよ」とメンバーを呼びかける立希。しかし言葉に詰まり、「何でもない」とステージに向かう。ステージ裏で燈は香澄からマイクを受け取るのであった。



Scene 3 「居場所を見つけたって言うからさ」野良猫が語る居場所

ステージ上、購入したての機材に戸惑う愛音。「どれだっけ?」としゃがんでもたついている愛音の機材を、「これでしょ」と足で操作して助けるそよ。それに対し愛音は「私まだ踏んでないのに!」と嘆くのであった。先輩バンド、海鈴、睦、SPACEの元オーナーが見つめる中、いよいよライブがはじまる。元オーナーは、「孫が世話になってるね」「居場所を見つけたって言うからさ」と語り、楽奈が元オーナーの孫である、楽奈がバンドを居場所だと思っていることがわかる。



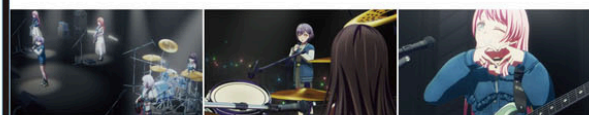
Scene 4 「僕もいる 叫ぶよ」ライブ1曲目・迷星叫

スタートしたライブ。1曲目は「迷星叫」から。何かを伝えようと真剣に演奏していることが、5人の表情と、「僕もいる 叫ぶよ」という歌詞から伝わってくる。観客も盛り上がりを見せ、先輩バンドや睦たちも温かく見守っている。曲の後半は、5人共いい意味で力が抜け、リラックスして演奏しているように見える。初ライブから、様々な形で5人でライブを乗り越えてきた成果だろうか。楽奈も楽しそうに演奏しており、それを見て元オーナーも嬉しそうな表情を浮かべている。



Scene 5 「でも、今ここにいる……」燈のバンドに懸ける想い

演奏が終わりMC。愛音は観客の呼びかけにハートを作って応える。「今の曲は朝でできた曲で……さっきまで練習してました」と「迷星叫」の裏話を話してしまう燈。メンバー紹介では、「あのちゃんみたいな迷子になりたいくて」「心細いときにそばにいてくれます」「バンドのこといっぱい考えてくれて」「バンドのこと、ずっと大事に思っていて……ありがとう」と、メンバーへの気持ちを改めて伝える。「一生離さないから!!」と燈が強い決意を叫び、2曲目「迷路日々」へと繋がる。



Scene 6 「このほうが進んでる感あるよ!」バンド名がMyGO!!!!!に決定する

「迷子でもいい、迷子でも進め」という叫びから最後の曲を演奏したライブ後。ステージ裏で燈がバンド名を「MyGO」とノートに書く。そのノートに愛音が「このほうが進んでる感あるよ!」と「!」を5つ付け足し、バンド名がMyGO!!!!!となる。楽屋に戻る最中、燈に「離さないでくれて、ありがとう」と伝えるそよ。楽屋内、袋の中にぎゅうりが置かれている。ライブを「……よかったね」と言う睦に、「睦ちゃんにだけは言われたくない」と、そよはぎゅうりを突き返すのであった。



Scene 7 「残りの人生、わたくしにくださいませんか?」バンド結成のために動く祥子

RINGの外で海鈴と合流する睦。「決めたんですか?」と尋ねる海鈴に、頷いて答える睦。別日のカフェにて、祥子が動画配信者のにやむをバンドに誘っている。にやむがドラムを演奏する動画を見て声をかけたという祥子。「顔と数字」に魅力を感じていると伝えて喜ぶような自己顕示欲が強いにやむに、初華や睦と言った、有名で界隈とコネクションが強いメンバーを売りに勧誘を続ける。「残りの人生、わたくしにくださいませんか?」というセリフからは、祥子の本気を感じる。





#13

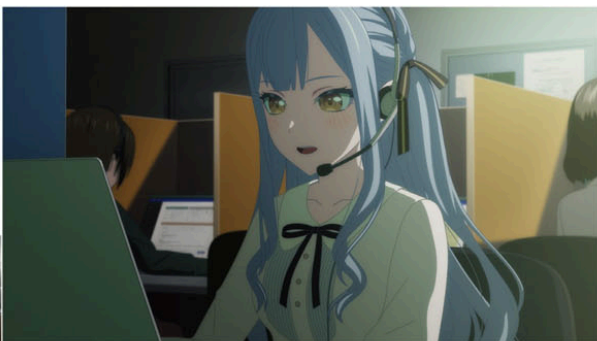
信じられるのは我が身ひとつ

脚本：綾奈ゆにこ
絵コンテ：奥川尚弥
演出：山之口 創
CGディレクター：山之口 創、小川浩太郎

MyGO!!!!!のライブから打って変わって、祥子の行動の真相が明らかとなる#13。それは、祥子がコールセンターでアルバイトをしているという衝撃的な光景からはじまる。バンドメンバーを集めていた祥子であったが、その理由の一端が垣間見える。祥子が結成したバンド・Ave Mujicaの圧倒的な世界観に引き込まれるライブシーンは必見である。祥子とAve Mujicaが目指すものとは――。

Scene 1 「弱いわたくしは――もう死にました」祥子の過去にあるものとは

コールセンターにてアルバイト中の祥子。祥子はこれまで、お嬢様キャラのように描かれていたのでかなり衝撃の光景だ。その後睦の家に向かい、「すでに他のメンバーは揃いましてよ」と尋ねる。それに対し「入る」と返す睦。MyGO!!!!!のライブの帰り、海鈴と話していた決断は、このことだとわかる。「祥が壊れそうだから」と言う睦に、祥子は「弱いわたくしは――もう死にました」と返すのであった。祥子の過去に何があり、睦は何を知っているのか、謎は深まるばかりである。



Scene 2 「一瞬一瞬を沢山かさねたら、一生になるんだと思う……」打ち上げをするMyGO!!!!!

RINGのカフェにて、抹茶パフェでライブの打ち上げをするMyGO!!!!!。パフェの写真を撮る愛音に、待ちきれずパフェに手を伸ばす栞奈。アルバイト中の立希も、遼々子の許可で参加するのであった。「ライブって、一瞬で……」「でも、あのときの気持ちや、眩しさは、確かにある」「そういう、一瞬一瞬を沢山かさねたら、一生になるんだと思う……」と、ライブで感じたことを話す燈。「本当に死ぬまでバンドするつもり?」と尋ねるそよに、「うん」と力強く答えるのであった。



Scene 3 「結構やばいんだよ?」燈の歌詞に向き合う辛さを語るそよ

帰りの電車にて、燈、そよ、立希。燈の最寄り駅に着き、立希がいつも通り燈を送っていくとしたところ、そよが「今日は燈ちゃん、私が送ってくから」と制し帰っていく。歩道橋にて燈とそよ。「燈ちゃんの歌詞――前から苦手だったんだ」「考えだすと死にそうになるから、考えないようにした」「燈ちゃんとバンドするって、そういうのに向き合うってことだから」と打ち明ける。燈の歌詞に共感できるからこそ、向き合うのが辛かったと語った。CRYCHICのことは忘れられないが、それでも進むと決める2人であった。



Scene 4 「一瞬の積み重ねだったら、案外いけるのかもなーって」改めて一生を誓う愛音

そよの胸の内を知り、帰宅後すぐノートに想いを綴る燈。翌日、書いたノートを、音楽室でピアノを弾く祥子に持っていったが、祥子は受け取らず、「お幸せに」と横を通り過ぎる。放課後、祥子にノートを受け取ってもらえず悲しそうな燈を気づかい、水族館に連れて行く愛音。「……心にも、絆創膏貼れたらいいのに」と呟く燈に、「私は、貼ってもらったよ」と返し、燈に励まされた瞬間を挙げていく。「一生バンドやるってやつ。私も頑張ってみる」と改めて燈に一生を誓うのであった。



Scene 5 「信じられるのは——我が身ひとつ」その覚悟で舞台に上がる祥子

ライブ会場。動画撮影をしているにやむに、「素顔を晒せば、Ave Mujicaの世界観が壊れます」と忠告する祥子。祥子自身がライブの総指揮を取るなど、バンドへの熱意が伝わる。「舞台の上ではあなたはアモーリス」と呼び掛ける祥子に、オプリビオニスと呼び返すにやむ。ステージネームが付いているようだ。ライブ前、「こちらをお忘れなく」と仮面を装着する5人。「焦りや後悔は——全てここへ置いていって。——舞台上に上がれば、信じられるのは——我が身ひとつ」と覚悟の表情を見せる祥子であった。



Scene 6 「…ようこそ。Ave Mujicaの世界へ」Ave Mujicaのマスカレードが開幕する

Ave Mujicaのマスカレードは演劇パートから幕を開ける。迷い込んだドロリスは、自分が人形であると聞かされる。「まだかすかに人間の匂いがついていますね」「ここは捨てられた人形たちが集められた」と、他の4人の話に戸惑うドロリス。ロフトムーンの月の光により、彼女たちに仮初めの命が宿っている。「マスカレードの前に仮初めの名を与えましょう」と、名乗りの後演奏がはじまる。「…ようこそ。Ave Mujicaの世界へ」の一言を皮切りに、圧倒的なAve Mujicaの世界観に染め上げるのであった。



Scene 7 「ただいま……くそ親父」祥子の秘密とは——

ライブ終わり、SNSのトレンドで上位を占めるAve Mujica。ライブ終わりに一息つく4人の一方で、先に帰り支度を整えた祥子。4人を帰るように促し、「少し火照りを冷ましたいので、電車で帰りますわ」と先に帰ってしまう。打ち上げをしたかったと嘆いているにやむ。電車を降りた祥子は、古びたアパートに入っていく。玄関を開けると、転がっている缶ビールの空き缶が靴の先に当たる。ため息をついた祥子は散らかった狭い部屋を見つめ、「ただいま……くそ親父」と呟くのであった。



“普通”とか“あたりまえ”ってなんだろう

今 手にある物差しでは
全然上手く測れなくて
吐いては また吸い込んだ不安に
僕は為すがまま立ち尽くして

不器用で 空回って
傷つくことから逃げている
現実とノートで行ったり来たり 慰めて
ああ なんて生きづらい世界なんだろう
だけど だけど

ぜんぶ ぜんぶ 僕だから
うじうじ しくしく 僕だから
ぜんぶ ぜんぶ 抱きしめて
少し眠ろう

痛いの痛いの飛んでゆけ
悲しみにすべてを奪われないように
僕は 僕の味方でいようよ

まだまだ長い道の途中
ちょっとくらい休憩したって
誰にも叱られはしないから

人の顔をうかがいながら
流されるままに衣食住
…僕は何がしたいんだろう
こんなにも惨めで 情けなくても
僕はまだ自分を変えられそうにない

気弱で 八方美人
嫌われることを恐れている
現実とノートで行ったり来たり 励まして
ああ なんて生きづらい世界なんだろう
だけど だけど

ぜんぶ ぜんぶ 僕だから
いじいじ めそめそ 僕だから
ぜんぶ ぜんぶ 抱きしめて
少し眠ろう

痛いの痛いの飛んでゆけ
物事になんでもかんでも
意味を見出さなくなっていくからさ

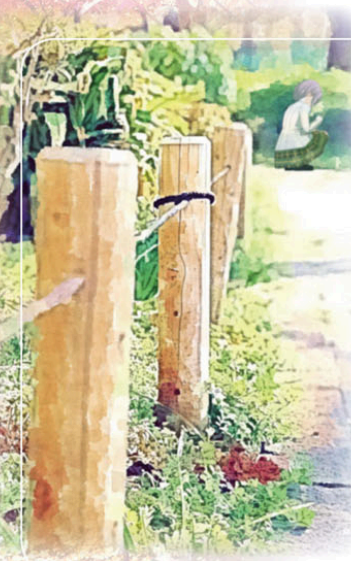
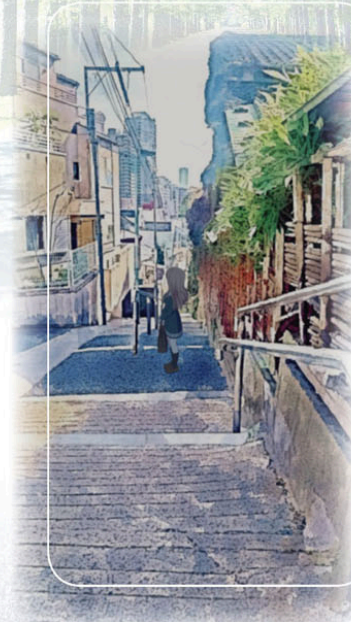
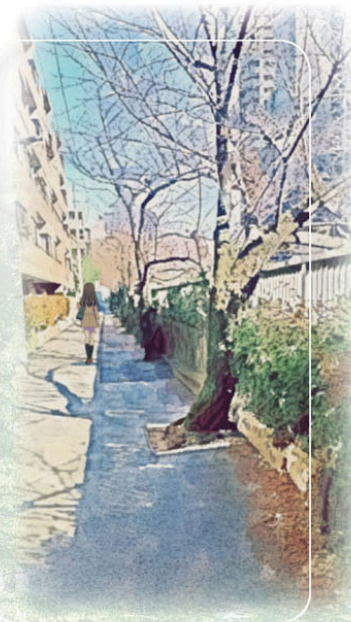
信じてもいいのかな？【いいよ】
ここにいてもいいのかな？【いいよ】
頑張りすぎないように
気づいた時でいい
自分自身を優しく受け止めて

ぜんぶ ぜんぶ 僕だから
うじうじ しくしく 僕だから
ぜんぶ ぜんぶ 抱きしめて
少し眠ろう

痛いの痛いの飛んでゆけ
悲しみにすべてを奪われないように
僕は 僕の味方でいようよ

たった一度の僕の人生
愛するかどうかは 僕次第
だとしたら精一杯に

ああ 言葉はみずみずしく光るよ
だから だから



栞

歌：MyGO!!!!

作詞：織田あすか (Elements Garden)

作曲：藤田淳平 (Elements Garden)

編曲：藤田淳平 (Elements Garden)

INTERVIEW about story

監督：柿本広太 × 高松 燈役：羊宮妃那

「It's MyGO!!!!!!」で描かれた 生きるということ

「雨だれ」からはじまる冒頭は、美しく見える解散にしたかったんです。

——お二人は、「It's MyGO!!!!!!」のストーリー面を振り返っていただけだと思います。まず、アニメ放送当時を振り返って、記憶に残っていることはありますか？

柿本広太（以下、柿本）…実は我々制作陣は、オーディションのテーマデモを聞いたとき既に「あれ？ 燈が受けに来てる」って話していたんですよ。

羊宮妃那（以下、羊宮）…そうなんですか？

柿本…オーディションで羊宮さんが歌われたときに、「燈がいる」って確信したんです。

羊宮…オリジナル曲を歌ったのを評価していただいたっていうのは、お聞きしました。でも、テーマの段階からというのは……はじめてお聞きしました。

柿本…羊宮さんが演じる燈の声が、本読み（※スタッフ内での脚本の読み合わせ）のときに、制作陣の中で出来上がった燈の声のイメージと一致してたんですよ。

——本読みの段階で理想の燈の声があったんですね。

羊宮…私実は、事務所に所属してすぐのMYGO!!!とは全く関係ない頃、日頃の思いを書き出すための自由帳を作っていて。燈ちゃんみたいに、自由に言葉を書きながら書いてました。アニメ放送後に、久しぶりにその自由帳を開いてみたら、燈ちゃんのノートがパッと頭に浮かんで、これは運命なんじゃないかって思いました。

柿本…作中の燈のノートに書いてある「ダンゴムシ」とかって、作詞されるいろんな方の詩集を拝見して、その中の落書きを参考に燈風に

書いたものなんです。今、羊宮さんもういうのを書かれていたと聞いて、僕も運命を感じました。



羊宮…実は、もう1つ運命を感じたことがあって。コロナ禍の梅雨に、雨の曲を作っていたんです。そのときにいろいろ考えていて、「この雨だけはこの世界を洗い流してほしい」っていう意味の歌詞があったりする曲なんですけど、初めて「苅平空」を聞いたときにそれを思い出して、また燈ちゃんとの運命を感じました。

——第1話の冒頭も雨でしたね。

柿本…「雨だれ」からはじまるやつですね。冒頭は解散からはじまる流れだったのですが、美しく見せたかったんです。雨が綺麗で画面が滲んでる中で、しんどい、重い話をしてるっていうのをやりたくて。オープニングテーマの「苅平空」は、何曲かの候補の中から一番スロウなものの1つに決めさせてもらいました。詩はSUPA「LOVE」の藤原優樹さんに燈の作詞なので、天才が書く詩を書いてくださいって無茶なお願いをしたんですが、本当に天才の詩が来てびっくりしました。笑。本編中の曲は、内容に即して曲調や歌詞の方向性を提示するのですが、オープニングテーマはお任せで、あれを出されたら何も言うことないですよ。

羊宮…最初のひとしづくに顔上げたとかまさに燈ちゃんばいですよ。

——劇中歌で一番好きなのはどの曲ですか？

柿本…「春日影」ですかね。この話を作る最初の段階で、CRECHICについての思い出の曲として、みんなの心を捉えて離さない、すごく綺麗な曲を作ろうって思ってたんです。曲と話を並行して作っていったら、出来上がったその曲がいつの間にか物語の中心になっていました。「春日影」をどこで出すのかっていうのはすごく考えましたね。当時の燈のありたいか、全部が出ている曲で、とても好きです。

羊宮…私は「碧天伴走」が大好きですね。サビの「頑張ってる。十分。君はもう」って歌詞がとっても好きで、感情が揺さぶられるときって物事にしっかり向き合っている、つまり頑

大きくは成長していない。でも自分の心に 決着をつけて、進んでいけるようになる。



はそんなに大きくは成長していない。でも1人1人が自分の心に決着をつけて、ちょっとだけ視点が変わって進んでいけるようになるという話なんです。欠点を補おうとか隠そうとするんじゃないで、それに向き合い、それを抱えて生きていく。そんな姿が見る人に突き刺さるものになればいいなと考えながら作っていました。

羊宮：作品を通して、「何をもつて悪いことなのか」ということをずっと考えていました。そよちゃんやみんなを利用したり、愛音ちゃんが自分のためにバンドメンバーを集めたリ……。本当にみんな身勝手にやっていて、視聴者さんにとっても、見ていて気分が良くなる綺麗な話だけではなかったと思うんです。でももしそよちゃんや本宮がCRYCHICに戻りたいと思っていたら、そよちゃんがヒーローになっていたわけで。相手の気持ちはわからない、自分の気持ちしかわからない中で、成長しながら乗り越えていった。結果のよし悪しや評価だけがすべてではなく、その過程を大切にしたい。迷いながらも歩いていくことの大切さを、私自身もすごく感じました。

柿本：この人はうちから見たら悪い人だし、でも他の視点から見るとその行動が理解できたり。そういうのをフラットに、いろんな角度から描ければと思って作っていました。こちらから「こう解釈してください」というよりは、感じたものをそのまま持つて帰っていただけだと思います。

「アフレ」の中で、監督から羊宮さんに要望を伝えることはありましたか？

柿本：一緒に収録したときは、話の流れを説明した後で羊宮さんに「燈はどう思いましたか？」って投げ方をしていました。というのも、燈のセリフが「うん……」とか「ふん……」みたいなのが多くて（笑）。



羊宮：今まで演じてきた中で、燈ちゃんが1番台本に「……」が多い子でした。燈ちゃんは起こったことをそのまま受け止めちゃう子で、受け止めてそれをどう解釈するかの「……」だと思っています。それを表現するのがすごく難しかったです。

柿本：同じ「……」でも、燈の気持ちのライオンが当たる方向が違うというか、角度が違う。それがどの「……」なのか、すごく掘り下げて演じてくれました。

——その「……」の正解はどうやって作っていましたか？

羊宮：基本的には、私が考えて持っていたものを、一度テストでやってみて、そこから「もとわかりやすく音にしたほうがいい」とか、微妙な差みたいなものを監督からディレクションをいただいて、本番にぶつけるという形でした。

柿本：キャラクター性はほぼ共有できている感じだったので、主に聴こえ方の調整でしたね。「それだと嬉しそうに聞こえちゃう」とか、意図していない聴こえ方をしているところを調整する感じでした。

羊宮：この「It's MyGO!!!」の現場ですごくドラマがあるなと思っていて。自分がテストでやったものに、追加して言葉が出たところがあったんです。そのときは、「間違えて付け加えちゃった」と思っていたんですけど、燈ちゃんならここで付け加えちゃうのかなといった心情を汲み取ってくださって、監督から「これ使いたいです」って採用していただいたことがありました。

柿本：テストを本番として使ったところは結構多かったですね。やっぱりみなさんしつかり気持ちを作ってきていて、1発目でバツと出してくれるので。愛音ちゃんの「私じゃないんでしょ」もそうだったんですが、あのセリフもテスト1発目で背筋が凍りました。

張るのときだと思うんです。アニメの要素要素で、みんなの感情が揺さぶられるポイントがたっさんあって。私は「碧天伴走」が歌詞的にも音楽的にも大好きです。MyGO!!!になくてはならない曲だと思ってます。

柿本：「碧天伴走」は立希ちゃんが初めて作った曲です。CRYCHICのままでピアノメロインの上品な曲を歌ったのに、いきなり叫ぶ曲になって、燈、頑張ったなって思ってます。

——お2人が、A×T「It's MyGO!!!」を通して一番伝えたいことはなんですか？

柿本：制作の中では、キャラクターを神格化しないことを意識していました。キャラクターはいろんな欠点を持つて生きていて、その欠点こそが1番の魅力なんだというように考えていました。MyGO!!!のキャラクターたちも、実



羊宮…あのシーンは、本当に今までになく、辛い苦しくなっちゃって。その後に続く「もう、やだ…バンドなんてやりたくないかった…」が、めちゃくちゃ言いやすかったです。

柿本…「ヤバいこと言わせちゃったな」みたいな。本当に現場の空気が凍るくらい、すごかったです。キャラクターを演じるうえで、お芝居が上手いとかももちろんあると思うんですけど、それも関係ないぐらゐの勢い、感情、キャラクターの全部が乗った、血が通ったセリフがたくさんあるのが、この作品の魅力だと思っています。この5人でなければできない演技を間違いないやっていただけたと思っています。林さんも「こんなにツンケンしてるのは初めてです」って言うてたんですけど、最初の舌打ちから良かったですからね。

「立希ちゃん」ってなりました。最初の一発目から、キャラクターがブレている人がいなかった。MYGO!!!はキャラクターみんな我が強いので、できるだけ裏表なく、キャラクターに寄せてはしゃいだので。そよが第2話で愛音と喋るときの、「（ぎぎげんよう）って言うかな」ってセリフの声も怪しくて好きなんです。キャストのみなさんが、すごい読み込んでキャラクターを解釈してくださってるのがわかりましたね。

—お2人は自身の中で「MYGO!!!」のバンドをどう解釈してしましたか？

柿本…まず、MYGO!!!はパンクバンドだっていうのを解釈の端緒にしています。僕、パンクが好きなんです。かっこ悪くてタサくて、でもそこがこーい。パンクバンドってどんなのだろっ？「ポールはどんな感じだろう？」「MYGO!!!ってどんなバンドなんだろう？」と考えていて、最終的には自分の心の内すべてをステージにさらけ出せるバンドになつてほしいという解釈になりました。リアルバンドのライブにも伺いましたが、自由でかっこよくてすごく良かったです。ライブを見ていて、いつの間にかうちも拳を握っちゃうようなバンドになつていくってこれだいたいなと思っています。

羊宮…私は正直、最初はあまりMYGO!!!には向き合っていなかったかもしれないです。燈ちゃんとして歌うにあたって何が必要なのかと考えていて、燈ちゃんと向き合うにつれてメンバーへの想いも膨れ上がり、それぞれのキャラクターたちにも向き合っていく感じがすね。

—第10話の「詩超絆」のライブシーンがすごく印象的でした。このような気持ちを含めて作ったのを聞かせていただきたいです。

柿本…第10話をどう作るかというより、第9話までに5人を、どうやっても復活できないぐらゐまで追い込もうと考えていました。その後のことは後で考えよう。第9話を書いてくださった和場明子さんがきっちり追い込んでくれたので、「さて、ここからどうしよう…」ってすごい悩んだんです。そんな中、プロジェクトミュージックさんから「ポエトリリーディングに挑戦してもらいたい」という話をいただいたのを思い出して。羊宮さんもオーディションのときに伴奏なしで歌っていたので、これが燈が戦う唯一の武器だなて思いました。燈が1人で、自分の力で動き出すとしたら、彼女にできることはそれしかないなと。

「詩超絆」の詩の発注も、朗読ライブを重ねるごとに推敲され洗練されていく燈のノートの中身を先に4・5本作って、それを「この延長線上にある完成系を作ってください！」って感じでお渡ししました。燈はどう戦うか、他の4人はどうしているか、1つ1つの事象を拾っていったら、第10話の脚本が出来上がっていました。本当に無駄なく全部がハマっていました。でも僕としては、「何話の何の回収をしなきゃ」とか、要素の取りこぼしがないかがずっと不安で…。第10話の放送を観ているときも、ずーっと不安だったんです。でも放送後、視聴者の方からの反響が大きくてびっくりしました。キャストとスタッフ1人1人が、この話で自分が何をやるべきかというものが

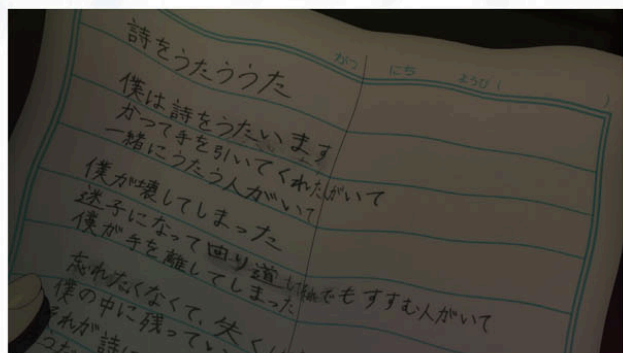
見えていて、先を走ってくれていました。僕はその後ろから、取りこぼしがないかを拾っていた感じです。脚本の後藤みどりさんも前半の長いポエトリリーディング部分を全部書いてくれたり。彼女は結構ロジックで脚本を作っていくタイプなんですけど、その部分は詩人が宿ってるんじゃないかみたいな勢いで書いてくれました。全員がこの第10話に特別なものを感じて、自分がやることを100%、150%やり切ってくれた話だったと思います。

羊宮…私は燈ちゃんを演じさせていただけ

血が通ったセリフがたくさんあるのが、この作品の魅力だと思います。



燈ちゃんの成長を演じるうえでは、 考えなきゃいけないこともたくさんありました。



気にすることなく、燈ちゃんになりきって歌えていることが、自分の中ではすごく成長を感じました。でも反対に、燈ちゃんの成長を演じるうえでは、考えなきゃいけないこともたくさんある。「君天伴走」から「迷路日々」までの歌の方も、「ここはこうして」はこうして「みたいなことを決めていました。感情に任せすぎると、それは燈ちゃんの成長を表現するのではなく、私の成長をお見せすることになっちゃうので。

——お2人が一番好きなシーンを1つ挙げるとすればどこでしょうか？

柿本…僕は第7話ですね。「春日影」で「咲き誇る大切な人」って歌うときには、もうちゃんがいなくて、あんなに悔しい。全然届いていないところ。あと、劇伴に小さい奇跡がいろいろ起っていて、冒頭の解散シーンも、作って、じゃあ「雨だれ」を1回流してみようって流したら、曲の流れとシーンがぴったり合うちゃつたり。フィルムスコーピング（コンテ）に合わせて劇伴を作る）したのかなみたいな。もちろん意識して作っている劇伴もいくつかあるんですけども、基本的に曲とシーンは別で作っている。でも何も調整しなくて合うっていうのが多かったんです。

——みんなの解釈が一致しているからなのでしょうか？

柿本…それもあると思うんですけど、複数のシーンに流す劇伴もあるので、それだけじゃないと思います。MAGNUMはやっぱり何か持ってるんじゃないですかね（笑）。

羊宮…私は「迷路日々」のライブシーンです



ね。ずっと泣いていました。声優としてお芝居の発声に力を注ぎたいけど、歌の発声に向き合わないって燈ちゃんの叫びは絶対に表現できないという矛盾に苦しんでた時期が続いていたんです。それが本当に「迷路日々」のライブシーンを見て、今までやってきたことが報われる気持ちになり涙が溢れました。燈ちゃんをアニメで演じ切るにあたって、ようやくここで一段落したように思えました。なので「迷路日々」は、こんなにボロボロ泣くことがこれまでにあったかなっていうくらいずっと泣いていました。

——他に2つを作る中で、印象に残っていることはありますか？

羊宮…私は、ポエトリリーディングの語りですね。「燈ちゃんはこのほろろするけど、ここはこう」みたいな流れについては細かいディレクションがあった印象があります。燈ちゃんってどこで感情が動いていて、どこで決心しているのかとかあんまりわからなかったんです。抱え込んでそうだけど、淡々と語ってるだけっていうバタリとかもいろいろある中で、ポエトリリーディングにおいては段取りがあったなと思うていて。

柿本…確かに。燈がいう「人間になりたい」ってどういうことなのか、みたいなのはしつづいた感じがします。燈は人のことがわからないけど、でも演じる人は、人のことがわかるじゃないですか。わからないということがわからない、でもそれを理解しないとキャラクターを作っていくけない。なので最初は丁寧にすり合わせた感じがします。燈が拗ねてるんだか怒ってるんだかつかつかつかしましたよね。

羊宮…愛音ちゃんやそちゃんに、燈ちゃんのせいじゃないって言われて、「誰も悪くないなら……」なんで解散したの？って言ったシーン。そこは拗ねるんだってびつくりしたシーンです。

柿本…そういうのを最初のうちは共有していききましたね。

——その他、制作時の印象的なエピソードはありますか？

羊宮…アニメの中で、初めて燈ちゃんと愛音ちゃんが、「ともりん」「あのちゃん」って言い合

となたその日から、歌がすべてだと思っていました。「詩超絆」のデモを聴いたとき、正直、「これどうやって素晴らしい仕上げたらしいの？」という感想でした。感情の付け方が全部自分次第だったんですよ。それがすごく難しかったんですけど、でも私が燈ちゃんだしみたいな葛藤がありました。でもいざレコーディングすると、実はそんなに何回も取り直した記憶はなくて。自分を褒めたいって思えるくらい、先にいっぱい悩んで良かったなと。

——レコーディングまでに答えを見つけていたんでしょうか？

羊宮…レコーディングのときに、燈ちゃんの気持ちを考えて演じていたら、それが出たって感じ。燈ちゃんを演じはじめた当時と比べると、音程とか音圧とか、歌唱において何も



うシーンがあるんですけど、アフレコするとき、そのシーンをみんなで合わせたとき笑いが起こりました笑。

柿本…その後のシーンで撮った集合写真も笑いました。最初はレイアウトで言って、キャラクターが置いてあるだけなんです。それを撮影さんが処理してくれて、出来上がったのを見たら顔がブレブレで(笑)。愛音ちゃんが「撮り直そうよ」と言っているのに、燈と楽奈が行っちゃったところが結構好きです。あとは、衣装を作るときに、チョキチョキ切ってる楽奈ちゃんにみなさんが気づいてくれたのは、結構嬉しかったです。楽奈ちゃんってちゃんと言われたことをやってくれるんですよ。心情とかキャラクター性も、随所に入れ込んでいて、伏線とかを探すのが好きな方は、特に面

白かつたんじゃないかなと思います。

—この作品だから伝えられること、この作品ならではの魅力はなんですか？

柿本…やっぱり生きているキャラクターを描きたかったですね。そのうえで、バンドものなので、1人で解決する話にしくなかつた。成長しているかどうかじゃなく、向き合えるかどうかという話をやりたい。これが正しい道だよねというふうにはしなくなつた。1人1人が「自分で今こを歩いているんだろ」「何してるんだろ」と不安になりながらも、歩くのをやめないっていうことがやりたかつたんです。みんな迷子のつもりだけど、もしかしら誰かにとっては大正解の道を歩いているのかもしれない。5人が自分しか見えない暗中模索の道にはまり込んで、迷子のまま歩いていたら、愛音と道が交わったとか、そういう人間関係を書きたくて。「燈ちゃんはこの道を来たんだね」「愛音ちゃんはこの道から来たんだ」「みなでもないそうやって、その道が交差することで、また新たな視界が開けていったりするんだと思います。

羊宮…生きるってこういうことだよ。燈ちゃんが人間になりたいって思っていたその人間像を、燈ちゃんはどう持っていたか、考えて。考えて迷いながら苦しみもあったし、考えなくもなつたこともあったし、ちよと頑張るときもあるし。そういうものも含めて人間だよって思います。暗中模索の道で、何をやってても失敗することもあるし、上手いくこともある。「吉雲空の」「もしこの雨が上がつても忘れずに歩いてくよ」とか、「葉」の「ぜん

ぶぜんぶ僕だから」とか、全部受け止めて、迷いながらも進んで行く。それが生きるってことなんだろうなと感じた作品でした。

—M'sのM'sのキャラクターたちを見た後に、香澄を見た、超人に見えました。

柿本…3rd Stageまではやっぱり奇跡を描いてきたと思っています。人の気持ちの後ろ暗い部分には光を当てないというルールを設けてその中で作ってきました。M'sのM'sとAve Mujicaは反対に、むしろそれまでの作品では光の当たらない負の感情やどうしようもないエゴに焦点を当てて、奇跡は起きないというルールで作っていました。第10話だけは奇跡を見てもらう話だったんですけどね。

羊宮…でも第10話で泣けるのはこれまでに積み上げてきたものがたくさんあったから。だからこそ5人が集結して、涙ながらにみんな向き合って演奏していることが、もう本当に感動的すぎました。あのシーンはたくさんの方々に観ていただきたいくらい、本当に感動的な作品です。

—この先のBang Dream! Ave Mujicaや劇場版に向けて期待しています。

羊宮…「It's MyGO!!!」を観て感銘を受けた人は、「Ave Mujica」を見た絶対泣くと思います。私、第10話を迎える前のタイミングで、「第10話を見た人は絶対に他の人にも勧めたいかな」と思っています。言っていて、実際に、「本当に勧めたいかな」という投稿をたくさん見かけました。だからこそ今言いますけれど、「Ave Mujica」も絶対に勧めたい

なる作品になること間違いなしですので、ぜひお待ちいただけたらと思います。「Ave Mujica」でも心をぐちゃぐちゃにしたいだいて、絶対に泣けるのでぜひ！

柿本…「It's MyGO!!!」がMyGO!!!だけの話じゃなかったように、「Ave Mujica」もAve Mujicaだけの話じゃないんです。10人の話で、どちらにウェイトを置くかの問題です。MyGO!!!の5人も出てきますし「MyGO!!!」のその先の話も描かせていただいているので、ぜひ見ていただきたいです！



不安になりながらも、歩くのをやめないうつていうことがやりたかつた。

はやくさく連

CRYCHIC

余は書い
神と読め、ならん
書きとらんが、知らん
わかんない、一歩
たのしみだ、空を空
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、

美しい

逃げて
ない
逃げ道？
逃げてモ
迷子...

余は書い
神と読め、ならん
書きとらんが、知らん
わかんない、一歩
たのしみだ、空を空
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、

余は書い
神と読め、ならん
書きとらんが、知らん
わかんない、一歩
たのしみだ、空を空
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、

余は書い
神と読め、ならん
書きとらんが、知らん
わかんない、一歩
たのしみだ、空を空
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、

温かい

余は書い
神と読め、ならん
書きとらんが、知らん
わかんない、一歩
たのしみだ、空を空
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、
読め、読め、読め、

がつ にち ようび ()

CHAPTER #3

LOOKING BACK [Live]



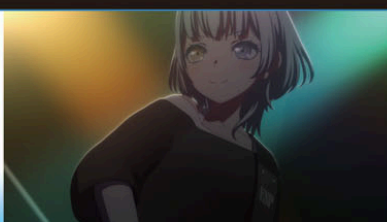
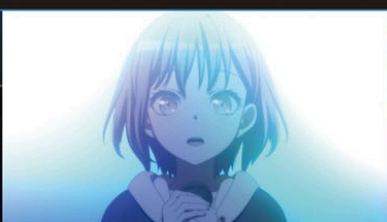
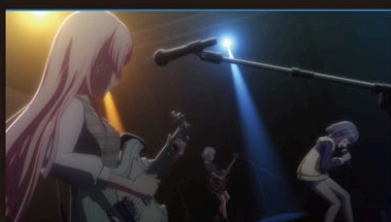


#7 ライブアーカイブ Live archive

バンドを組む上で、短期目標と言っていたライブ。機会はやって来たが、ライブに出るか出ないかの葛藤、新曲をまとめるうえでの衝突。様々な喧嘩やすれ違いを乗り越えて、ようやく辿り着いた初ライブ。バンド名も衣装もまだないが、5人で立つ初めてのステージであることに変わりはない。バンドをする目的も、演奏の技量も、何もかもバラバラの5人が、初めて1つの方向を目指したステージである。



リハーサルから慣れない様子の5人。バタつきつつもなんとかライブは幕を開ける。客席には愛音の友達や、祥子と睦の姿も。演奏される曲は「蒼天伴走」。曲がはじまるも、緊張で入りをミスする愛音。楽奈とそよがMCで騒ぎ、煌と立希が愛音に声をかけるなど、支え合って乗り越えようとする様子が見られる。無事演奏は開始されたが、今度は煌の声が出ない。それを見かねた客席の祥子は、煌に激励の視線を投げかける。



祥子の激励に背中を押された煌は、徐々に調子を取り戻しはじめる。煌の声に引張られるように、高まっていく演奏、盛り上がる観客。ステージに立つ5人に笑顔が見られ、バンドとしてステージで演奏していることへの、楽しさや高揚感が伝わってくる。曲が終わり、「迷子のままでも進みたい」「私の歌は心の叫びだから」と語る煌。煌の想いに呼応するように、楽奈がギターを奏ではじめる。その音色はCRYCHICの思い出の曲「春日影」へと繋がっていく。



本来は演奏する予定ではなかった「春日影」が奏でられる。煌にとっては、CRYCHICも今のバンドも、共に大切なバンドであることには変わらない。しかし、CRYCHICを歌ったこの曲を、祥子と睦の前でCRYCHIC以外のバンドが演奏する。それはCRYCHICを特別に想う者にとっては、とても残酷な仕打ちであった。涙をこぼして会場を走り去る祥子。それを見ていたそよは、演奏の手は止めないものの、表情は暗く、コーラスもない。



BanG Dream!
バンドリ★

BanG Dream!
It's my GO!!!!

#7
ライブパート絵コンテ

Storyboard

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0068		受音、立ち、その ステージへ。 1バタ、2バタ、我 足がにまの 後。	(受音) 時間短かっし、 橋一本やそこい。 (正音) はい！ (正音) お願いします。	2+0
		歩出す。 2歩、3バタ、4バタ。	(受音) ……	
0069		〇同、ステージ 下軸。	(受音) ザワ ザワ ザワ…	
		灯、イン。 まふしい… あす。 マイクさき、あ だまれに。		
			(受音) ……	3+0

TOTAL [+]

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0072		灯。	(受音) うん	
		音はほどよい ギターの音。	(正音) (ギター) ギタ…!!	2+0
0073			(受音) うわ！ ごめん！	
		あけて、アップ 操作、13受音 さよ、燈の光を ステージ、 モニターの裏に 置く。	(受音) 受音ちゃん、 ゆでりて、 いいからね。 (受音) うん～(受音)	

TOTAL [+]

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0069		セッティングもめんど 4人 音楽、慣れたチグで シグター、の音はいる さあ、イスの音、調整 受音、三角形に2070 さよ、アップ、慣れた音、 受音に、慣れた音、		
				5+0
0070		灯とさよ。	(受音) 荷物はいはい、 だね	
		燈の抱えた バケツ、 取って、あすさよ。	お水前ど いい？ (受音) ……うん	6+0
0071		さよ。	(受音) がんばろうね	2+0

TOTAL [+]

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0075		フロアのまはらで 観客... 707座席が 明るいため よく見える...		3+0
0076				
		バレと 顔伏せる 状態。	(V音)!	
		フ...と 照明落ちる		
		そ...と 顔上げ。 拍手起る。	(SE) (拍手) パチ パチ パチ...	5+0
TOTAL [+]				

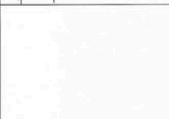
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		置いておいて のいて煙を うかす。		
		板はす座。		8+0
0074				
		煙、ボカシ 定位置へ戻す。		
		そ...と 顔上げ。 定位置に 戻る。	(V音)	5+0
TOTAL [+]				

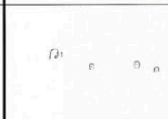
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		そよ、 立ちと受音を 見る。	(SE) (拍手) パチ、準備は 大丈夫?	
				9+0
0081		ふんてお前か 何してるんだよ 立席、おじいちゃん。	(立音)	
		受音を見る (受音マイクから スタート)		2+0
0082		おい ランバはくっている 受音、固まってる。	(立音)!	
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0077		ハコ... ひとまずおし する煙。 また拍手。 ※P8思っているの 源のせいでない スラム。		3+0
0078		心配の立席と 早く弾ける音楽。	(立音) (立音)	3+0
0079		0017 LO集	(立音) えっと... (立音) 煙ちゃんノート (立音) あ	
		煙しげんで 正元ノートを 置く。	(SE) (マイクON) 初めまして、 ピチセッターの出るに なりました。	6+0
0080		ギター見たまま 固まっている受音。 緊張、肉にそ いない。	私は5分ずつドット しているので、 緊張、肉にそ 燃えています。 (SE) (拍手) パチ、パチ...	
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		演奏始める。 ①ブム ドッ ドン!		30
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		音に合わせる ために、スネックを 打ち鳴らす立席。 ビクと顔も上げる 愛音	⑤セ(スネック?) カンカン!	30
083		緊張してデインの 愛音、 立席の方を振り 向く。	⑥愛音!	
		腹ぐり、 ゴクリ、ときち なく顔く。	⑦愛音	30
084		大丈夫か...? (タイムスロー) 不安の立席	⑧セ	
		フォロー。 入り目線合わせ て、		
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		愛音前の観客。 気まずくして スミ見ながら アウツ。 (表情マーク)	⑨あ... ⑩(マイクON) (観客-PAキー) すみません、 もう一回お願いです	
		会話しはす他の客 立席と愛音、 また目線合わせ て演奏始める。	⑪ブム ドッ ドン!	
		リズムもミス。 止まる。 愛音焦って 合わせずに	⑫ジャガジャガ ジャ... ⑬愛音!	
		トアイル始まる たどたどしい 何度もミス。 立席、スネック で愛音に合わせる。	⑭ジャガジャガ ジャ... ⑮タン!タン!	
		Q、ハズする 愛音 手はさす立席、 1走り愛音 MC始めるをエ D	⑯愛音! ⑰(マイクON) すみません、もう おたふ、アウツで おたふで えい、愛音ちゃんはどう かな?	30
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
085		LO最 愛音ギターソロ 早ミス	⑱セ ジャ ベ ベ	
		演奏止まり。	⑲愛音 あ!	
			ごめん!	
		愛音と立席 また目線 入り合わせる		
		ガ またミス。	⑳ブム ドッ ドン! ㉑ジャガジャ ベベ	
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0096		△ 煙の煙 煙の中身 前トナとOL		
		TB		247
			以下 Live 19+	
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0092		右席の子い かなこ・えい 衣服 かんぱれ!のジス チャー、見たるよー! の手振!	(まいかなこん!) (笑い) XTEL-VH2AD	210
0093		嬉しい愛音 煙	(愛音) (煙)	
		気付く。 愛音「やるぞ!」 とギターの手元 見て準備。	! (煙)	3+0
0094		煙と祥子、愛音 手元から会話し ては、「ライブを 見るの音はいいと 思ってるから」と の笑顔でかわら ぬの笑顔がはい	(愛音) サワ サワ	3+0
0095		LO兼 出で行くモブと 入れ替わるふにん入 り。愛音、くさる 祥子。 返す煙。	サワ ♫ (新曲)	3+0
TOTAL [+]				

PAGE	SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
	1006		煙。 祥子に気を取られて 歌いだし遅れる。	♪ (1A)	
			全然声が出ない。 気も落ちる。 あわ・・・あわ・・・	・・・ としれず かたおとしてる きみがいる のに...	5+00
	1007		観客たち。 「?」 「真合悪いのかな?」 「こういう歌?」 顔を見合わせる。	暑すぎる	1+06
	1008 A		煙と祥子。 無感情にステージを見 る煙。 来たくなかったのに... の祥子。	空ばかりが 眩しい	2+12
	1008 B		PAN 愛音倒。 引き続き緊張&必死。 煙もうつむき気味で あわ...		1+06
TOTAL [+]					

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1001		PAN 愛音。 ミスしないように〜 〜!!! ガチガチ緊張状態。 手元ガン見。	♪ 前奏	1+21
1002		立巻 なんとか 始められたか? まだ油断できない。		1+06
1003		PAN そよ。 劇とのんき。		1+06
1004		ステージ全景。 ジワTB 祥子に気を取られてい る煙。		1+18
1005		PAN 愛音倒。 愛音は演奏できて楽し い。		1+06
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1014		無感情でステージを見る。 娘んだ指先に力が入る様子。 「燈なによってんだ」 もどかしい、苛立ち	♪ 生きる	1+21
1015		俯いて歌う燈。 まだ声は出てない。 ぼそぼそ。	僕らは 傷つく	2+03
1016		祥子。 力が入る口元。 顎を引く。	生き物	1+06
1017		そろ…と 顔を上げる燈。	で	1+12
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1009		発音。 必死。	【発音】 (MONO) この調子で~~~~…!! ♪ 僕は どんな 言葉を 君に	
1010		燈なめ立希。	言えば いいのか	5+00
1011		立希。	君に 【立希】 (MONO) 燈、全然声出てない…	1+06
1012		カット戻 燈を見るそよ。	何を 【そよ】 (OFF) 発音ちゃんよりは 落ち着いて見えた けど、	2+12
1013		俯いて歌う燈。 「？」の観客たち。 スマホ見たり、隣の子 と喋ったり、全然盛り 上がってない。	脆く やわい ところ で やっぱり 前のように は……	1+06
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1020		大きく息吸い。	【燈】 (息吸い)	1+12
1021		燈。 「がんばる!!」 声出る。	♪ (1C) 頑張ってる 十分 君は	2+18
1022		「!!」 はっとうれしくなる 立希。	もう	0+18
1023		「えっ急にどうした」 驚くそよ。		0+21
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1018		顔を上げる祥子。	♪ なのに	0+12
1019		祥子。 キッと顎引き。	今日	
1019		「がんばれ!!」の 眼光。 汗散り。	だっ	1+06
1020		燈。 正面から風。 気持ちを受け取る。	て	(0+18)
1020		口元寄りFr.		
TOTAL [+]				

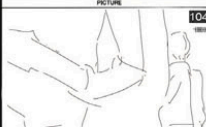
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1028		1028 PAN 燈も調子出し、 楽しく演奏する 立希、そよ。	♪ 必死なん だから	2+21
1029		1029 燈回り込み。	ジタバタで ラクじゃ	
		1029 燈と奏奈。	ない けれど	
1030		1030 PAN そよ。	迷っても	5+06 1+18
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1024		1024 観客席からQPAN 観客はまだそこまで 盛り上がりかけてない。 スカスカ。	♪	
		1024 歌えてる燈。	置いて 転んだって	1+21
1025		1025 PAN 愛音側。 愛音は自分の演奏に 必死で燈の変化には 気づいていない。 まだ手元を見て必死 だが、序盤よりは少 し余裕が出てきてい る。	立ち 上がり 来たんだ	2+18
1026		1026 奏奈。 燈の変化を 「おもすれ〜」 楽しんでいる。	頑張ってる	1+18
1027		1027 PAN ステージ全景。 俯瞰。	いつでも ここに立ってる だけで	5+12
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1036		1036 ドラマあおり。	♪ (2A) 誰か	1+00
1037		1037 PAN ステージ後方からの 全景。	には ちっぽけな ものだったと しても 君にとっては なにより 大事なとこと	9+21
1038		1038 PAN 睦と祥子。 睦は相変わらず無表情 。祥子はどこかほっとし たよう。	壊さないで 失わないで 守りたいから	4+21
1039		1039 ノリノリの まい、かなこ、えり。	となりに い る	2+15
1040		1040 PAN 愛音側。 少し手元から視線上げ る余裕も...	(2B) 「僕なんか」 言うのは やめるよ	6+00
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1031		1031 PAN 立希。	♪ 君と 進んで	2+21
1032		1032 PAN 愛音。 少しだけ緊張和らぎつ つ。	みたい よ	
1033		1033 燈。	いいかな	
1034		1034 PAN 奏奈。	♪ (間奏)	5+06
1035		1035 PAN そよ。		1+18
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1045		PAN コーラスする そよ、立希。 ♪ (コーラス) つたー		1+18
1046		コーラスする愛音。 えー から 3DTB		2+12
		♪ (2C) 頑張ったよ マイクから身を引いて 演奏に集中する愛音。 歌う燈。		1+12
1047		PAN 愛音、そよ。	君だって	
1048 A		PAN 頑張、ステージ全景。 思うように いかない そんな 毎日 だって		1+06
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1041		PAN 素奈側、 手元。	♪ 君にも	1+18
1042		PAN そよ、立希。	言って ほしく ないから	2+12
1043		PAN 立希。		1+12
1044		QPAN 燈。 1044	顔 上げて	1+06
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1051		素奈、 回り込み。		
		首下げて 浸って演奏。		
		勢いよく弾き切って 定位座に戻るために ドラムのほうに アウト。		
		素奈アウト後、 奥の燈にフォーカス。	♪ (D) らしき なんて	7+03
1052		PAN 増え始める観客。 ちょっとノリ始めてる 人もいる。 演奏しながら定位座に 戻る素奈。	まだ わからない	2+21
TOTAL [+]				

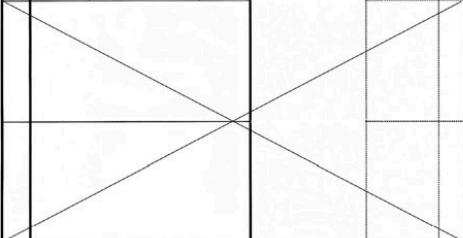
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1048 B		PAN 燈。 あおり。	♪ 頑張ったと 知ってる 僕は知ってる だから	7+12
1049		PAN 燈。	こころを 隠さないで ほしい	7+03
1050		大きく手ブレ。 望遠。 燈なめ首をだらっと 下げて演奏する素奈。 素奈位置このへん 	♪ (間奏)	1+21
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1056		W.I. 合わせて 照明暗く変化。 PAN 燈後ろ姿。 観客半分くらい しみじみノってる。	♪ 頑張っても ダメだと思 う日も この手をつ なぐから	7+03
1057		QPAN 立希手元。	ぎゅっと	1+09
1058		PAN 素奈手元。 奥に燈。	力込めて	2+03
1059		燈後ろ姿。 息吸って顔を上げる。		0+15
1060		QPAN 照明明るく変化。 ステージ全景、広角。 素奈側。	♪ (3C) 頑張ってる ひたすら	2+15
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1053		PAN 立希。	♪ まだけど ぶつかるたび 痛んで でも 浮かびあがる	6+09
1054		PAN 愛音、そよ。	輪郭 ああ 見つける	5+03
1055		PANUP	♪	
1056		天を仰いで演義素奈。 天井の照明までPANUP。	照明の眩しさで W.O.	4+12
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1064		3Dカメラ。 素奈から	♪ 逃げて いい	
1064		燈 立希	道が 見え	
1064		そよ 愛音	なくても	
1064		全景まで。 望遠でキャラの顔かわ いく見つつカット戻 広角で全景広く見せ。	迷っても	8+00
1065		立希。 やっぱり燈の歌は最高 だ！！	君と	0+15
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1061		燈。 回り込み。	♪ 息してる 当たり前に 過ぎる 一秒なん かないよ	7+12
1062		PAN ステージ全景、俯瞰。 盛り上がってる！ 観客。	頑張ってる いつでも ここに立っ てる	4+12
1063		PAN 盛り上がってる観客な め。燈、愛音。	だけで	
1063			たたかってるよ	5+06
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1070		愛音のギター 手元からPANUP	♪ (後奏)	
		ラストまで気を抜かず 間違えないように〜		
		できた…… 達成の顔上げ。		
				5+15
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
1066		愛音。 なんとかできた〜 〜!!!! 達成感〜	♪ 走っ	0+15
1067		そよ。 ライブできた。 目標達成。	て	0+15
1068		案察。 ライブ…	いたいんだよ	1+15
1069		QPAN 煌。	一緒に	1+15
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0101		観客に手を振る 愛音。	愛音 ありがとう〜!	
		いと絆子の方 を見ている澄。	(笑い)	3+0
0102		ポカリスエット 買収は達成。 さあ。	達成 …… (7:2)	2+0
0103		立席の奥 ホフレ。黒目の フタブシ 煙を見るまなこ。	立席 …… (影)	2+0
0104		立席から見ての澄 輝いている		2+0
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0097		新市 深谷 おさわし。 シン……		
		盛り上がる観客。 ジワTB。	観客 わ〜!!!	4+0
0098		ギョトン燈。 喜飛の余韻。 肩息している。	喜飛 ……	2+0
0099		拍手する絆子と照		2+0
0100		拍手して!! 盛り 上がっているまなこ え!! 00992 LO 景 材が観客増え ている。	まなこ え!! AD	2+0
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0107		煙. PANUP.	⑤(2170N) うまくなさくて	
			⑥(2170N) おんなじく なってる.....	
		ううむく.	つらくて、	2+0
0108		さあ.	⑥(OFF)(2170N) つらくて...	4+0
0109		さあ.	こんな思いは してない.....	4+0
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0105		さあ 丁寧に顧客に お話し。 →下123 そこから スタート.		
		顔上げて	⑥(2170N)(満足)	
		ベース降ろすと してら	⑥(OFF)(2170N) 来てくれて...	
		え? 煙さん?	嬉しい.....	5+0
0106		さあ? 煙さん の愛おしい 存在だから 好き煙.	⑥(2170N) あの時....	3+0
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0113		ステージ上に 置かれたノート 半分しか入って いない水の ペットボトル なの.	⑥(2170N)	
		迷子のま でも 進みにい		3+0
0114		⑥(2170N) LO集 煙の背.	今日は、ずと 作られたけど.... 煙張れて..... さくさくは気が して....	17+0
0115		息吸う 煙の口元	⑥ (見吸い)	2+0
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0110		さあ.	バントなんて もういけた.... って思ってた ...	6+0 (ギター)
0111		PANUP. 煙の語りこ をきく音楽.	でも	4+0
0112		様子.	まだ名前はない、 バントだけど...	6+0
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIAGNOSE	TIME
0118		音楽キター元 メロディあるな だわ、ポロンが その「春日影」 のイントロに。	お（キター） （春日影）	30
0119		驚く祥子。		10
0120		やなめき音。 音音 やるの!? （音音） え?		30
		焦りながら ギターイン。		30
TOTAL [+]				

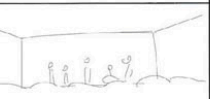
SCENE	PICTURE	ACTION	DIAGNOSE	TIME
0116			お（キター）	
		QAN+ 顔上げて 祥子に。	（音） 私はは は死にやるしか 出来ない!	60
		祥子 冷静装い、い かたし顔に 出る。 眉根寄せ、 目の下にシワ。	（音） ……	20
0117				
TOTAL [+]				

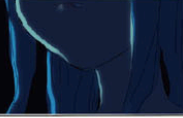
SCENE	PICTURE	ACTION	DIAGNOSE	TIME
2001		立希から3DTB 立希は「春日影」演奏 できてウッキウキ。		
		立希没って演奏。 歌う組、なめこみなが らイン。	♪ (1A) 仲んだ心	
		伏し目がち、涙りなが ら歌唱。	ふるえる 咽差し	
		美奈も目を閉じて涙り ながら楽しそうに演奏	世界でー	7+12
TOTAL [+]				

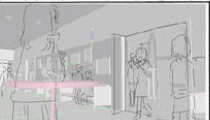
SCENE	PICTURE	ACTION	DIAGNOSE	TIME
0121		立希。 よした!	お（キター） !	
		ドラムイン。		20
0122		「春日影」は涙り たひきまよ 立希を見て	（音） ……!	
		×差を見て …… この曲は……		
		涙りかひい 1Tど…… ベース 弾き始める （泣きだす）		4+0
TOTAL [+]				

以下 Liveパートコンテへ。

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2004		←PAN 愛音。 ちょっと緊張気味。 ちょっと。 演る予定のなかった曲 なので... 間違えないように	毎年 冷たく	
		あしら		
		うー		5+0
2005		そよ口元。 汗。 「春日影」は演奏した 暗がりの中 くない...		2+18
2006		→PAN 立音。 内なる楽しい感情。 「春日影」演じたかつ た...!	一方通行に たーだ ただー	5+0
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2002		3DPAN 下手→上手。 観客の頭なめ。	僕は ひとりぼっち	
			だった	
			散ることしか	7+0
2003		→PAN 楽器と立音。 浸って演奏。	知らない 音 は	
		目を開ける...		4+0
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2012		→PAN コーラスする楽器。 愛音、立音。	【しあわせで くるおしい】	4+0
2013		様子と観の後ろ姿。 ステージからの視写。 逆光。	あの日 泣けなかった 僕	3+0
2014		様子口元。 ト音を弾きしめる。 少し震え。 「CRYCHICじゃない春日 影なんて度々たくない」 と彼の歌声に響き入る感 傷の鼓動。 悔しい。怒り。悲し... ぐちゃぐちゃの愚ふり。	をー 光	1+18
2015		煙の手に付けPAN	はー	
		胸元に熱く寄せる手。	優しく 連れー	
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2007		→PAN 観客の頭をくぐり。 後ろに顔を隠したりのつ てくる観客。 音も届かなくなってくる。 そよはいいやもうな観。	言葉をー 書き殴って 期待するだけ むなししー	8+12
2008		ポール外。 「知らない」でだして休職し る。のんたがひたひたにいる ところに「1つっこいいから中 で聴こう」と呼びに来る友人。 やみやみや観客の目にも入る。 「私たちが入ってめよっか」 観では50で「やややや」の「バ ン」！ 何度も観客をなやませ が観客から入っていき。	わかー っいても	2+18
2009		→PAN 前後席からそよへつ とぼつりぼつり入っ てくる。 聴き入っている観客。 観客増えてくる。	救いをー 求め 続けたー	4+18
2010		←PAN コーラスする愛音。 楽器、そよ。 本意でないそよ。 ※イヤだな〜くらい でこのへんはまた 取り繕う気のある そよ。	♪ (18) 【せつなくて いとおいしい】	3+18
2011		観客席の観。様子なめ。 様子表情は見えない。 「CRYCHICじゃない春日 影...」 悲しそうなのな... 無表情のよう...	今ならば 分かる 気がする	4+0
TOTAL [+]				

PAGE				
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2019		涙をかけるように 感情をこめて歌う短。	溢れー いつしか	7+12
			頬を きりきり	
2020		身を乗り出して 涙をかけるように 感情をこめて歌う短。	熱く 熱く 濡らしてゆく 君の	4+18
		短。 祥子なめ。	手は どうして	
2021		短。 祥子の位置から見た ステージ。	こんなに 温かいの ねえ	1
TOTAL [+]				

PAGE				
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2016		涙をかけるように 感情をこめて歌う短。	立つ よー	5+12
		祥子の手。 鍵盤を奏でような… すがりかけるような…		
2017		肩こめる。 血が出るほど強く。		1+12
		回転PAN	♪ (1サビ) 雲間をぬって きりきり ころー	
2018		3DTE 指でこめた陶元の手か ら。	消たして はー	4+12
TOTAL [+]				

PAGE				
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2024		目を伏せる。 (目を伏せたのでこの後の 祥子の立ち振りを顔は 見ていません)	いてー	3+12
		祥子口元。 涙のあと。	♪ (間奏)	
2025		駆け出す。 残る髪。		1+18
		もう我慢できず駆けだす 祥子。 蛙気付いて見る。		
		祥子アウト。		1+0
TOTAL [+]				

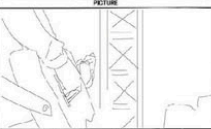
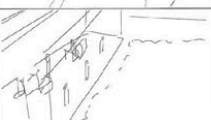
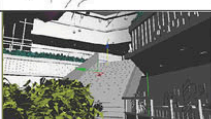
PAGE				
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2022		弱ボケ、大ボケ。 涙で参む視界。	お願い	5+12
		祥子口元。 食いしばった。	どうか	
2023		一筋涙がこぼれる。	このまま	1+12
		歌う短。 顔を上げる。 作PAN	離さ	
		目元。	ないで	4+12
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2029		足音遠く。只今一風。ストロボ風。使いた前髪で目元は見えない。こぼれる涙。	—	
		残る涙。髪。		1+12
2030		そよ。手ブレ。祥子にCRYCHIC以外で「毎日形」演奏しているところを見られた。涙！！ジョック。	それを	1+0
2031		ホールドア外から。出ていく祥子。群衆の奥、立ち尽くす様。	喜び	
				1+18
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2026		そよの背中から。遠目に観客をかき分けて出口に向かう祥子。道を開きつけて入っていく人々の波に逆流するようだ。気付くそよ。	♪ (2A) 緑を 結んでは	2+12
2027		そよ演奏しながら目線だけで「？」	ほどき	
		体ごと「祥子！？」	ほどかれ	1+12
2028		望遠。「ほらあのバンド～」とステージを指さしながら入ってくる人々をかき分けて出ていく祥子。つかつか大股邁進。	重しも	
		「7」「おつと」と避ける観客。	がー	2+0
TOTAL [+]				

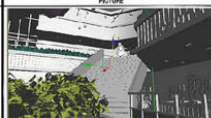
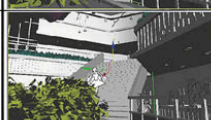
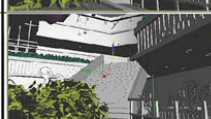
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2035		祥子ながらも遠慮を越えることしかできない。	確か めー	3+0
2036		♪PAN 愛音手元。	る よう	1+18
2037		♪PAN ドラム。 立希手元。	にー	1+18
2038		♪PAN コーラスする立希。そよコーラスしない。そよの目元外。	♪ (2B) 「うれしくて さびしくて」	2+18
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2032		そよ。出ていく祥子の涙見て大ジョック。	悲しみ	
		立希ちゃん……！ どうしよう……！ —気付いていない……	ながら	
		理ちゃん……！	愛を	3+12
2033		そよ背中から他メンバー。想は燃いて歌唱。誰も気づいていない……	数えてー ゆくー	3+12
2034		そよ絶望。調和を重んじ和や和やを放って生きてきたそよへ涙を流すほどのことはできない……	鼓動を	
TOTAL [+]				

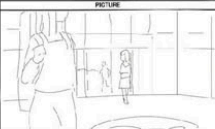
SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2043		望遠。 楽器ギター手元。	♪ (間奏)	4+0
		楽器。 手元から3Dカメラワークで		
2044		顔まで。 差しそうかつクールに 演奏する演奏。		4+12
2045		へPAN 客席とステージ。 音階。		3+12
2046		RINGロビー。 まる様子イン。 カウンターに人いる。		1
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2039		←PAN しみじみギター鳴らす 楽器。 俯いて歌う様。	今だから 分かる気が した	4+18
2040		→PAN コーラスする愛音。 俯いて歌う様。	【たいせつで こわくって】	
		「ぼー」で顔上げ。	あの日 泣けなかった 僕	6+12
2041		↑PAN. 仰視。 ドラム立席。	をー 光はー	3+0
2042		↓PAN. みおり。 照り輝く様。 顔はつられて見えない。	やさしく 抱き しめた	5+12
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
				2+12
2048		手前のミブでワイプ。	ひ	
		俯きから顔上げ。	とー	
				
		涙流し。		2+0
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
		階段を駆け下りる。		
			♪ (D) 照らされた	
			世界	5+18
2047		出口に向かって 俯いて小走る 様子。 フォロー。	咲き誇る	
			大切な	1
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2051		ホール後方からステージ 9割埋まっている。	涙を 流すよ	2+12
2052		閉いて歌う様。	ああ なんて 眩しいだろう	
			ああ なんて 美しい	
		OPANでフィーロー。 私の歌は心の叫びだから	だ らう-----	8+18
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2049		エントランスから 出ていく様子。 「はいてる？」と ずれ違う人々が様子 を見るがすぐに自分の用事 に向かう。		2+12
		様子のなくなったエン トランス。	あたたかさを 知った	
2050		客席。 まだ様子が去ったドアを 見つめている様。	春は 僕の ため 君の ための	2+0
		その前を噂を掻き付けた 観客が横切って押取る。		
		見えなくなる様。 様は機動だにせず。		
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2056		3Dカメラワーク。 必死に歌う様。	♪ (2サビ) 雲間をぬって	
			きらり きらり	
		疾しく演奏する愛音。 ノリノリ。 演奏による高揚。	心 満たしては 溢れ	
		カメラの軌道。 運いた手よの軌は一時で 通り過ぎる。		
		立派。 やっぱり超はすごい！こ のバンドもすごいかも！ ずっと大を感じている。	いつしか 顔を	
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2053		回転PAN	♪ (間奏)	5+12
2054		△PAN 高揚愛音、立希。		4+0
2055		△PAN	ご高揚愛音。 傾いて前髪で顔が見えな いぞよ。	3+12
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2060		→PAN 観客なめ。 しみりソッている。 9〜10秒満員。	ねえ お願い どうか このまま	5+18
2061		俺。 ゆっくり顔上げながら歌う。	離さないで いて	
		必死。満員。	ずっと ず	
			っと――	7+18
2062		ホール後方からステージ と観客の両方、照明切り替わる。	離さないで いて―― ……(観) (観客) わ~~~~!!	9+12
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
2057		素直。 ライブできて楽しい。 おもしろい。	きらり きらり	11+12
		俺の膝。	熱く	
		勢いよく全身で歌う俺。 汗飛び散る。	熱く ぬらー	2+12
2058		→PAN 素直に素直、立席。 素直に素直、うつつい て観客を仰いで。	してゆく 君の手は	4+0
2059		←PAN 素直に素直。 必死に歌う俺。	どうして こんなにも 温かいの？	4+12
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0123		すたすた下手にはけいく 素直。無表情だが満足。 すでにギター下ろした 観客。 手を振って声援に応える	(拍手)	
		ふらふらはけようとした 俺。愛音から「俺ちゃん ノート（忘れたるよ）」 指摘を受け。 ふら〜つと戻る俺。 内心駆けだしたいような 焦った気持ちでける 立席。スティック片手。		11+12
0124		カットいっぱいカメラワ ーク。 専断カメラワークの中で キャラクターがインアウ ト。		
		ステージ全景。 ノートをとるためにしゃ がむ俺。 まだ立ち尽くしているそ う。	(拍手)	3+0
		俺もまだ熱の中でポーズ としているのでもう一 日もくれない。 ふらふらとはけようと。		
TOTAL [+]				

SCENE	PICTURE	ACTION	DIALOGUE	TIME
0123		ステージ上手から下手に PAN 素直お辞儀から	(観客) わ~~~~！ よかつたよー！ など 拍手	
		顔上げ。 満足。		
		ギター下ろしてスタンド に置く。 立席抜けながら立ち上が り		
		お辞儀。 俺もマイク持ったまま振 舞う。 満場したまま		
		ふらふらとお辞儀。 そよは抑いたまま満場だ にせず。		
TOTAL [+]				

TOTAL (+)TOTAL (+)TOTAL (+)TOTAL (+)

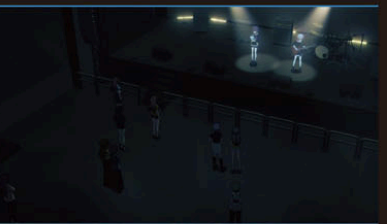
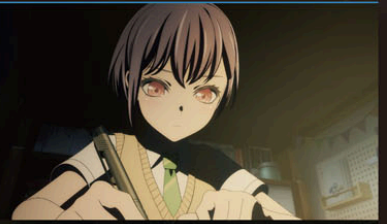


#10 ライブアーカイブ Live archive

バンドをする目的の違いが明るみになり、ばらばらになった5人。それを繋ぎとめようと動いたのは燈だった。必死に詩を書き、楽器を持たず1人でステージに立つ燈。「……みんないなくて、曲もないけど、これは、歌です」と懸命に、届くまで詩で想いを伝え続ける燈。それはまさに燈の叫びであった。その様子に呼応するように、少しずつ増えてくる観客と、戻って来る仲間。燈の詩が届き、5人を再び引き合わせる。



ばらばらになった5人を繋ぎとめるため、想いを乗せた詩を書き、1人でライブを行う燈。何度も書き直した詩のあるくしゃくしゃな紙を握りしめ必死に歌う。その様子を見ていた楽奈は隣でギターを弾きはじめ、まっすぐな燈の声に寄り添うような優しいメロディーを添える。初めは曲のない詩で1人でステージに立つ燈を不思議そうに見ていた観客も、燈の「届くまで歌い続ける」という言葉が通じたかのように、歌唱後には温かい拍手を送るのであった。



愛音、立希も、徐々にステージに戻りはじめる。「ドラムやって」と、楽奈に強引にステージに連れていかれた立希は、燈の詩と、楽奈の「ほら、早く」でも言うかのような表情に感化され、演奏に合流する。「ギター弾いて、いっしょにライブやって」と、燈に必死に説得された愛音は、そよに「あんたが私をいらないって言うのが、私はやるけど」と、バンドを続ける意思を示した後、ステージに戻る。燈の詩が広がり、届き、少しずつメンバーが揃っていく。



最後の1人、合流の意思がないそよが、バンドを終わらせるために見に来た燈のライブ。客席にそよの姿を発見した燈は、強引にそよをステージに連れて行く。5人で奏でる燈の詩。この5人が大切に離れたくないという燈の強い想いが、「傷つけたくなかった」「離れたくない」というまっすぐな詩となり、ステージを包み込んでいく。燈の想いを受け取り、涙を流しながら演奏する様子は、感涙を禁じ得ない。5人が改めて揃った瞬間である。



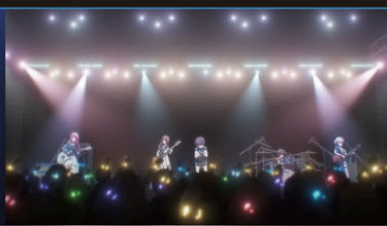
#12 ライブアーカイブ Live archive

前日は愛音の家で徹夜し、衣装と新曲を準備した5人。様々なすれ違いを乗り越えここへ辿り着いた、現時点でのバンドの集大成となるライブが行われる。愛音が衣装を作り、楽々とそよがそれを手伝い、燈が詩を書き、立希が曲をつくる。ばらばらだった、今も仲良しというわけではないが、燈の「一生バンドをする」という気持ちをそれぞれ受け取って集まっている5人の現在地である。

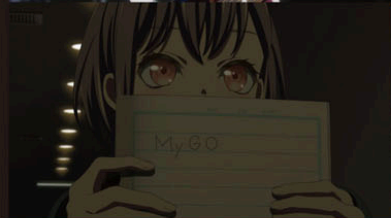


Afterglow
迷子のバンド
UNRisky Lucky
Lithosfair OPEN 14:30
START 15:00-20:30
riNG主催LIVE!!

ライブ前、緊張の様子の5人。半分に切られた衣装を不安がるそよや、4人に何かを言いかけてやめる立希など、ステージ裏の様子も多様だ。緊張する燈にマイクを渡す番澄(スタッフとしてアルバイトをしている)が印象的だ。ステージに上がり機材をセッティングする際、愛音の新品のエフェクターをそよが足で操作するシーンから、お互いに嘘や遠慮がなくなった様子が見て取れる。AfterglowのメンバーやSPACEの元オーナー、学友に見守られながら、いよいよライブの幕が上がる。



1曲目に披露したのは「迷星叫」。「震える君に 僕もいる 叫ぶよ」と、様々な困難を乗り越えてきたこのバンドだからこそ歌える歌詞が沁みる。演奏面でも、懸命ながらも演奏中に笑顔が見られるなど、パフォーマンスに少し余裕が見られ、必死さが全面に押し出されていた初ライブからの成長を感じさせる。また、満員の観客の中でも堂々と歌う燈の様子からは、必死で繋ぎ止めたこの5人で、一生バンドをするという強い決意が改めて感じられた。



MCが明けて2曲目は「迷路日々」。MCで燈が叫んだ「一生離さないからっ!!」という気持ちが乗ったかのように、5人の気持ちが1つになっていることが演奏から伝わる。「迷子でもいい、迷子でも進め」という言葉が、「すごく仲良しでもなくて、喧嘩もいっぱいして」「でも、今ここにいる」という、バンドの歩みそのものを表している。ライブ後はMyGO!!!!というバンドの名も決まり、ここからMyGO!!!!というバンドの本当のスタートとなる。

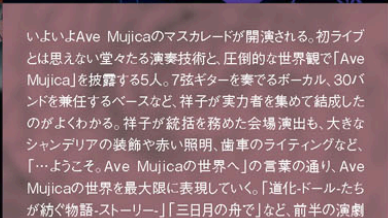
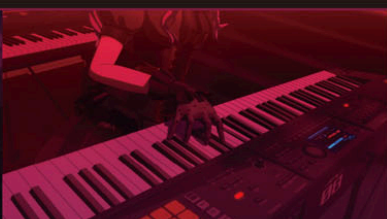
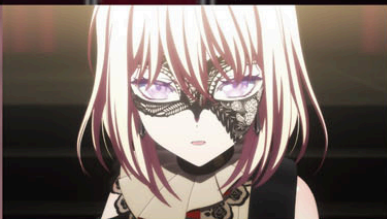


#13 ライブアーカイブ *live archive*

MyGO!!!!!のライブから打って変わり、祥子が新たに結成したAve Mujicaの初ライブが行われる。迷子のままでも進み続ける自分たちをまっすぐに歌ったMyGO!!!!!とは対照的に、仮面を身に着けステージネームと呼び合い、人形という設定で世界観を表現するAve Mujica。燈のまっすぐな詩を歌っていたCRYCHICを解散して作ったこのバンドで、祥子は何を目指すのか。圧倒的な実力と世界観を持ったそのバンドの幕開けである。



「焦りや後悔は全てここへ置いて行って」と、仮面を身に掛け役に入り込む5人。そのマスカレードは演劇パートからはじまる。ロフトムーンに迷い込んだドロリス。そこには捨てられた人形が集められており、特別な月が人形に仮の命を与えていると聞かされる——。仮初の命と名を与えられた5人は、マスカレードを開演する。「我、死を恐れるなかれ」「我、恐れることを恐れるなかれ」「我、愛を恐れるなかれ」「我、忘却を恐れるなかれ」「我、悲しみを恐れるなかれ」



いよいよAve Mujicaのマスカレードが開演される。初ライブとは思えない堂々たる演奏技術と、圧倒的な世界観で「Ave Mujica」を披露する5人。7弦ギターを奏でるボーカル、30バンドを兼任するベースなど、祥子が実力者を集めて結成したのがよくわかる。祥子が統括を務めた会場演出も、大きなシャンデリアの装飾や赤い照明、歯車のライティングなど、「…ようこそ、Ave Mujicaの世界へ」の言葉の通り、Ave Mujicaの世界を最大限に表現していく。「進化ドールたちが紡ぐ物語-ストーリー」「三日月の舟」など、前半の演劇パートから登がる歌詞が、メタルを思わせる重厚なサウンドで奏でられる。5人がモニターに並んで映し出される演出も、絵面を思わせる構成で素晴らしい。仮面をつけたクールな表情で演奏する姿も、見るものを引き付け、演奏後の観客の歓声も、ライブ終了後にAve MujicaがSNSのトレンドの上位を占めていたのも頷ける。CRYCHICに解散を告げ、Ave Mujicaを結成した祥子は、何を思いながら演奏していたのだろうか。焦りや後悔は舞台上には持ち込まないという決意に、その真意が秘められているのかもしれない。

INTERVIEW about live animation

監督：柿本^{かきもと}広大^{こうだい} × 絵コンテ・演出：梅津^{うめつとも}朋美^み

MyGO!!!!!!にとってのライブとは

とにかく質素。凝ったことはしない。その場の衝動を伝えるっていうのがMyGO!!!!!!のコンセプトです。

—TVアニメのライブシーンについて、お2人と一緒に振り返ってほしいと思います。まず、お2人の制作上の役割を簡単に聞かせてください。

監督・柿本広大（以下、柿本）…監督です。物語や設定を考えて、曲とかを発注して、演出さんに作品の意図を説明して、絵コンテを描いていただいて。いろんな方と連携を取りながら、制作を先に進めて、フィルムを完成させる役割です。

演出・梅津朋美（以下、梅津）…私は、オープニングと第2話と第7話と第10話のコンテ演出をしました。コテを描いてカットのチェックなどをする役割です。

—制作するうえで、事前にどのようなお話がされるのでしょうか？

柿本…基本的には打ち合わせですね。コンテ打ちと処理打ちの演出打ちがあります。今回の「MyGO!!!!!!」ですと、ライブパートがお話の起結にあたることが多いので、まずその話の流れや、「こういう意味になるコンテです」「お客さんにこういうふうな受け取ってほしいです」というのを説明します。例えば梅津さんが担当された第7話ですと、脚本のときにもう定点カメラみたいなのでやるって決めたので、その説明は初めにしました。梅津さんにはそういうちょっと特殊な話数をお願いすることも多くて。あんまり説明しなくてもわかっていただけたことが多くて助かっています。

梅津…第7話は監視カメラ画角の定点だったので、「大丈夫なのか」というのが大き

かったです。

柿本…隠しカメラをやっているのかという議論があつて。カメラの画角的に、ペットボトルの脇から撮った風になったりするの。



梅津…そこにカメラがあるのは怖いかもしれない。だから大丈夫ですからって心配しました。柿本…でも密着取材みたいにカメラがついて来たら「MyGO!!!!!!」の自然なやり取りは撮れないなと思つて。そこしにカメラが置いてあつていいんです。みたいな話をしましたよね。

梅津…定点ということと同じカットが続くの

で、見る人が飽きないかなとか、退屈になっちゃう嫌なうって心配も大きかったです。でも画面に緊張感が欲しくてやりたいということだったので、その通りになったんじゃないかなうと思っています。

—MyGO!!!!!!のライブシーンを描くうえでポイントは何でしょうか？

柿本…MyGO!!!!!!はとにかく質素。凝ったことはしない。高校生で、しかも音楽性もメロコアなので。事前の準備もあまりできてなくて、その場の衝動を伝えるっていうのが「MyGO!!!!!!」を描く際のコンセプトです。例えば「MyGO!!!!!!」のステージにはバックモニターがあるんですけど、バックモニター映像まで気が回らないだろうとか。曲自体も直前にできたりとか、その曲を一生懸命やって、相手にありったけを伝えるっていうのが大事なと。梅津さんのコテにも「裸一貫」とか書いてあったりします。梅津…「魂の叫び」みたいなト書きが（笑）。柿本…でもまさにそうだなって。

—その魂の叫びを表現するうえで、意識していることはありますか？

梅津…第7話と第10話は、曲中にやることはいっぱいあったので、逆に意識することはそんなになかった気がします。曲中のドラマをどうやって見せるかみたいなところは考えましたけど。曲に当てはめるときに「MyGO!!!!!!」のドラマが起ころうら1番リンクしやすいかなみたいな。今までの他のライブパートとは、全然違う感じでした。今までは1曲を飽きさせないように見せるといった感じだったんですけど、MyGO!!!!!!はドフを見せなきゃいけない。

ライブのときだけ一体感が生まれる。 ライブで繋がるっていうのがそもそもの話の発端。



柿本…MYGOはトピックがいっぱいあったので、どう詰め込むかみたいな感じでした。

——曲は事前にある状態で「コンテを作っていくんですか？」

柿本…はい。まずは曲発注からです。MYGOは普段から仲良しというわけではなく、ライブのときだけバンドとしての一体感が生まれると言いますか、ライブがすごくキーになる話だったんです。いろいろわたがまりがあつて、ライブで繋がるっていうのがそもそも話の発端だったので。音楽チームは脚本会議からずっと居てくれて、歌詞とか曲調とか発注する際も、誰のどんなドラマを描かなきゃいけないのかまで全部わかってきています。誰にどういう感じで発注するかみたいなことも綿密に相談できたので、だからこそ

ライブパートを作るうえでやるのが、ドラマを描くことになったんですよ。

梅津…曲と歌詞があるうえでコンテをつくるので、その曲を聴きながら、歌詞カードに「ここで気分が乗ってくる」とか「ここ何が起ころう」とかをメモって、大体のざっくりした動きの流れを先に決めます。その後それを元に、モーションキャプチャーして、きたモーションを元に、カメラを置いてコンテを切るみたいな作り方をしています。でも第7話と第10話は違って、モーションを取る前にコンテを描きました。ライブというよりドラマに比重があつたので。

柿本…モーションの演者さん——アクターさんたちも、どういうふうには感情が表現できるのかみたいなのを研究してくれていて。おかげで、燈という恥ずかしがり屋で引つ込み思案なボーカルの感情もよく表現できました。燈の歌唱はむき出しの心を叫ぶみたいな演出コンセプトがあるんですが、叫び方も体の使い方がいろいろあつて、すごく伝わる動きをつけてくれたなと感しています。

——中のモーションアクターさんは毎回同じ方ですか？

柿本…だいたいそうです。燈はこの人がやるとかつていうのは、アテンドしてくれる方が全部決めてくださっています。

——第7話で一番見せたかった部分はどこでしょうか？

梅津…いっぱいありますね。定点でやったところと、曲を2曲やつて、その2曲ともドラマが盛り盛りだったことと、最後に「なんで春

日影やったの!?」ってプチギレさせたところ。その3本柱だと思います。「なんで春日影やったの!?」はもともと脚本に入っていて、そこまでどう持っていくのかがいかに考えてました。ライブ自体はもう最高潮に盛り上がるので、その最後の最後あんまり暗いところに帰ってきて…。あとは曲を2曲やるっていうのもシナリオの段階から決まっていたので、曲の中で愛音の緊張がこの辺でほぐれてくるみたいな、ベース配分を決めていました。そもそも、2曲目「春日影」は、演奏しはじめたとき



は「すごい嫌だけどでもやるか」みたいな感じだったのが、様子を見つけて本当に嫌になつて、っていう感情のラインを作るのが楽しかったです。

柿本…僕が第7話で一番やりたかったことは、裏腹ということ。気持ち的には盛り上がりつつライブがはじまるんですが、いざ当日になると緊張と練習不足、実力不足を痛感する。で、1曲目が終わって2曲目に入ったら、今度は最悪の方向に向かつてきているけど、状況は最悪の方向に向かつて



いくという。その裏腹を脚本の構造に入れたこと。1番ポイントだったのはやっぱり「春日影」の入り方で。楽奈がきつかけになるんですけれど、彼女が悪者になるのは避けたくて、観てくれている人が、楽奈だから「春日影」をやるのはしうがなくて納得してもらうために、そこまでの話数で彼女はこういう人だよというのを積み上げました。語りに即座に反応して弾きはじめて、楽奈の気分が乗ってきたら、いつの間にか「春日影」の8分の6拍子になっているという。そこを音楽を作ってくれた方が最高に汲んでくださって。あの入りが上がった瞬間、勝ったなと思いました。1番思い入れが薄いはずの楽奈が、すごく感性豊かで、実は「春日影」がすごく好きなんだというのが伝わったかと



思います。第7話はそういう感情と状況の裏腹さに1番気をつかいました。

——なるほど、気持ちの落差を表現したんですね。

柿本…「碧天伴走」の冒頭を失敗するのも、立希のほうは実は追い詰められていて、でも3回も失敗されて突き抜けたので愛音に優しくできるんです。たぶん1回の失敗だったから、立希は愛音にブチ切れてたと思います（笑）。何回やってもダメで愛音に余裕がなくなっているのが後から見えなくて、ちゃんと

仕切り直そうってなれたんだと思います。この辺の心の機微もちゃんと描いていたので良かったなと思いました。

——このシーンでよは、MCで助けてあげたりしていました。あれは表の優しいさなのか、それとも裏の優しいさなのか、どちらなんだって。

柿本…失敗体験みたいなのを、あんまり燈にさせたくないところはあと思うんです。CRITICALを復活させたいので。でもやっぱり元々の性格から、優しいは優しいですね。そよって結構、裏と表で感じになってますけど、むしろ自分の感情に流される人っていうのを描きたかったです。彼女にはその、自分が感情的な人間であることや、自分自身の持つ感情に自覚的になってほしかったので。いい子の演技して、一生それいける人なんていないと思います。

——細かい感情の機微を「コンテ」や演出に起こすのは難しいですか？

梅津…いや、そんなに難しくはないかな。

柿本…梅津さんはコンテを描くとき、没入して感情で描く派ですか？ それとも理詰めで描く派ですか？

梅津…私は感情派ですね。次こう動くだろうみたいなのが見える感じです（笑）。だから案しかつたな1つっていう思いしかな。第7話の「碧天伴走」を、羊宮さんで録ったじゃないですか。声出ないやつ。あれが好きで。すごい良かったなって。声が出た後も、エンジンかかりすぎちゃって上ずっちゃうとか、コンテに合わせて歌を録ってもらって、想像よりもいい音声が

が来ちゃって最高だなんて思いました。

——第10話で1番見せたかった部分はどこでしょうか？

柿本…事前に打ち合わせで言ったのは、観客に背を向けてもいいからお互いを見て歌おうって。第10話を梅津さんにやっていただけて感動したことが大きく2つあって。1つは愛音がストリップをかけた後のその髪を直してあげるやつ。あれは一度制作の都合でカットになるかと思ってたんですけど「あれやんなかったら第10話の意味ない」って言って無理やり入れてもらいました。あともう1つは、立希が1番に泣きはじめたところ。あれは脚本にないんです。脚本にはみんな泣き出すってぐらいいき書いてなくて。でも、梅津さんのコンテで、立希から泣き出して愛音ももらい泣きして…っていう流れができた。コンテ読みながら泣きましたね。「うわあ、やってくれたな」って。泣けない燈が初めてちゃんと泣いたのが第10話の終わり。燈はどういうことが起きたら泣くんだろうっていうのはずっと考えていて、簡単には泣かせなかつたんですけど、第10話の最後は燈にも自然に涙が溢れましたね。

——立希から泣き出すのはどうやって決めたんでしょうか？

梅津…立希だよなって。キャラクターを動かして、初めて泣いたのが立希でした。

柿本…想定していなかったで、意表を突かれました。いろんなスタッフがいて、こちらの想定を超える仕事とか仕込みをされることがあつて、嬉しいですね。

演奏は上手くいっても状況は最悪になるとか、感情と状況の裏腹さに1番気をつかいました。

生きてるキャラだなんて感じがしました。 ポンって判子を押せるキャラじゃない。



——愛音が髪を直すシーンを入れた理由は？

梅津…かわいいからですね。髪の毛の長い女の子がストリップをかけると、髪の毛が挟まっちゃうて手で直す。そういう自然な芝居をやりたいくて。そういう芝居入れると、生きてるなこの人たちって感じがして好きなので。

柿本…普段のそよは絶対気にするんですけど、実は前のほうの話数で、ストリップをかけて髪を手で直す仕事もそよには入っていて、でもそんなことできないぐらいの感情であそこ立ってるし、できないのを察して愛音がやつてあげるっていうのは、愛音つてやつぱりいい奴だよなと思って。すごい愛が溢れるコンテで嬉しかったです。

梅津…第10話も冒頭からボエムの裏で行われ

る日常みたいな、なかなか面白いことをやらせてもらいました。

柿本…第3話、第7話、第10話が、先に演出要件を決めて、脚本もそれをするために書いてもらったんです。第3話は僕がやりましたけど、第7話も第10話も、梅津さんが持つてくれて、やっぱり伝わるんですね。たぶん見てる完成形の方向が一緒なので。あと燈は結構わかりづらいキャラクターで、こちらから燈に歩み寄らないと、燈を理解するってできなくて。梅津さんはそれをすごく真摯にやつてくれたなと思ってます。

梅津…オリジナルだから、ゼロからどういうキャラなのかを理解したいんですけど、既存の「こういうキャラですか」って他に近い前例がないかなって聞いたらことごとくどれも違うなみたいな。生きてるキャラだなんて感じがしました。初めは燈を掘り込んでいく作業でしたね。

柿本…プロフィールを見たら「発で」「こういうキャラね」ってわかるキャラクターっているじゃないですか。でもそういうふうにはしたくなかった。

梅津…そよとか、ポンって判子を押しとすれば、裏表のある腹黒キャラに見える。けどそよじゃないんだよっていう。

柿本…そよがママって言われたら、「ほーん、ママじゃないマに」やろう「みたいな感じでした（笑）。梅津さんは本当に、キャラクターが生きているっていうのをすごく理解してくれてるなと思いました。いくらく脚本があつても、そういう部分が見えないとディテールつて

描けないんです。結構質量のある脚本だったんですが、それを「どんな顔で歌ってるんだろう」とか、自分の中でしっかり解釈してくれただんだってというのが伝わりました。

梅津…キャラのこういうところが見たいなと思って描いて、演出もしてるので、それを叶えられるような作業をしました。



柿本…完全に解釈一致だと思ったのは、「春日影」のロングトーンを横から撮って歌い上げるところ。祥子が先にいなくなってるシーンなんです。あのロングトーンがすごい必死で素晴

らしいんだけど、祥子ともういないから、虚しさがいっぱい。全然届いていない、みたいなのが好きでした。

——先ほど、曲が先にあるっていうのを聞かせていただきましたが、その他に特徴的な作り方はありますか？

梅津…ステージにキャラクターのモデルをポンポン置いて、そこにモーションアクターさんが動いてくれたモーションデータを流し込みます。その動くキャラクターに対して3Dソフト上でカメラを置くことが、コンテ作業になります。あと手元動画はまた別で、モーションキャプチャーは楽器のこの辺を押さえてるってデータしか出ないんですよ。どの弦を弾いてるとかまでは拾えなくて。なので細かい指とかは、ミュージシャンの方とかに演奏してもらって、それをいろんなアングルから撮ってもらって、さらにその手元の動画をトレースしていくっていう。結構こだわって作っています。

柿本…CDの音源までは普通に完成された音源をいただいて使ってたんですけど、今回はドラマがあるので音もそこらちよと変えています。誰かが泣いちゃって歌えないとか、誰かが調子乗ってマイクから外れているとかっていうのを表現するために、音楽プロデューサーさんもギンギンの会場に来てもらって、キャラのコーラスを抜いたりとか、そういうことまで全部細かにやっていただいています。音に関しては、プロの方とプロデューサーさんと、3重、4重に監修に入ってもらって、「こでそんな音するわけない」



とかも全部聞いて、できる限りフィードバックして作れているっていうのが、他にはないくらい細かいと思います。下手なときはちゃんと音が鳴らないとか、逆に上手くなってきたので、ミュートが上手くできるとか。そういうのも全部発注して、その場面にちょうどしたギターの音も全部作ってもらっています。そういうところもリアリティに寄与しているのかなと。「碧天伴走」もまさにそうで、「こういう間違えちゃうよね」というやりやうなミスを3、4パターンもらってその中で1番派手にわかるものを選ばせてもらっています。楽器をやったことがないアニメーターさんたちも、必死に真似してみても「なるほどね」と作っています。

梅津さんは楽器の経験がありますか？

梅津：ドラムを習ったことがあるんですけど、3ヶ月で諦めました。でも楽器が弾けないからその自由なのかなって思います。こっちは夢を語ってね。リアルなのは監修の方たちにお願ひする。ある程度知らないからこそ自由に夢が語れるじゃないですけど、そんな感じです。

——モーションを撮るときは、先に指定を考えますか？

梅津：演技プランみたいなのは考えていきますね。抑えるポイント準備してモーションアクターさんもアイデアを考えてきてくれるので、リハーで持ち寄って調整します。演出意図と合わないのでもこは悪いけどこっちのアイデアとか、こは解釈一致ですわとか。ここでステージの前のほうまで来て弾くとか、そういう濃いの味付けは準備してから行きます。他にも、例えば楽器のギターとか音の感じで聴くとギターを高く掲げてる絵にしたけれど、この音のときでそれやりますか？みたいなことを、アクターさんに聞いたりします。この音だとあんまりやらないけど、そこまで変じゃないと思うのでそれでいまましようとかを言ってもらって、じゃあそれをお願いします。

——「It's MyGO!!!」は「バンド」じゃない？

柿本：さっき語った通りなんですけど、ドラマの中心をライブに持ってきています。ドラマの中心とキャラクターの感情の着地点。ドラマパートではごちかかというと離散していく話を作っていて、それがライブパートで帰結する

ようにしています。それを想定して、こまめに分岐しちゃってもライブで帰ってこれるかなっていうのを、ずっと逆算しながら広げていつて話の展開を作る感じです。バンドを扱う作品なので、お客さんの感情もやっぱりライブパートで爆発してほしいなって。すべてはライブパートのためにある、すべてはステージのためにある、ステージでしか輝けない人たちを描きたかったの、そういうつもりで作ってきました。

梅津：本当にそう思います。ただのボンと乗せたライブじゃない。このライブ自体がこのお話みたいな。飛ばしたら話がわからなくなる、そんなライブパートにしたかったです。ライブパートが1番美味しいところでした。音楽をやっただけじゃない、ライブに物語がある。そこで仲間がいたり、誰かの起爆スイッチだったり、何かが起こるライブっていうのが、「It's MyGO!!!」のライブなのかもしれないですね。

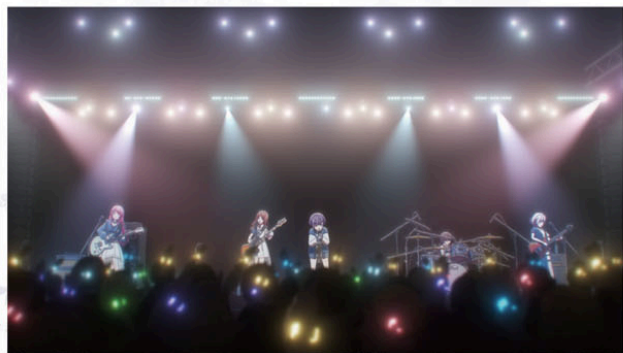
柿本：ライブでしか繋がらないがコンセプトだったの。バンドっていう枠組みがないと一緒にはない人たちが仲がいいわけでもないけど、仲間なんだよって。

——物語は「Ave Mujica」へと続きます。

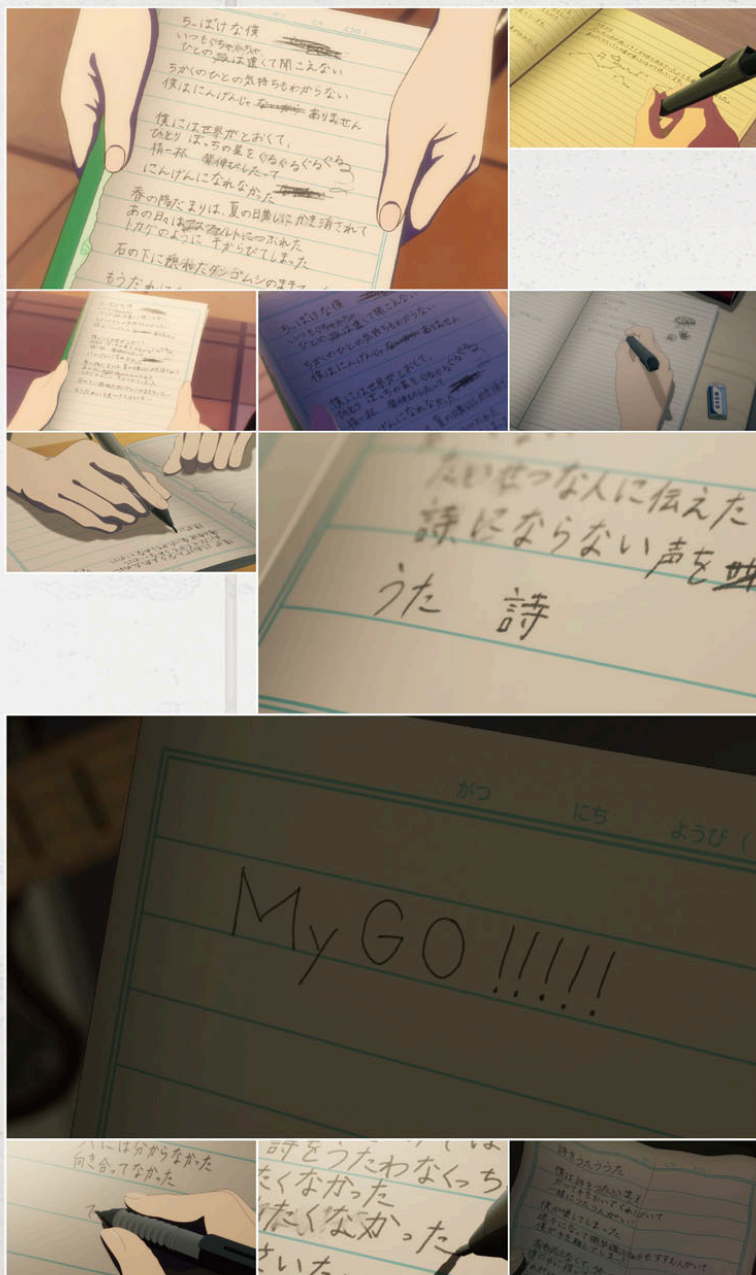
柿本：「Ave Mujica」は完全にMyGO!!!とは逆で作ろうと思っていました。ライブで集まるのがMyGO!!!だとすると、Ave Mujicaはもうすべてがスケレドというところで、内情がどうであらうと完全に見え切るためのプロデュショナルなライブをするんです。なので

今度は、MyGO!!!じゃ出せなかったスケール感とか、MyGO!!!がライブでさらけ出した本音じゃなくて、さらけ出せない内側の葛藤とかをライブに込めました。音楽性も全然違いますし、またベクトルの違う、けどすごくドラマの詰まったライブシーンがきているなという手応えがあります。楽しみにしていただけるとありがたいです。

梅津：Ave Mujicaは綺麗な包み紙です。MyGO!!!は裸の魂。観た方にその意味が伝わったら嬉しいなと思います。



ライブパートがまず最重要。
ステージでしか輝けない人たちを描きたかった。

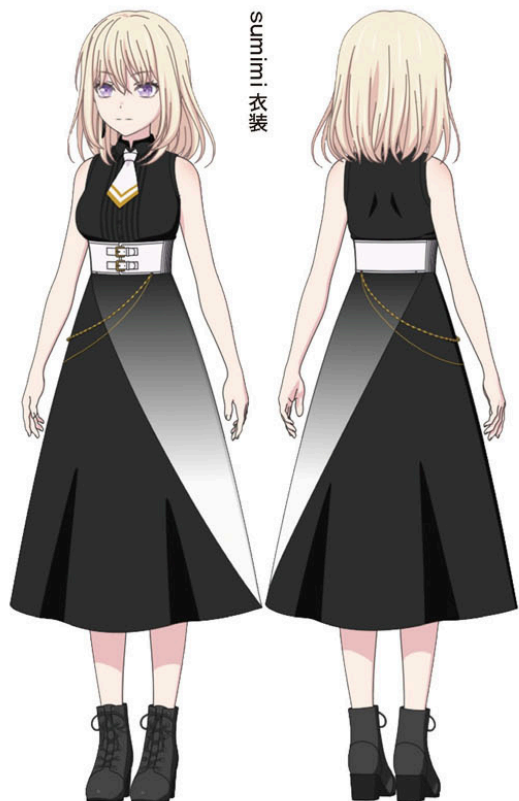


がっ にち ようび ()

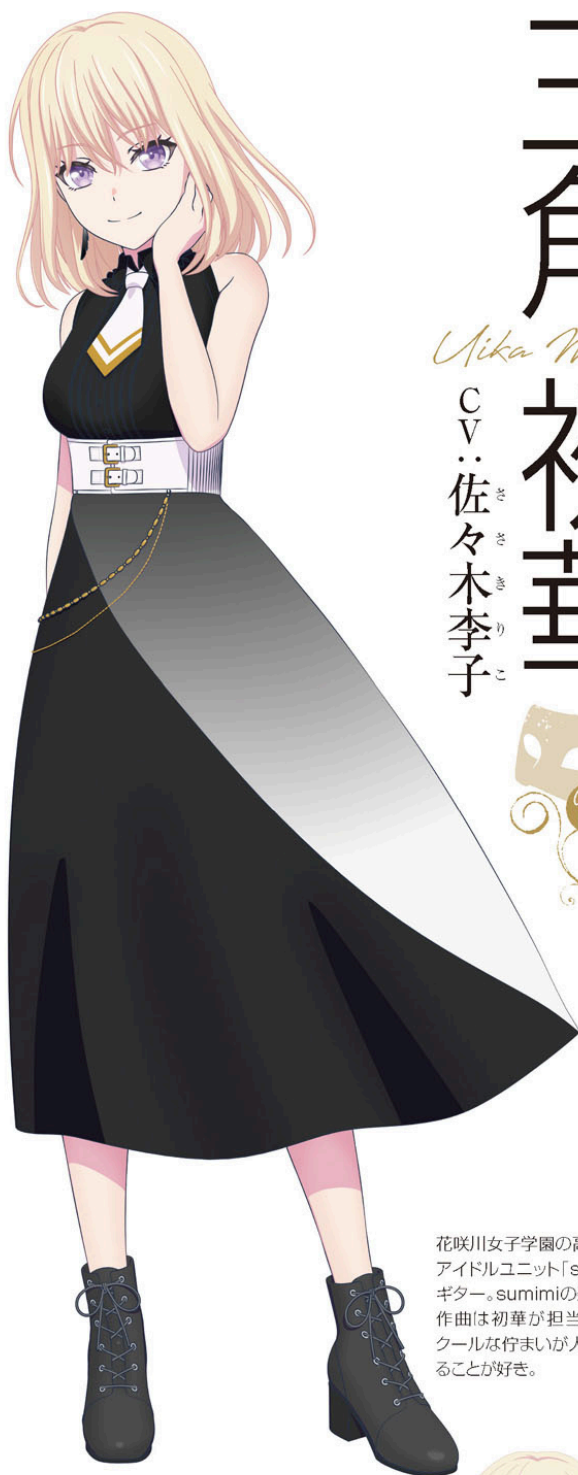
CHAPTER #4

MODEL SHEETS





sumimi衣装



三 角 初 華

Uika Misumi

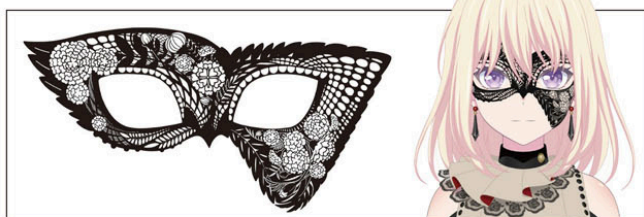
C.V. 佐々木李子

Doloris
ドロリス



ライブ衣装

花咲川女子学園の高校1年生。
アイドルユニット「sumimi」の
ギター。sumimiの楽曲の作詞
作曲は初華が担当している。
クールな佇まいが人気。星を見
ることが好き。

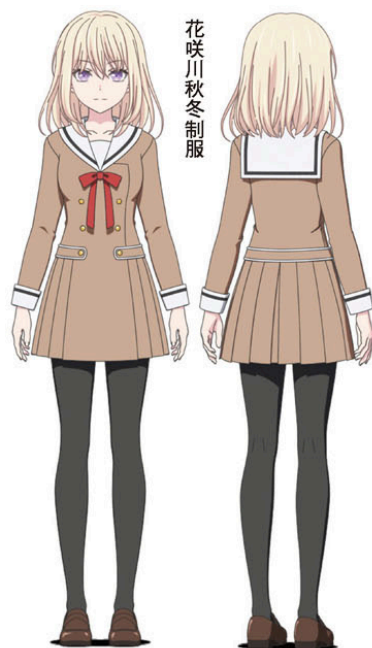




私服



花咲川夏制服



花咲川秋冬制服



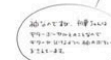
・首飾り類



・首飾り類のデザイン



・ベルト類



・髪飾り類



・アクセサリー類



・アクセサリー類



・アクセサリー類



・アクセサリー類



・アクセサリー類



・アクセサリー類

【正面】



【斜め背面】



【ブラウス参考】



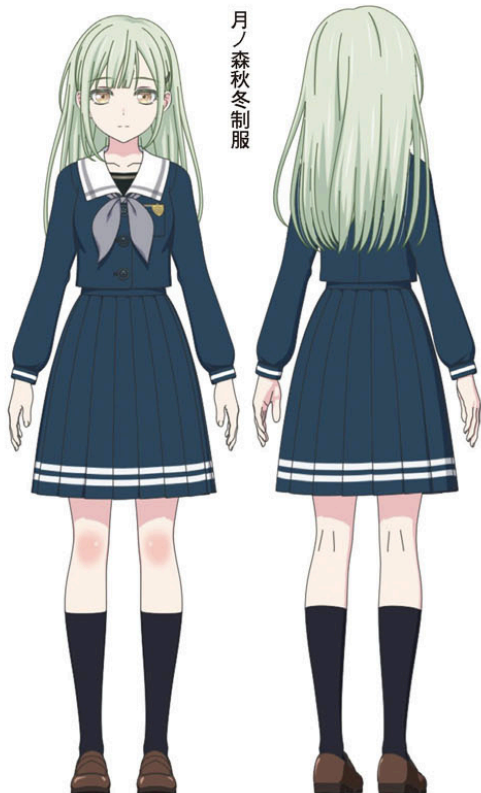
わかば
若葉

Mutsumi Wakaba

CV
渡瀬結月

おつみ
睦
Mortis
モーティス
Gt.

月ノ森秋冬制服

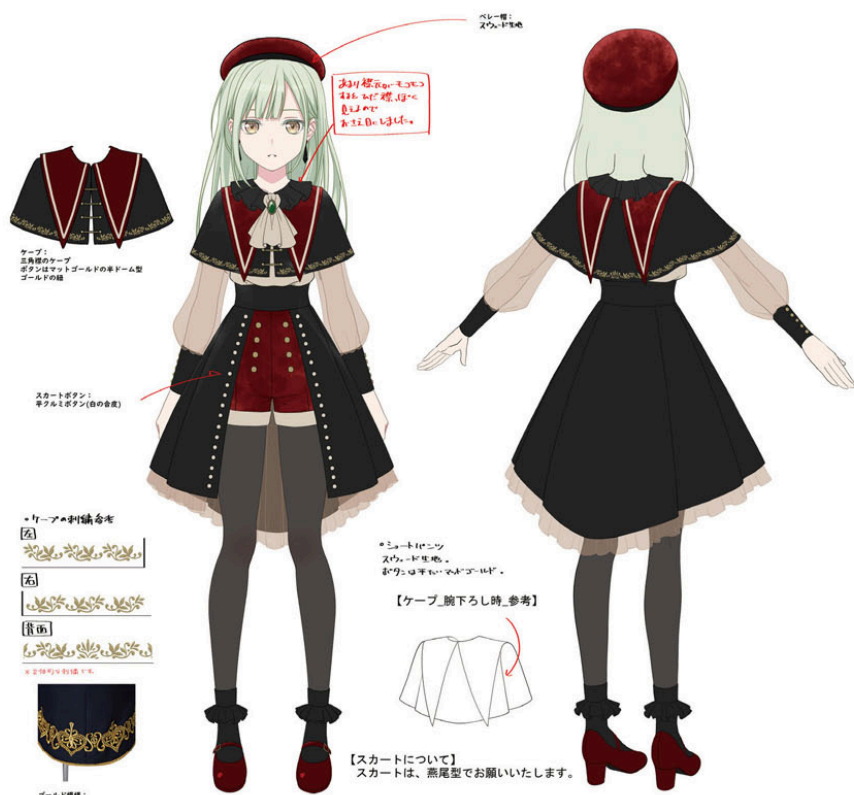
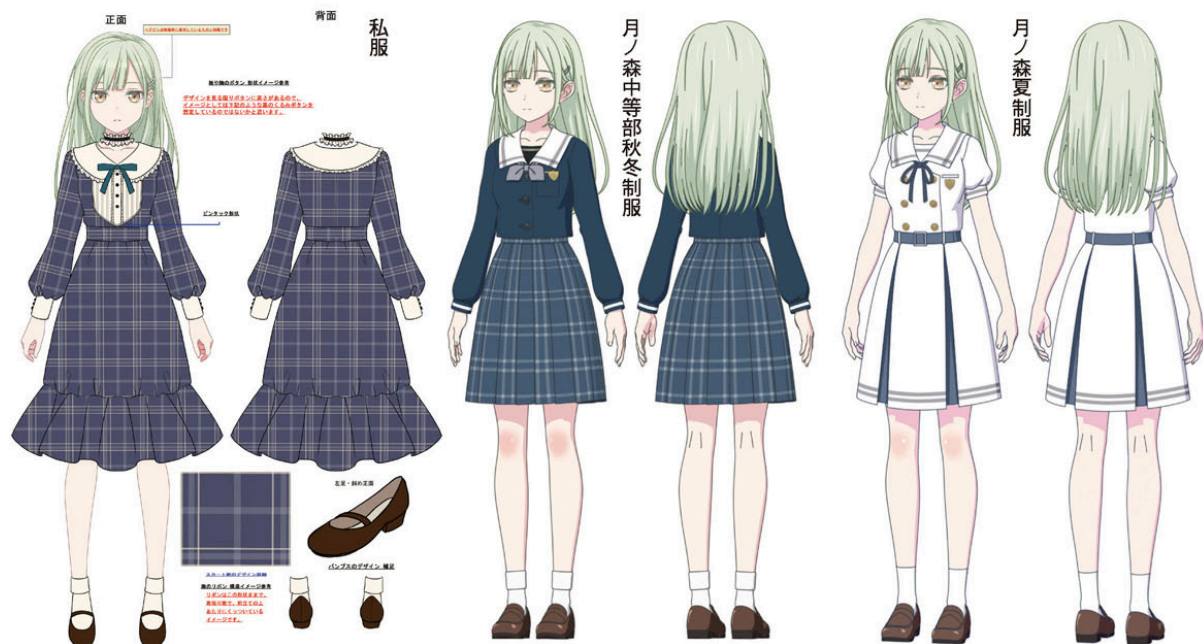


ライブ衣装



月ノ森女子学園の高校1年生。CRYCHICの元メンバーでギターを担当していた。感情表現が乏しく、基本的には無口。父は人気お笑い芸人の若葉、母は女優の森みなみ。





八幡

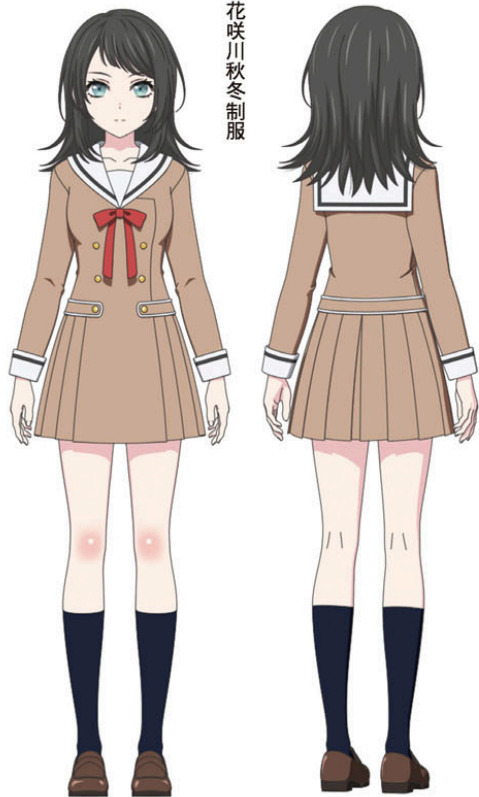
Umiri Yahata

C.V. 岡田夢以

海鈴

Timoris Ba. テイモリス

花咲川秋冬制服



ライブ衣装



花咲川女子学園の高校1年生。ベースの腕前はプロレベルで、サポートとして30のバンドを掛け持ちしている。立希とは同じクラスで、よくちょっかいをかけている。





花咲川夏制服



ボタン：
マットゴールドのドーム型

ブラウスボタン：
コットン素材のボタン

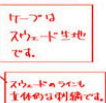
○刺繡參考



④ 主語が不明な場合。



ゴールド模様：
金の製錬



ブラウス袖部分：
柔らかなシフォン生地

【ハーフグローブ】
ナイロン素材です。

テープ部分：
ジャケットベストよりも柔らかな生地
ゴールドのラインは刺繍です

・キョウト参考

 $\cdot \overline{T}_i \overline{T}_i - 1 \in \mathbb{Z}_2$ 上の同値類

經目

・乗馬も、アウトイメージ

- ・ 4.2 ロットは 1 球は 2 球
- ・ 4.3 今 1 球は 1 球は 1 球は 1 球

同じ形状、2.4の質感で、

エポーレットのボタン：
マットゴールドの平たい
ボタン

サイハイブーツ：
あまり光沢のない
レザー
履き口は折り返し

祐天寺にやむ

Nyamu Yutenji

C.V. 米澤茜
よねざわ あかね

Amoris
Dr.
アモリス

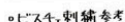
「にやむち」の愛称で人気上昇中の美容系動画投稿者。メイク動画がメインだが、「ドラマを叩いてみた」などのやってみた系など様々なジャンルに挑戦している。両利きでドラマの叩き方が派手で特殊。

私服



ライブ衣装





ゴールド模様：
金の刺繍

ショートパンツ：
しっかりとしたポリエステル素材の布地
選定はありません



ブラウス：
袖のシースルー部分は柔らかなシフォン生地
胸元はバリエーションのシースルー生地

【タン：
ワットゴールドのドーム型



お腹につけるタイプの
ガーターベルトになります。

ガーターベルト：
 あまり光沢のないレザー素材
 金具部分もヴィンテージ感のある
 マットゴールド



サイドフリル：
オーガンジー素材のフリル

悪魔ビスチェ：
しっかりとした厚手の布地
ボーンは柔らかめのものが側面に入っているイメージです

ニーハイストッキング：バックシームストッキング
ラインが入っています。透け素材です。

○くつ巻



アングルストラップヒール：
レザー素材

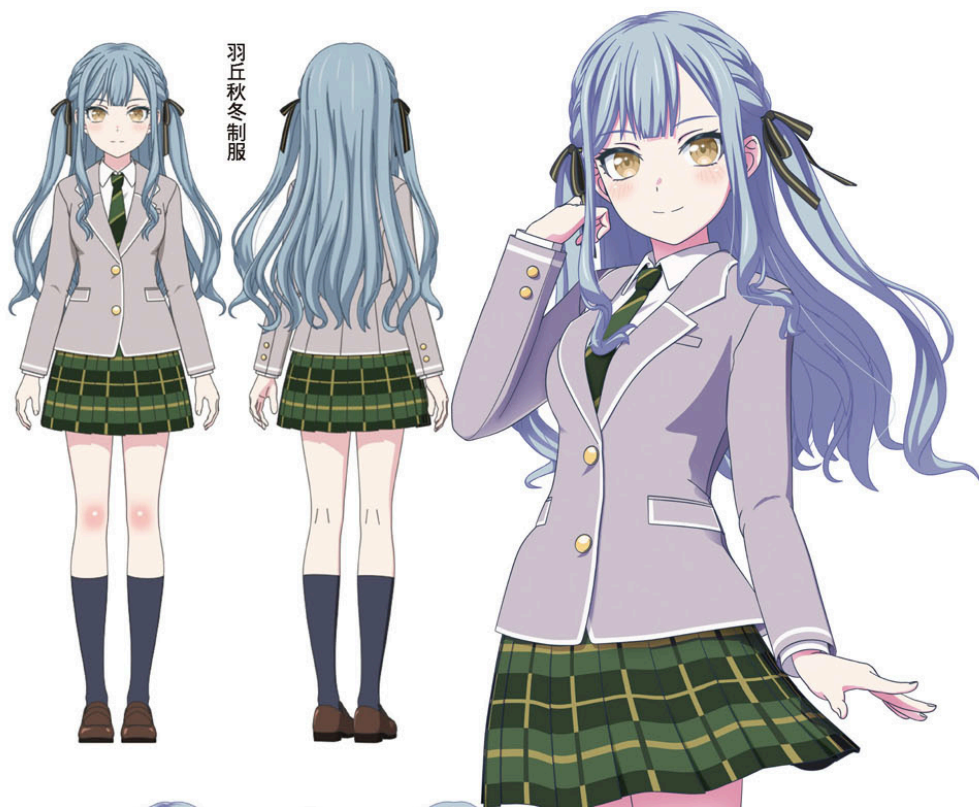


基本設定

▼ドラム（タム類）
dw Collector's Series®

▼シンバル

Paiste 2002kizai



羽丘秋冬制服

豊川 祥子

とがわ さきこ

Sakiko Togawa

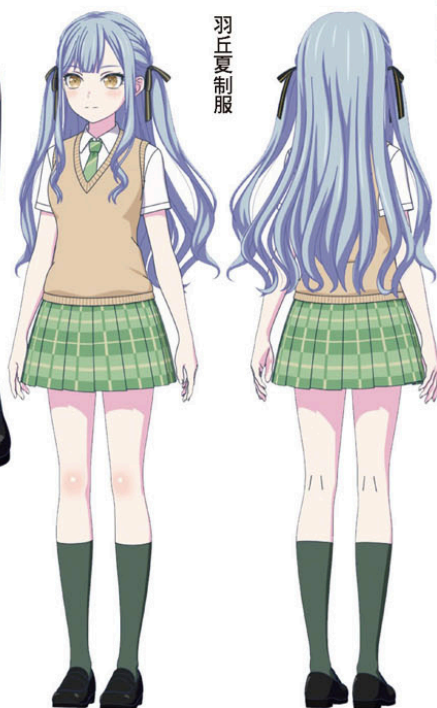
CV: 高尾奏音 たかおかのん

Key. Oblivionis オブリビオニス

羽丘女子学園の高校1年生。
CRYCHICの元メンバーで作曲とキーボードを担当していた。よく学校の音楽室でピアノを弾いている。



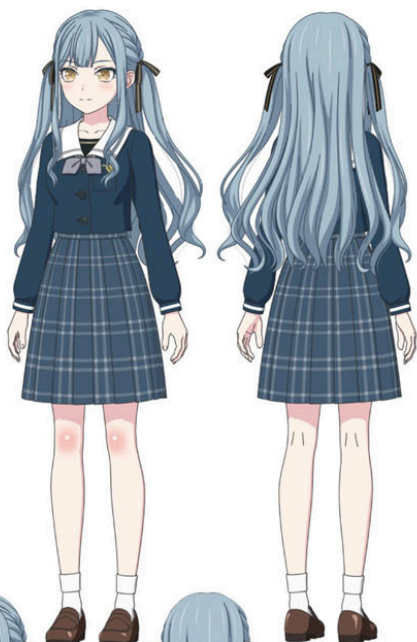
ライブ衣装



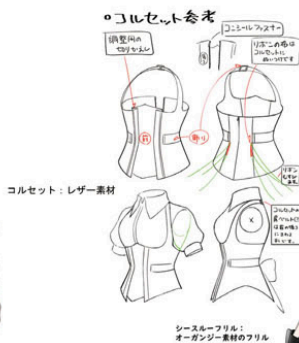
羽丘夏制服



月ノ森中等部秋冬制服



私服



コルセット：レザー素材

シースルーフリル：オーガンジー素材のフリル

【正面】



・アブラウス
ミルク素材で

・腰リボン：フリル
ミルクコルセット素材

・手袋
黒トイトゲ張りの
シール・素材

ブーツ：
つま先のゴールド部分は
ゴールドの合皮

【斜め背面】

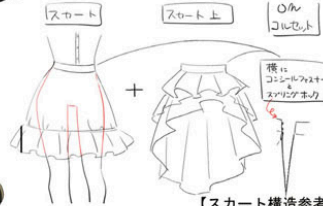


・スカート刺繍参考

スカート：
張りのある生地



ゴールド模様：
金の刺繍

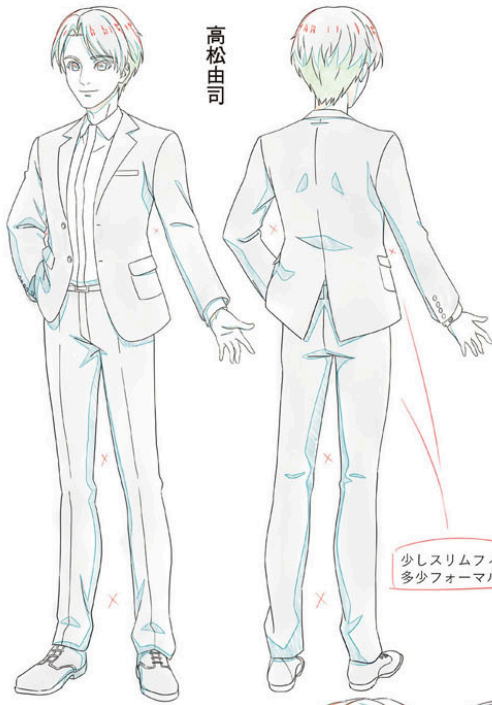


【スカート構造参考】



Other Characters

高松由司



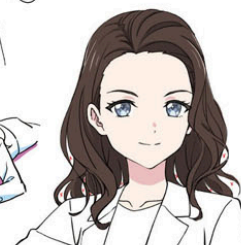
高松ひかり



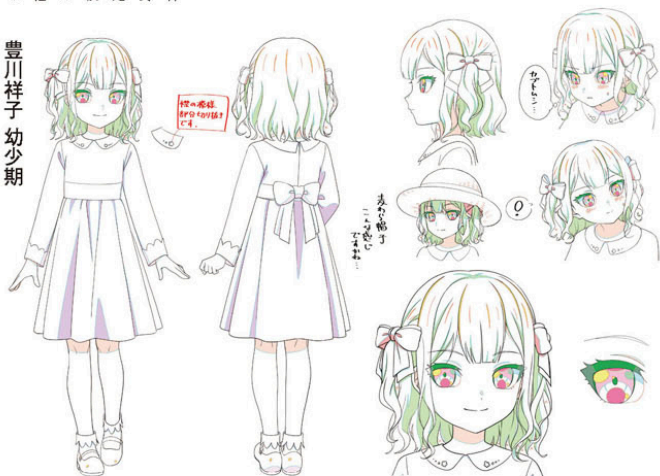
愛音の母



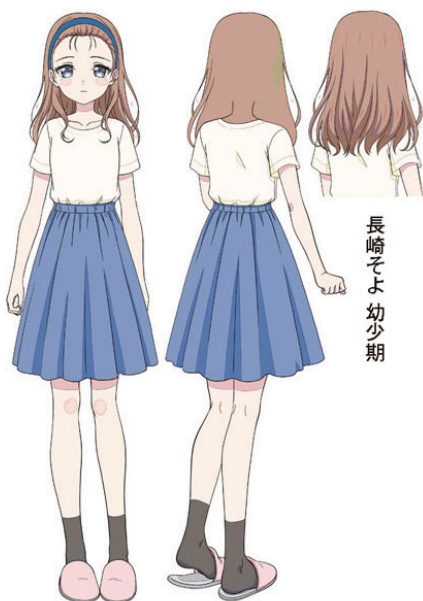
そよの母



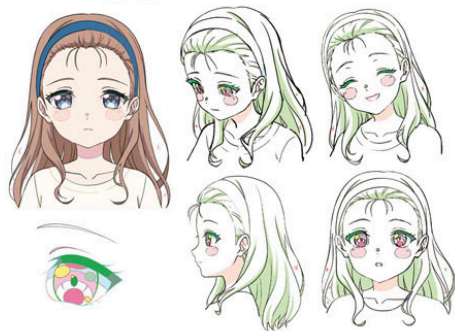
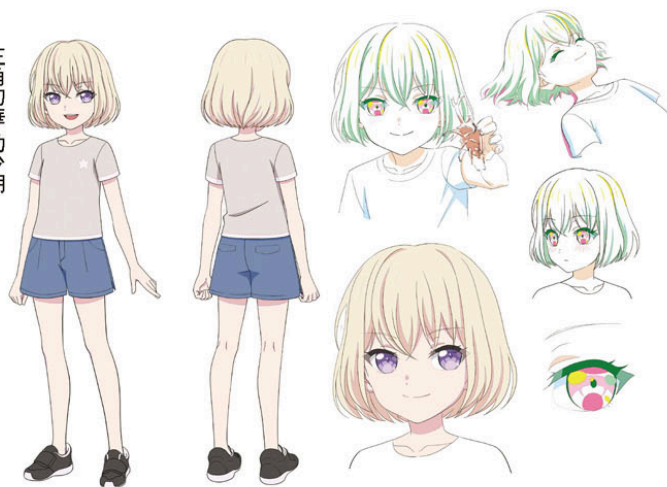
豊川祥子 幼少期



長崎そよ 幼少期



三角初華 幼少期



えり



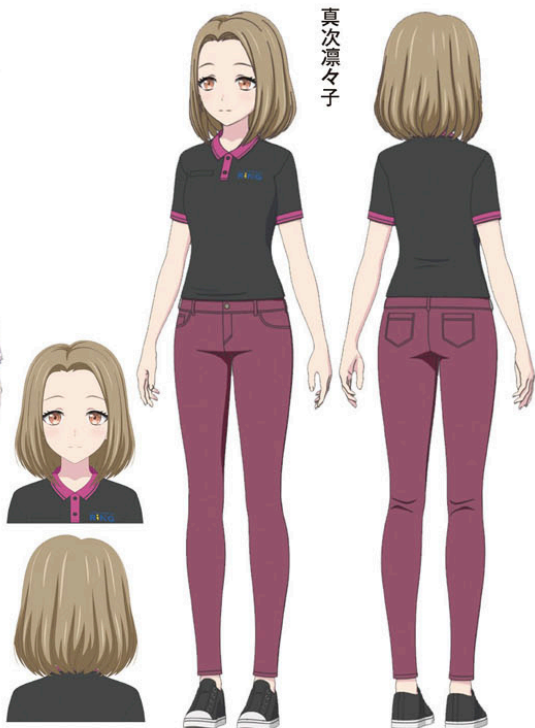
かなこ

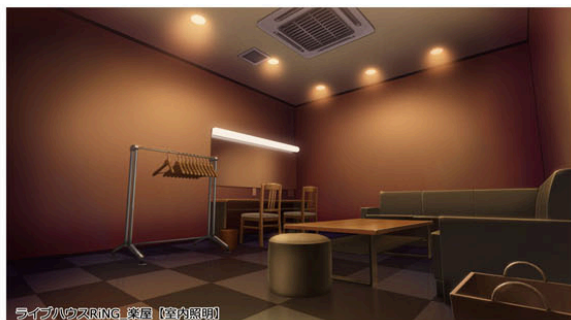


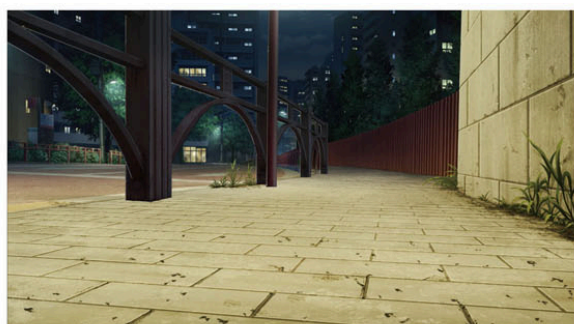
まい



真次凛々子





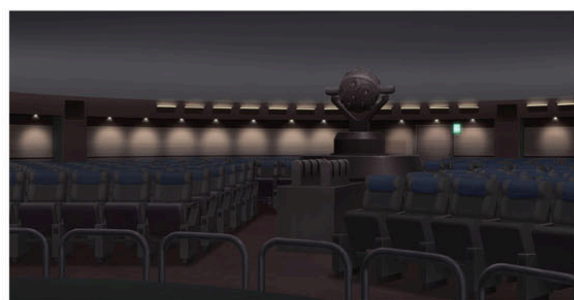


大階段



入口

Starlight Dome 月見草

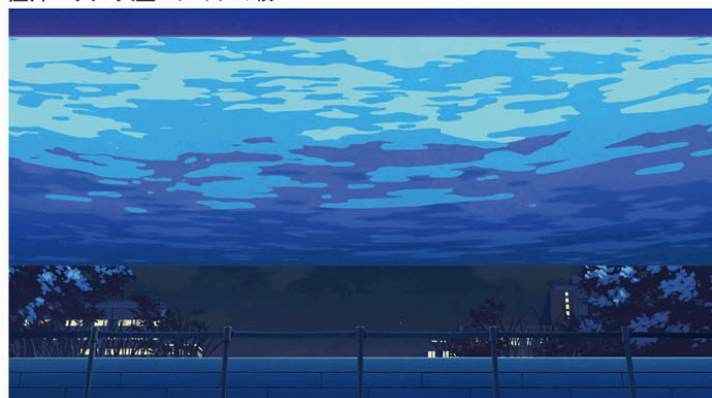


上映後



上映中

屋外エリア 天空ペンギンの前



空の森 いきもの水族館

屋外エリア 入口



原作
ブシロード

企画
根本雄貴 金子広孝 宇佐義大 矢田部行庸 松浦裕暁

プロデューサー
中野勇人 北澤史隆 呉 桐 金成雄文 瓶子修一

MyGO!!!!プロデューサー
日下亜美

アシスタントプロデューサー
高比良祐香 小西裕貴 宮原 恵 長尾知夏 高根寿美子

CAST

高松 燈	羊宮妃那
千早愛音	立石 凜
要 楽奈	青木陽菜
長崎そよ	小日向美香
椎名立希	林 鼓子

三角初華	佐々木李子
若葉 睦	渡瀬結月
八幡海鈴	岡田夢以
祐天寺にゃむ	米澤 茜
豊川祥子	高尾奏音

エンディングテーマ

「朧」
作詞 織田あすか (Elements Garden)
作曲・編曲 藤田淳平 (Elements Garden)
歌 MyGO!!!!!

オープニングテーマ

「朧零空」
作詞 藤原優樹 (SUPA LOVE)
作曲・編曲 hisakuni (SUPA LOVE)
歌 MyGO!!!!!

楽器協力

株式会社イー・エス・ピー
 株式会社サウンドハウス
 バール楽器製造株式会社
 株式会社モリダイラ楽器
 株式会社キョーリツコーポレーション
 シェクター・コーポレーション株式会社
 ローランド株式会社
 Boot leg
 BOSS
 Darkglass® Electronics
 Diezel
 Drum Workshop, Inc.
 EBS
 Electro-Harmonix
 Elixir® Strings
 FREE THE TONE
 HARTKE
 Jim Dunlop
 Laney
 LERNI
 Mad Professor Ampification Ltd
 MXR
 Paiste
 Peterson
 Roland
 SABIAN
 Seymour Duncan
 soldano
 SUPRO
 Vic Firth
 WAY HUGE

スペシャルサンクス

バンドリーダーの皆様

制作

BanG Dream! Project
 ブシロード
 TOKYO MX
 グッドスマイルカンパニー
 ホリプロインターナショナル
 ウルトラスーパービクチャーズ

撮影監督

奥村大輔

美術監督

山根左帆 対馬里紗

美術設定

成田偉保

編集

日高初美

音響監督

柿本広大

音楽プロデューサー

吉村秀至
 (ブシロードミュージック)

音楽

藤田淳平
 (Elements Garden)
 藤間 仁
 (Elements Garden)

音楽ディレクター

緒方航貴
 (ブシロードミュージック)
 札ノ辻泰紀
 (エースクルー・エンタテインメント)

音楽制作

ブシロードミュージック
 エースクルー・エンタテインメント

アニメーションプロデューサー

保住昇汰

アニメーション制作

サンジゲン

ロゴデザイン

内古閑智之

校章デザイン

CHProduction

衣装デザイン

Craft Egg

シリーズ構成

綾奈ゆにこ

脚本

綾奈ゆにこ 後藤みどり
 小川ひとみ 和場明子 晴日たに

キャラクター原案

ひと和 植田和幸

キャラクターデザイン

Craft Egg

アニメーションキャラクターデザイン

茶之原拓也 八森優香
 Shin Joseqh

CGスーパーバイザー

奥川尚弥

モデリングディレクター

武内泰久 寺林 寛

リギングディレクター

矢代奈津子 柏木 亨

色彩設計

北川順子

TVアニメ
「BanG Dream! It's MyGO!!!!!」
official guidebook
FOOTPRINTS

2024年4月29日 初版発行

原作

ブシロード

カバーイラスト

株式会社サンジゲン

編集

高山紗良

齋藤 幹

編集協力

佐藤 心

デザイン

村木茂直

ボイスドラマCD 音響制作

株式会社ブシロードムーブ

ボイスドラマCD 印刷・製造

株式会社エス・ワイ・エス

監修

中野勇人

高比良祐香

田端桃果

耿 野川

株式会社サンジゲン

発行・発売

株式会社ブシロードワークス

印刷・製本

東洋紙業株式会社

©BanG Dream! Project

NexTone PB000054745号

本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上の例外を除き禁じられています。
また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内の利用であっても一切認められておりません。
ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。
製品不良に関する問い合わせは、ブシロードワークスお問い合わせ(<https://bushiroad-works.com/contact/>)までご連絡ください。

